

履修の手引き
健康科学部

学生便覧

—履修の手引き—

この学生便覧は、東北福祉大学での学業を進めるうえで重要なことをまとめたガイドブックです。入学から卒業まで充実した学生生活を送るために活用してください。まずは本書をよく読んでみましょう。よくわからないことがあれば、リエゾンゼミの担当教員もしくは教務課へ相談してください。

この冊子は、正課の授業を含めた東北福祉大学での学修について必要な概要をまとめたものです。該当する本学ホームページやUNIPAをあわせて参照しながら、ぜひ全体をご一読ください。

CONTENTS

学内ポータルシステムUNIVERSAL PASSPORT …	2	(2) 国家試験受験資格 ……………	45
		(3) 保健看護学科 科目一覧 ……………	45
		(4) 履修モデル ……………	48
		(5) 実習 ……………	56
		(6) その他の資格 ……………	61
A 窓口案内		3 リハビリテーション学科……………	62
1 窓口一覧 ……………	4	(1) 理学療法学専攻 ……………	62
2 構内図 ……………	6	(2) 作業療法学専攻 ……………	69
		(3) その他の資格 ……………	76
B 諸手続き		4 医療経営管理学科 ……………	77
1 各種証明書 ……………	12	(1) 救急救命士国家試験受験資格 ……	80
2 通学定期乗車券 ……………	13	(2) 診療情報管理士 ……………	83
3 学割証 ……………	14	(3) その他の資格 ……………	86
4 休学・復学・退学 ……………	14	5 リエゾンゼミ I～IV ……………	95
5 転学部・転学科・転籍・移行 ……………	16	6 卒業研究 ……………	96
6 学費・奨学金・経済支援 ……………	17		
		F 応用福祉学関係教育課程 ……………	97
C 学修の各種ルール		G 数理・データサイエンス	
1 学年暦・授業日程 ……………	22	AI教育プログラム認定制度 ……	105
2 卒業要件 ……………	22	H 仏教専修科 ……………	107
3 シラバス ……………	23	I 就職試験対策講座等 ……………	109
4 履修登録と履修計画 ……………	23	J 各種制度	
5 受講上の注意と教室 ……………	26	1 学都仙台単位互換ネットワーク ……	112
6 試験 ……………	27	2 学内単位互換 ……………	112
7 成績・評価 ……………	28	3 海外留学 ……………	112
8 休講・補講 ……………	29	4 卒業延期制度 ……………	112
9 緊急時における授業の取り扱い ……	30	5 長期履修学生制度 ……………	112
10 授業の欠席 ……………	30	6 科目等履修生・聴講生・研究生・外国人留学生 ……	112
11 その他 ……………	31		
12 問い合わせ先 ……………	32	K よくある質問 ……………	115
D 基盤教育科目・全学実践科目		学則・関係諸規程一覧 ……………	117
1 授業科目 ……………	34		
2 基盤教育科目 ……………	36		
3 全学実践科目 ……………	37		
4 履修上の特例措置 ……………	38		
E 学科教育課程・資格教育課程			
1 取得可能な資格一覧 ……………	41		
2 保健看護学科 ……………	42		
(1) 看護師・保健師・助産師 ……	44		

学内ポータルシステム UNIVERSAL PASSPORT (通称：UNIPA)

UNIPAは、授業に関するお知らせや履修登録、成績の確認等の様々な学務のほか、オンラインでの授業配信やテスト等の教育支援を行う統合学生支援システムです。スマートフォン用アプリもあり、お知らせ等をプッシュ通知機能で受け取ることも可能です。

本学から学生への皆さんへの連絡はUNIPAを介して掲示され、掲示した事項はすべて周知したものと扱い、掲示を見逃したために生じる不都合、不利益は本人の責任となります。毎日必ず、自発的にUNIPAへアクセスし、掲示内容を確認する習慣を身につけてください。

設定・利用方法等は「学内システムスタートアップガイド」をご確認ください。

機能一覧

- ・ポータル機能（掲示確認、スケジュール管理、アンケート回答、学籍情報の変更等）
- ・学務機能（履修登録、時間割表、成績照会、シラバス照会、授業評価回答等）
- ・授業機能（授業動画閲覧、課題提出、授業資料、テスト、出欠状況確認等）
- ・学修ポートフォリオ機能、就職関連機能（求人検索、進路希望調査、就職活動報告等）

※ 学外からUNIPAを利用するには、東北福祉大学Single Sign-On(TFU SSO)の事前設定が必要です。設定方法は、ICT支援室特設サイト (<https://sites.google.com/tfu-mail.tfu.ac.jp/icttop/top>) の「学外からTFU SSOへアクセスする場合の事前設定について」を参照してください。

窓口案内



1 窓口一覧

(1) 国見キャンパス内窓口一覧 ※事務局業務は、原則として平日のみとなります
 開講期間：8:30-18:00 開講期間外：8:30-17:30

部署		業務内容	電話番号等
1号館	1階	教務課	履修・授業・試験・成績等、学業に関する相談 022-717-3315
		福祉実習支援室	社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護職員 初任者研修・レクリエーションインストラクター・ス クールソーシャルワーカー資格に関する相談 022-301-1195 (社会福祉士・SSW) 022-301-1279 (精神保健福祉士・介護福祉士)
		教職課程支援室	教職課程、保育士、教員採用に関する相談 022-301-1196
	地下1階	学生支援課	学生生活・課外活動、奨学金、遺失物、身上変更届(学 生氏名・本籍地・保証人・保証人住所等変更)等 022-717-3314 (学生支援担当)
			国際交流・留学・海外研修に関する支援、留学説明会 の開催、外国人留学生との繋がりがづくり ※2 022-301-1296 (国際交流担当)
		キャリアセンター	キャリア・進路相談、公務員受験、インターンシップ 等に関する相談 022-717-3316
		生涯学習 ボランティア支援課	ボランティア紹介・受付・相談に関すること 022-717-3321 (ボランティア担当) 生涯学習、福祉用具専門相談員に関すること 022-766-8834 (生涯学習支援担当)
2号館	健康管理課	健康相談、応急処置、ハラスメント相談等 022-717-3372 (保健室)	
		身体の障がいに伴う支援の相談 022-301-1291 (障がい学生担当)	
	学生相談室	「心の健康」や「自己の成長」に関する相談 (平日のみ) 9:00-12:30、13:30-17:00 022-207-1895	
その他	美術工芸館	工芸館見学、館内学修スペースの利用に関すること 022-717-3318	
	実学臨床教育推進室	実学臨床教育に関する相談 022-717-3359	
	ICT支援室	貸与PC、学内システムに関する相談、授業に関する 印刷 022-301-0201	
	図書館 ※3	図書館の利用に関すること 022-717-3319 (図書館カウンター)	
	入学センター	オープンキャンパス、入試相談 022-717-3312	
	Fショップ	学生総合補償制度、アルバイト紹介等 022-233-3411	
	BOOKセンター国見堂	教科書販売に関すること (平日) 17:00まで 022-271-8979	
管理棟	総務課	同窓会に関すること 022-717-3311	
	PR課	広報活動・ホームページに関すること 022-717-3345 (広報係) 022-717-3302 (情報係)	
		施設管財課	施設、設備、災害時の安否確認、AEDに関すること 022-301-0600
	財務課	授業料の納付、延納手続きの相談 (平日) 17:30まで 022-717-3313	

※2



※3 図書館の開館時間 (下記以外は休館・休室日です。)

場所	開講期間	開講期間外
本館	平日 9:00-19:00	平日 9:00-17:00
	土曜 9:00-17:00	
分室	平日 11:00-18:00	平日 11:00-17:00

※最新情報、資料の検索はQRコードから
確認してください。

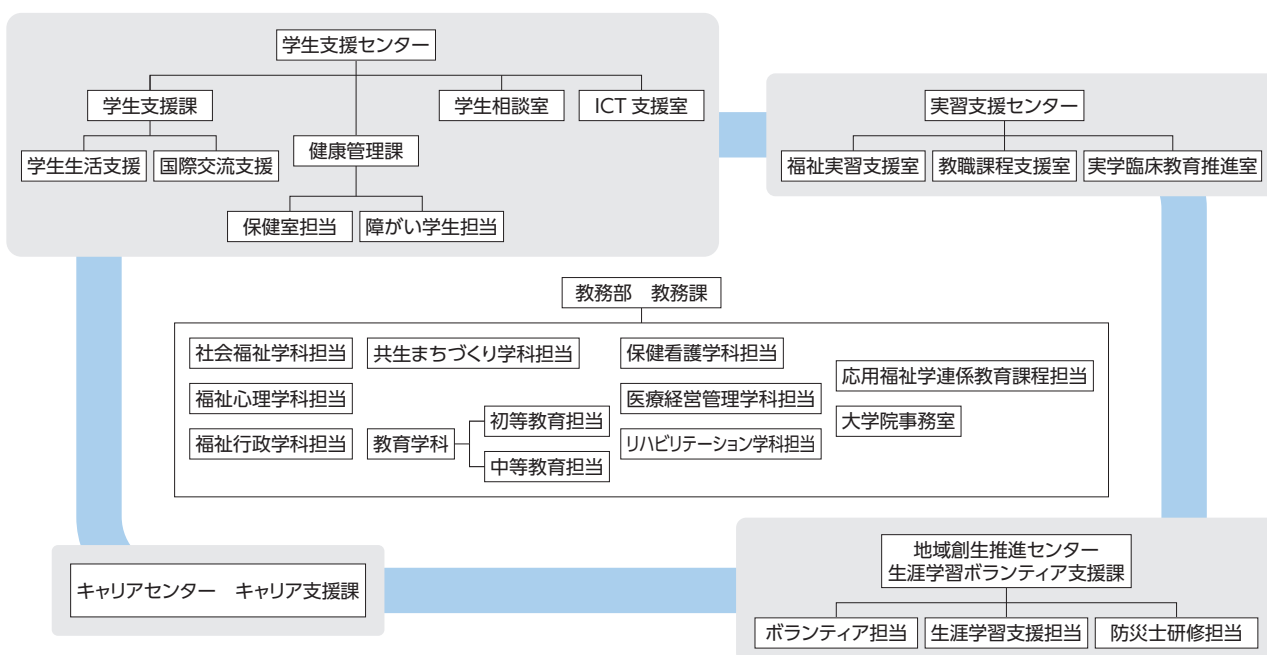


(2) その他のキャンパス等

部署	業務内容	電話番号	備考
ステーションキャンパス事務室	ステーションキャンパスの事務全般	022-728-6611	教務課に準ずる
教務部・大学院事務室	リハビリテーション学科に関する業務	022-727-2255	教務課に準ずる
	大学院に関する業務	022-727-2288	
仙台駅東口キャンパス事務室	東口キャンパスにおける業務全般	022-766-8833	8:30-17:30 (土日祝も開館)
通信教育事務部	通信教育課程への転籍に関する相談	022-292-8011	平日(水曜除く) 9:00-17:00
予防福祉クリニック	内科、健康診断、抗体検査、予防接種	022-727-2266	平日9:30-16:15
せんだんホスピタル	精神科・内科・児童精神科	022-303-0125	平日8:30-11:00、13:00-16:00

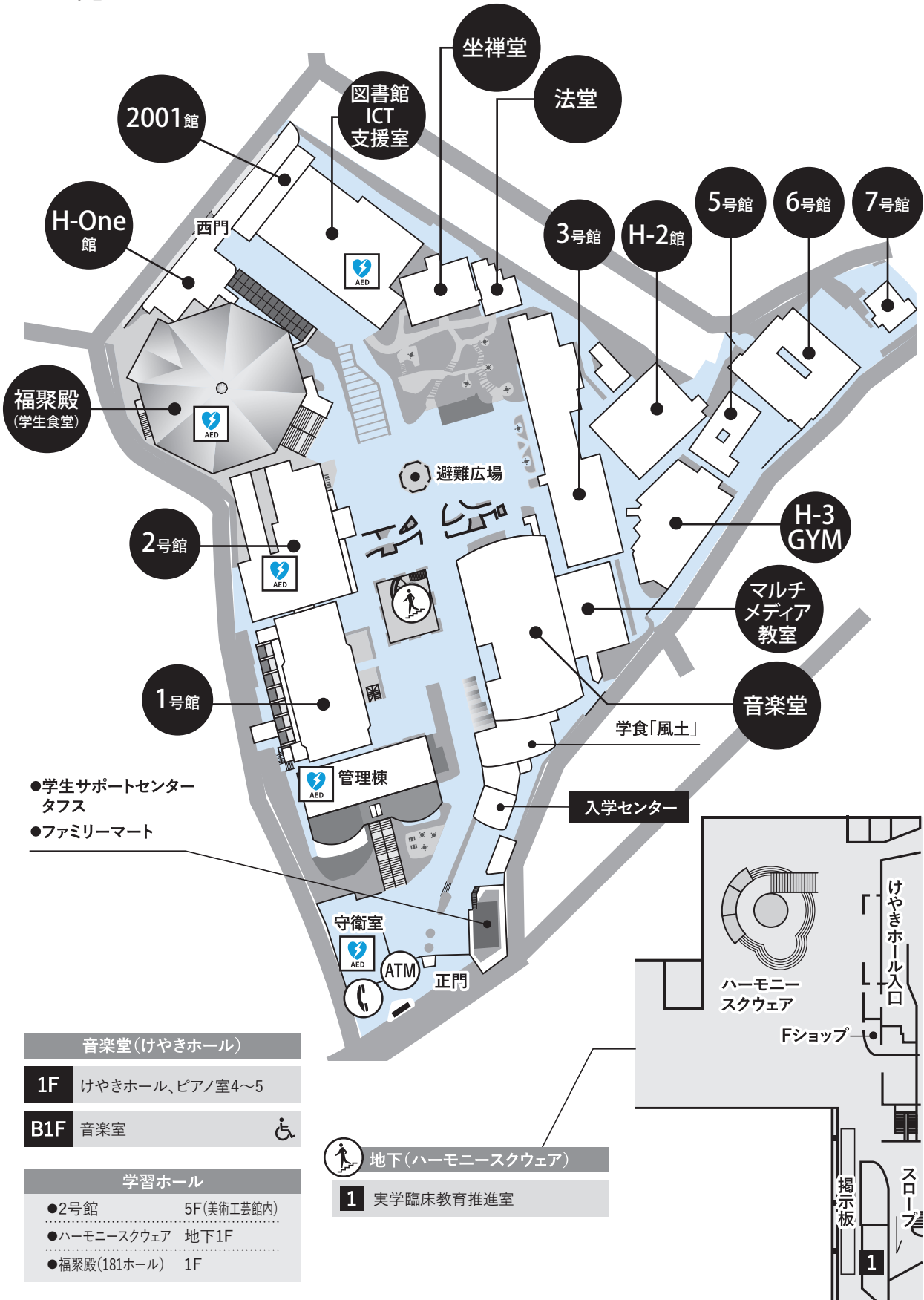
※ 開館日時が変更になる場合がありますので、ホームページやUNIPAで最新情報を確認してください。

(3) 学修上における学生支援



2 構内図

■ 国見キャンパスマップ



1号館		
6F	大教室	男女 輪
5F	研究室 57~73、75~76、136~147	男女 輪
4F	140、第1~4演習室、研究室38~56	男女 輪
3F	130、131、研究室20~37、74	男女 輪
2F	120、121、122、LCSR 研究室1~19	男女 輪
1F	教務課、福祉実習支援室、教職課程支援室	男女
B1F	キャリア支援課、学生支援課、国際交流、生涯学習ボランティア支援課	男女 輪 AED

2号館		
6F	美術工芸館	
5F	美術工芸館、受付	
4F	研究室85~89、128~129、福祉心理学研究室、行動実験室、集団実験室	男女 輪
3F	230、231、232、第16~22演習室	男女 輪
2F	220、221、第11~15演習室 観察室1・2、面接治療室1・2 研究室82~84、97~98	男女 輪
1F	健康管理課、学生相談室、非常勤講師控室、美術工芸館入口	男女 輪 AED

3号館		
4F	340、341、342	男女
3F	330、331、332、333	男女 輪
2F	320、321、322、323	男女 輪
1F	310(介護実習室)、311、312、313(リトミック室)	男女 輪 AED

7号館		
3F	研究室150~152	
2F	面接室(2)・(3)	
1F	面接室(1)	

5号館		
3F	第9演習室、研究室110~116	男女
2F	第8演習室、研究室102~105、107~109	男女
1F	理科実験室、第6、7演習室	男女 輪

H-2 館		
3F	看護シミュレーション実習室、看護多目的実習室1、看護技術実習室1、研究室149	男女
2F	看護技術実習室2、看護実習準備室、ピアノ室3、研究室134~135、156	男女
1F	家政実習教室(調理教室・被服)、看護多目的実習室2、看護多目的実習室3	男女 輪

6号館		
5F	651、652、研究室121~125	男女 輪
4F	641、642、合同研究室(643) 研究室117~120	男女 輪

管理棟		
2F	財務課	
1F	総務課、PR課、企画課 施設管財課	AED

AED設置場所	
[国見キャンパス]	
●	正門守衛室
●	学生支援課
●	管理棟 1F
●	健康管理課
●	福聚殿 2F
●	図書館 2F
[その他のキャンパス]	
●	ステーションキャンパス 3F事務室前
●	ウェルコム21 1F教務部・大学院事務室前
●	仙台駅東口キャンパス 1F正面入口
●	トレーニングセンター
●	野球場
●	陸上競技場

H-One 館		
4F	研究室101	
3F	情報福祉研究室、研究室130~132	
2F	研究室127	男女
1F	ホール	

図書館		
3F	カウンター、閲覧室	男女 輪
2F	閲覧室、AVコーナー 集団学習室、事務室	男女 輪 AED
1F	ICT支援室、国見堂	

2001 館		
4F	研究室91~95	男女
3F	2131、2132	男女 輪
2F	2121、2122	男女 輪

H-3GYM		
卓球場、研究室80~81		

福聚殿		
3F	ギャラリー、トレーニングルーム、体育教官室	
2F	アリーナ、研究室126	男女 輪 AED
1F	学生食堂、181ホール (学習ホール、ピアノ室1~2)	男女 輪

バリアフリートイレ	
●1号館	2F-6F
●2号館	1F-4F
●3号館	1F-3F
●5号館	1F
●6号館	4F、5F
●H-2館	1F
●福聚殿	1F(181ホール)、2F
●2001館	2F、3F
●図書館	2F、3F
●けやきホール	地下1F

オストメイト対応トイレ	
●3号館	1F

■ 連絡通路

※ ピアノ室3は、H-2館を正面にして左方向に進行、階段を上がるとあります。

■ その他、キャンパスマップ

■ ステーションキャンパス



ステーションキャンパス館		
8F	国際交流ホール	男女 障害
7F	S700、S701、S702、S703、S704、S演習室8、研究室7～10・15	男女 障害
6F	S600、S601、S602、S603、S604、S演習室7	男女 障害
5F	S500、S501、S502、S演習室5、S演習室6、研究室1～6、教員控室	男女 障害
4F	S400、S401、S402、S403	男女 障害
3F	S300、S301、ステーションキャンパス事務室、学生ホール、ステーションキャンパス食堂	男女 障害 AED
2F	S200、S201、S演習室1、S演習室2、S演習室3、S演習室4、研究室11～14、予防福祉クリニック	男女 障害
1F	駐車場	男女

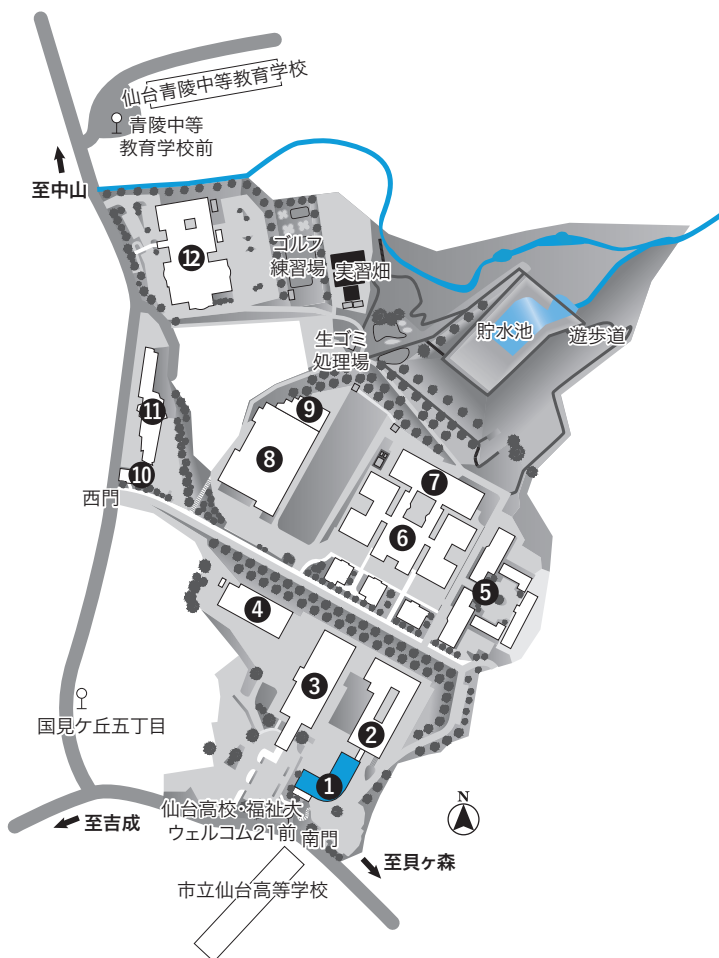
■ 北山キャンパス ※工事のため使用できません。



多目的運動場

※スポーツの授業で利用する
学生は場所に注意

国見ヶ丘第一キャンパス

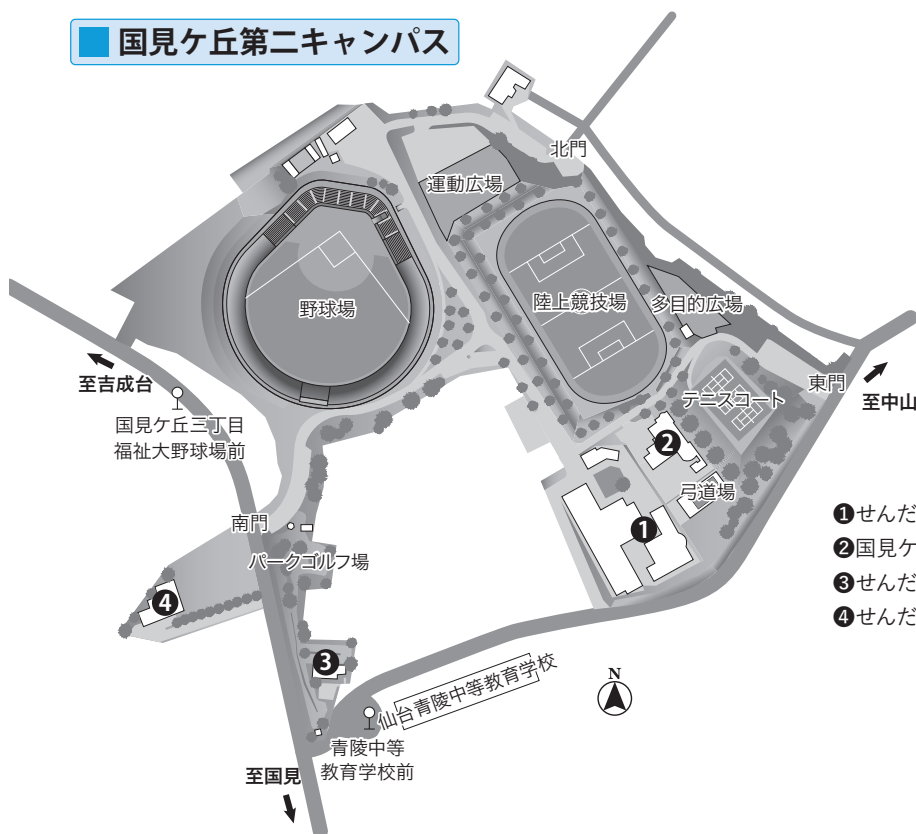


ウェルコム21(リハビリテーション学科・大学院)

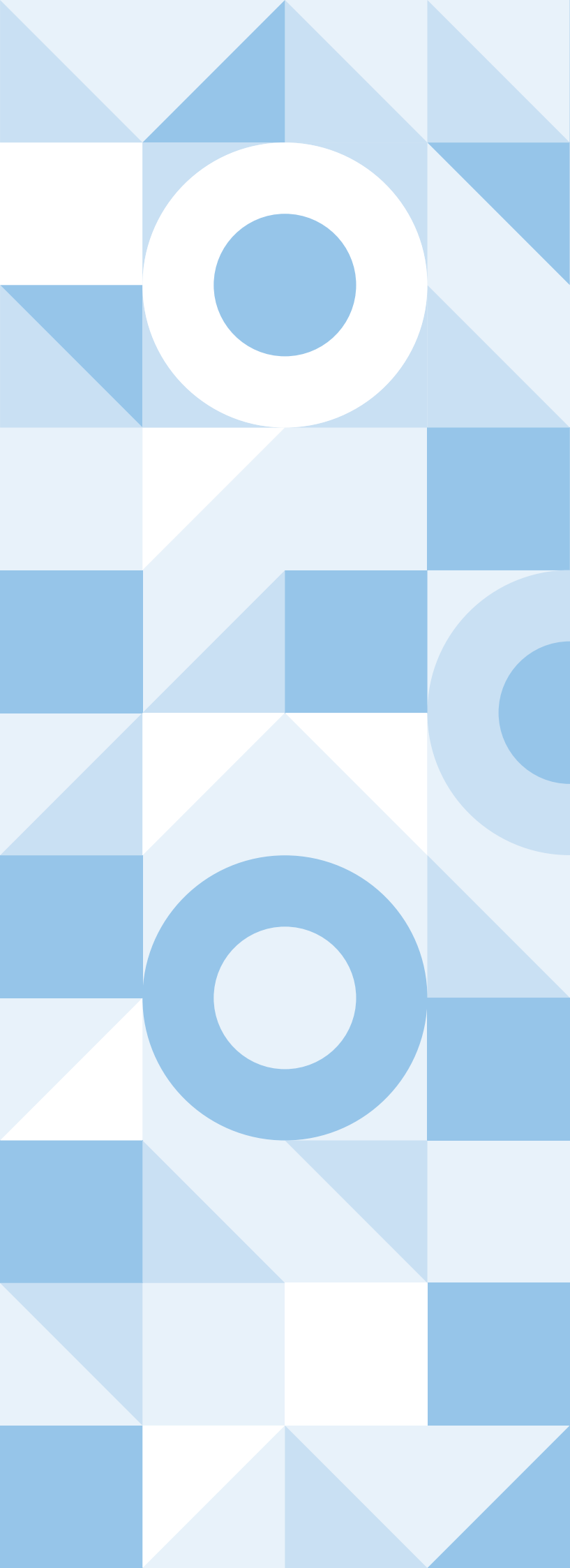
6F	食堂(空風土)、軽食販売機	♂ ♀ ♿
5F	大学院講義室、演習室1~4、 大学院合同研究室	♂ ♀ ♿
4F	作業実習室(1)・(2)、レクリエーション室 日常動作訓練実習室、学習室	♂ ♀ ♿
3F	理学療法実習室(1)・(2)・(3)、 装具加工実習室、測定室、学習室	♂ ♀ ♿
2F	基礎医学実習室、図書館分室、 更衣室	♂ ♀ ♿
1F	多目的ホール(百年塾)、 教務部・大学院事務室、保健室、 学生相談室、更衣室、水治療室	♂ ♀ ♿ AED

- ①ウェルコム21(リハビリテーション学科・大学院)
- ②感性福祉研究所
- ③せんだんの丘
- ④エネルギーセンター
- ⑤実学教育寮(喜心寮)
- ⑥せんだんの里
- ⑦認知症介護研究・研修仙台センター
- ⑧トレーニングセンター(全天候型体育館)
- ⑨武道場(武徳館)
- ⑩スロヴェニア記念館
- ⑪雄翔館
- ⑫せんだんホスピタル

国見ヶ丘第二キャンパス



- ①せんだんの杜
- ②国見ヶ丘せんだんの杜保育園
- ③せんだんの家
- ④せんだんの里



諸手続き



1 各種証明書

(1) 各種証明書発行

証明書は、証明書自動発行機による交付と窓口による交付があります。

証明書自動発行機（1号館1階エレベーター前、ステーションキャンパス3階）による発行には、学生証とUNIPAのパスワードが必要です。パスワードが20桁以上の方は自動発行機では発行できませんので、各種窓口で申請してください。

証明書自動発行機稼働時間	
開講期間（平日のみ）	8:40-18:00
開講期間外（平日のみ）	8:40-17:00

- ※ 左記以外の時間は、窓口営業時間内に限り窓口で受け付けます。
- ※ 厳封が必要な場合は、教務課窓口にお申し出ください。
- ※ 授業料その他納付金未納者には証明書の発行はいたしません。
- ※ 一度納入した手数料は、事由の如何に関わらず返金いたしません。
- ※ 窓口で発行する場合は、教務課前の販売機で「証紙」を購入してください。

種別	手数料 ※1	申込先
在学証明書	100円	証明書自動発行機
卒業見込証明書 ※発行できるのは、3年修了時点で卒業要件90単位以上単位習得済みの場合	100円	
単位修得学業成績証明書	300円	
健康診断証明書	300円	
任用資格取得見込証明書 ※取得見込が出た任用資格を1枚の用紙に印字 社会福祉主事任用資格取得見込証明書 児童指導員任用資格取得見込証明書 知的障害者福祉司任用資格取得見込証明書 心理判定員任用資格取得見込証明書	100円	
身体障害者福祉司任用資格取得見込証明書	100円	
社会福祉士受験資格取得見込証明書	100円	
精神保健福祉士受験資格取得見込証明書	100円	
介護福祉士受験資格取得見込証明書	100円	
保育士資格取得見込証明書	100円	
看護師受験資格取得見込証明書	100円	
保健師受験資格取得見込証明書	100円	
助産師受験資格取得見込証明書	100円	
理学療法士受験資格取得見込証明書	100円	
作業療法士受験資格取得見込証明書	100円	
救急救命士受験資格取得見込証明書	100円	
教員免許状取得見込証明書	100円	
司書資格取得見込証明書	100円	
司書教諭取得見込証明書	100円	
在籍期間証明書	100円	
学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）	無料	
学生証再発行申請書 ※発行機で受付後、申請書を学生支援課窓口へ提出	1,000円	
仮学生証	300円	

種別	手数料 ※1	申込先
英字各種証明書 ※発行まで約1週間	600円	教務課
学力に関する証明書	600円	教職課程支援室
社会福祉士指定科目履修見込証明書（国家試験受験用）	300円	福祉実習支援室
精神保健福祉士指定科目履修見込証明書（国家試験受験用）	300円	
通学証明書 ※2 （科目履修生・聴講生・研究生のJR通学証明書は不可）	無料	学生支援課
人物証明書 ※原則、本人との面接後に作成・発行	100円	キャリアセンター
推薦書	100円	
希望実習依頼状	100円	

※1 手数料が変更になる場合があります。

※2 定期券購入に必要な証明書です。次の「2 通学定期乗車券」をご一読ください。

2 通学定期乗車券

(1) 通学定期乗車券

発行区間は「現住所から大学までの最短区間」で、通学以外の目的での購入はできません。発行後1ヶ月以内の「通学証明書」と「学生証」を持参し、各機関の定期券販売所で購入してください。

※ 定期券を新規購入または新年度初めて購入する際は、「通学証明書」（下記①）が必要になります。

※ 「学都仙台市バス・地下鉄フリーパス」（下記②）は、利用区間によって通学定期券よりも低価格で、希望路線乗り放題、買い物等の通学以外の目的にも利用でき、「学生証」の提示で購入できます。

① 通学証明書

通学で利用するJR、仙台市営バス・地下鉄、その他交通機関の定期乗車券（発行区間は「居住地の最寄駅から大学の最寄駅まで」）を新規購入または新年度初めて購入する際に必要です。通学証明書発行後1ヶ月以内に、学生証を持参のうえ定期券販売所で購入してください。

② 学都仙台市バス・地下鉄フリーパス

市営バス・地下鉄が乗り放題で、利用区間によっては区間通学定期券よりも低価格で利用できる定期券です。アルバイトや買い物等の目的にも利用可能で、学生証の提示で購入できます（通学証明書の提出は不要です）。

③ 仙台バスFREE+

仙台市では、バスで通学する学生を対象に、宮城交通の仙台市に関わる路線と仙台市営バス全路線で乗り降り自由な「仙台バスFREE+」を販売しています。新規購入または毎年度最初に購入する際は、「通学証明書」の提出が必要となります。

④ 実習用通学定期券

事前に大学を通じて各交通機関に申請・承認を受けることで、実習期間中のみ実習中の滞在先から実習先までの区間に適用される、最短一ヵ月から購入できる定期券です。ただし、交通機関によっては取り扱いがない場合もありますので、ご注意ください。

申請方法等については、実習担当教員または担当部署から周知される案内を確認してください。

3 学割証

(1) 学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）

- ① JRを利用し、乗車区間が片道100kmを超えて、次の目的をもって旅行する必要があると認められた場合に発行されます。利用できるのは、学部生、大学院生のみです。
 - ・ 休暇、所要による帰省
 - ・ 実験実習等の正課の教育活動
 - ・ 大学から認められた特別教育活動または体育、文化に関する正課外の教育活動
 - ・ 就職または進学のための受験等
 - ・ 大学から認められた見学または行事への参加
 - ・ 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
 - ・ 保証人の旅行の随行
- ② 有効期間は、発行日から3ヶ月間で、普通乗車運賃の2割引となります。
- ③ 1枚の学割証につき、片道の普通乗車券を2枚まで同時に購入できます。
- ④ 証明書発行機での発行は、年間10枚に設定しています。11枚目以降の発行の場合は、教務課または学生支援課窓口にお申し出ください。
- ⑤ 学割証を利用して乗車する場合は、必ず学生証を携帯してください。
- ⑥ 不正使用（他人への譲渡、貸与等）および誤用（有効期限切れ）等は、本学学生全体の信用にかかわり、以後の発行に支障をきたしますので十分注意してご利用ください。

(2) 団体用学割証

JRを利用して、学生8名以上の団体（必ず本学教職員引率）が同行程でゼミ、課外活動合宿等に行く場合、団体割引制度が適用されます。普通旅客運賃が5割引（引率者は3割引）になりますので、JRの駅、旅行会社等で『団体旅行申込書』用紙を入手し、合宿・遠征・大会参加届または学外諸活動届を添えて、学生支援課へ申請してください。

4 休学・復学・退学

(1) 休学・復学制度

病気、その他やむを得ない理由により3ヶ月以上修学できない場合は、教授会の承認を経て、学長の許可を得て休学することができます。また、休学期間満了前に復学する場合は、学長の許可を得て復学することができます。

休学にあたり、以下の要件があります。

- ① 休学期間は1年以内とする。
- ② 特別な理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認める場合がある。
- ③ 休学期間は、通算して4年を超えることはできない。休学期間は在学年限に算入しない。

(2) 申請期間等

区分	休学期間	申請手続き・時期
休学	通年	前年度の2月1日～5月31日
	前期	
	後期	8月1日～10月31日
復学	期間満了	不要（自動的に復学）
	期間満了前	教務課で復学手続き

区分	休学期間	復学時期	復学年次
復学	通年	翌年度の4月1日	原年次
	前期	後期授業開講日	進級
	後期	翌年度の4月1日	

※ 申請期間を過ぎて届け出た場合は、「(3) 休学者の学費の取扱い」は適用されません。

(3) 休学者の学費の取扱い

(2) の申請期間内に休学願を提出し許可された場合は、当該休学期間の在籍料・厚生費を除く学費（授業料、施設設備資金、教育環境整備費、実験施設維持費、実習費）および後援会費を免除します。該当期間外に提出した場合は適用されませんので、ご注意ください。

【休学中の学費】

休学期間	学費等請求		年間計
	前期	後期	
通年	在籍料 60,000円 厚生費 20,000円	在籍料 60,000円	140,000円
前期	在籍料 60,000円 厚生費 20,000円	学費 1/2額 後援会費 12,100円	以下の合計額 在籍料 60,000円 厚生費 20,000円 学費 1/2額 後援会費 12,100円
後期	学費 1/2額 後援会費 12,100円 厚生費 20,000円	在籍料 60,000円	以下の合計額 在籍料 60,000円 厚生費 20,000円 学費 1/2額 後援会費 12,100円

(4) 退学者の学費の取扱い

申請期間内に退学願を提出し許可された場合は、当該学期の学費を免除します。ただし、学費未納で退学願を提出した場合は、当該学期の学費納入後に退学願を受理します。

【退学時の学費】

申請期間※1	学費請求		
	前期	後期	年間計
4月1日～5月31日※2	免除	免除	免除
6月1日～10月31日※2	学費納入		免除
11月1日～3月31日		学費納入	免除なし

※1 申請期間最終日が休日に該当する場合は、その前の平日を期限とする。

※2 前期後期の授業開始前の書類提出が望ましい。

(5) 手続き方法

休学・復学・退学願は、保証人連署で提出しなければなりません。必ず、大学に届け出ている保証人の署名・捺印をお願いします（次表参照）。届け出情報が不明の場合、教務課または学生支援課に確認してください。

様式	様式入手先	提出先	備考
休学願	UNIPAの「各種資料ダウンロード」 または 教務課窓口	教務課	・署名・捺印（休学願は両面） ・休学期間満了前の復学時のみ提出
復学願			
退学願			

※ 本人と保証人の印鑑は、異なるものを押印してください。

5 転学部・転学科・転籍・移行

(1) 転学部・転学科

本学には1・2年次を対象とした転学部・転学科の制度があります。

選考に際しては、転学部・転学科を志望する明確な理由（志望動機）と一定の修得単位数が求められるほかに、転学部・転学科試験に合格する必要があります。

従って、転学部・転学科は容易にできるものではないと認識したうえで、以下を理解し、熟慮したうえで転学部・転学科を希望する方は、早めに教務課に相談してください。

① 時期

2年次または3年次の始め（4月）とします。

② 出願要件

1年次	出願時に31単位以上修得済みであること	2年次の転学部・転学科の受験可能。
2年次	出願時に62単位以上修得済みであること	3年次の転学部・転学科の受験可能。

③ 既修得単位の取り扱い

既修得単位の取り扱いについては、下記の表をご参照ください。

また、既修得または修得見込みにおける転学部・転学科後の単位認定については、事前（転学部・転学科を希望する年度の12月までを目安）に教務課にご相談ください。

なお、修得見込みで相談された単位を当該年度に修得できなかった場合は認定することができませんので、注意してください。

1	基盤教育科目、全学実践科目および同一の科目	転学部・転学科先の単位として認定する。
2	その他の科目	原則シラバスに基づき、科目内容が類似する科目の単位を認定する。

(注) 認定される単位数や転学部・転学科する先の卒業要件および国家試験受験資格や教職免許状等の取得希望によって、在学年数が5年以上になる可能性があります。

④ 在学期間

8年（転学部・転学科前の在学期間を含む）を超えて在学できません。

(注) 入学年度は、本学に入学した年度になります。

⑤ 試験

出願時期は毎年2月中旬を予定しています。試験日等は、当該年度の試験要項に基づき実施します。

⑥ その他

健康科学部保健看護学科、リハビリテーション学科への転学部・転学科はできません。

(2) 転籍

本学通信教育部に転籍を希望する場合は、退学願を提出し、貸与パソコンを返却する必要があります。教務課に早めに相談してください。

(3) 移行

社会福祉学科・共生まちづくり学科・医療経営管理学科に在籍する学生は、2年次進級時に、応用福祉学連係教育課程に移行ができます。

詳しくは、応用福祉学連係教育課程のガイダンスで説明します。

6 学費・奨学金・経済支援

(1) 学費 (注) 令和8年3月1日現在の金額です。

	医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程	保健看護学科・リハビリテーション学科
入学金 (入学時)	200,000円	200,000円
授業料 (年額)	733,000円	1,000,000円
施設設備資金 (年額)	241,000円	300,000円
教育環境整備費 (年額)	50,000円	50,000円
厚生費 (年額)	20,000円	20,000円
実験施設維持費	/	(1年次) 250,000円
		(保健看護学科2～4年次) 各186,000円
		(リハビリテーション学科2～4年次) 各145,000円
後援会費 (年額)	24,200円	24,200円

※ 2年次以降の学費はスライド制の適用により改訂する。スライド制を適用するときの変動率(対前年度アップ率)は原則として次のものを基準とする。

- ・授業料については、人事院による「国家公務員の給与に関する勧告」によって示された国家公務員給与の対前年度アップ率に、同じく定期昇給のアップ率分を加算したものによる。
- ・施設設備資金については消費者物価指数(総務省統計局調査)の対前年度アップ率による。

【健康科学部】

① 学科必修実習に関わる費用(学費として納付)

看護師教育課程	保健看護学科臨地実習科目	1年次	100,000円
		2～4年次	各200,000円
理学療法士課程	リハビリテーション学科実習	1年次	100,000円
作業療法士課程		2～4年次	各300,000円

② 課程履修および実習・演習等に関わる費用(年次未記載は原則履修初年度納入)

保健師教育課程	課程履修費		50,000円
助産師教育課程	課程履修費		500,000円
救急救命士課程	課程履修費	2～3年次納入	各150,000円
		4年次納入	50,000円
診療情報管理士課程	医療機関実習		50,000円
司書課程	図書館実習		5,000円

パラスポーツ指導員課程（初級）（中級）	課程履修費		各10,000円
レクリエーション・インストラクター養成課程	課程履修費		10,000円
臨床美術士課程	臨床美術論Ⅰ・Ⅱ履修費		15,000円
	臨床美術論Ⅲ・Ⅳ履修費		15,000円
	陶芸制作Ⅰ（材料費）		5,000円
	陶芸制作Ⅱ（材料費）		5,000円

③ 免許・資格申請に関わる費用

- ア. パラスポーツ指導員資格申請料（初級）（中級） 各 9,300円
 イ. レクリエーション・インストラクター登録料 17,600円（申請先に各自支払う）

④ その他

- ア. 診療情報管理士受験対策費 12,000円
 イ. TOEIC Bridge IP受験料（1年次） 4,400円
 ウ. TOEIC Bridge IP受験料（2年次） 2,200円
 エ. 海外研修 500,000円以上 ※留学地により異なります。

(2) 奨学金・経済支援

① 東北福祉大学奨学金

人物・学業成績が優秀で、経済的理由のため学資の支弁が困難な学生に対し、学資の給付および貸与を行うことによって教育の機会均等を図り、社会の健全な発展に寄与することを目的とした東北福祉大学独自の奨学金制度です。

【奨学金の種類、給付・貸与額等】（令和8年3月現在）

種類	対象学生	支給額	期間	出願資格	学力基準
給付奨学金	学部	50,000円（毎月）	1年ごとの継続申請で2年を超えて申請することはできない。	人物・学業共に優秀で、家計が著しく困窮あるいは家計に急変があり、修学の継続が困難になった者。	高校の学業成績の評定平均値が4.5以上であること。
貸与奨学金（無利子）	学部	50,000円（毎月）	1年ごとに継続申請をすることができる。	人物・学業共に優秀で、家計支持者の1年間の収入の年額が、給与所得者については700万円以内、給与所得者以外は600万円以内であること。	高校の学業成績の評定平均値が3.5以上であること。
	大学院	80,000円（毎月）			
災害・家計急変等緊急時援助（無利子）	学部	50,000円（毎月）	認定された期間内。	日本学生支援機構緊急採用・応急採用に応募し不採用になった者で、学長が災害緊急時援助の対象とすることが必要であると認めた者。	—
	大学院	80,000円（毎月）			
スカラシップ	一般選抜A日程分割入試でスカラシップ生として認められた者	授業料の半額 ※学科により異なる	4年間	一般選抜A日程分割[スカラシップ(成績上位者)]入試にスカラシップ生として合格し、合格した学科に入学する者。	継続するための給付条件あり。

【採用方法と募集時期】

採用種別	種類	条件	手続き・募集時期等
定期採用	新規 給付貸与	入学後および在学中に出願し、所定の手続きを行い採用される。	<ul style="list-style-type: none"> ■出願説明会 / 4月上旬 ■願書提出期限 / 5月中旬 出願希望者は、「出願説明会」に出席のうえ、願書などの交付を受けてください。
	新規 給付貸与	当該年度奨学生が継続希望する場合、所定の手続きを行い採用される。	<ul style="list-style-type: none"> ■願書提出期限 / 4月下旬 継続希望者は、年度末に継続の所定手続きを行い採用される。
緊急採用	貸与	主たる家計支持者の失職、死亡または災害等による家計急変者。	<ul style="list-style-type: none"> ■随時募集 これらの採用は、家計が急変した者に対する措置です。このような事態が発生したときは、学生支援課に相談してください。

② 高等教育の修学支援新制度

「大学等における修学の支援に関する法律」が成立し、2020年4月1日から施行された高等教育の修学支援制度について、本学も対象校として認定されています。本制度は、経済的な理由で修学の継続が困難な学生を支援するもので、住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯の学生に対し、家計基準や学業等に係る要件を満たせば、給付奨学金と授業料等減免の支援を受けられる制度です。多子世帯（扶養する子の人数が3人以上の家庭）の場合は、所得制限なく国の定める一定額まで入学金と授業料が減免になります。

支援内容	世帯収入の目安	支援割合
給付型奨学金	住民税非課税世帯	満額 3/3
	準ずる世帯 ~400万円	2/3
	準ずる世帯 ~460万円	1/3
	多子世帯に限る ~700万円	1/4
入学金減免（新入生のみ） 授業料減免	住民税非課税世帯	満額 3/3
	準ずる世帯 ~400万円	2/3
	準ずる世帯 ~460万円	1/3
	多子世帯の場合、所得制限なし	満額 3/3

③ 日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金制度は、勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生・生徒が経済的理由により修学をあきらめることのないよう支援することを目的として国が実施する制度です。

④ 地方公共団体および民間育英団体奨学金

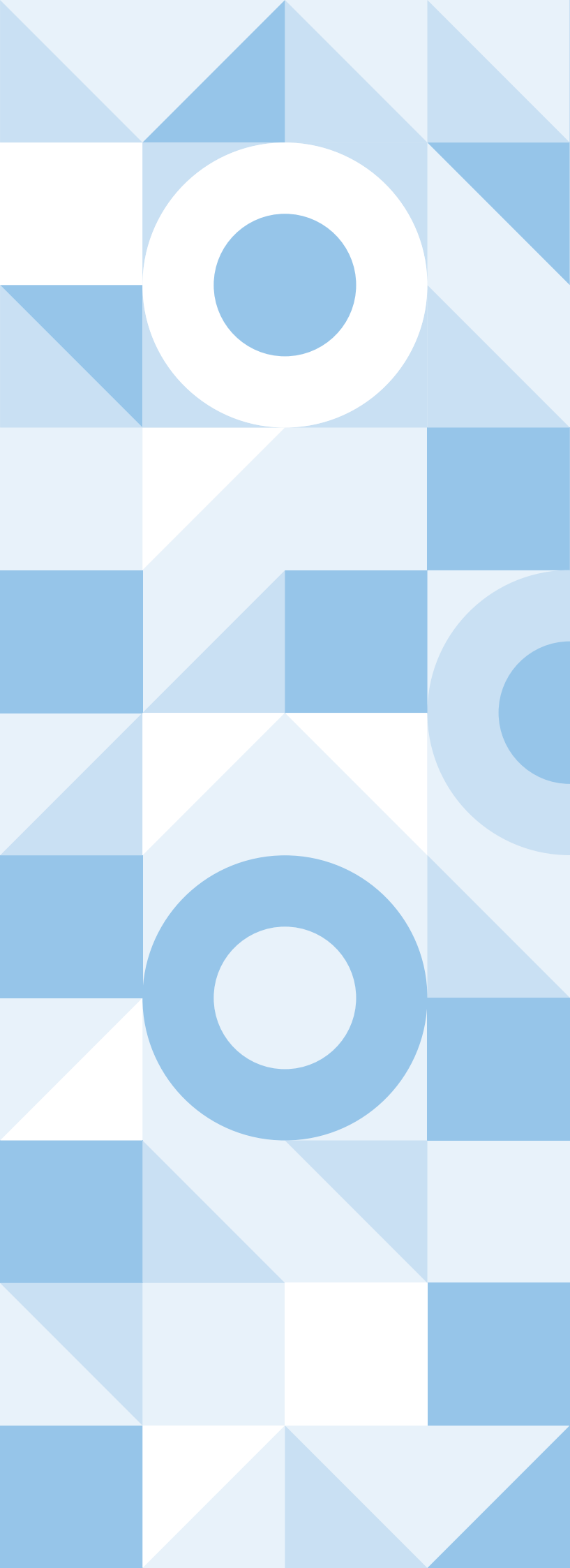
地方公共団体・民間育英団体の奨学金は、それぞれ独自の給付・貸与目的を持っており、出願資格や選考基準が異なります。募集は、依頼があったものについては学生支援課からその都度案内しますが、大学を通して募集しない都道府縣市町村もあるので、直接問い合わせてみることも必要です。

保健看護学科の学生は、病院の奨学金制度を利用することが可能です（出願資格や選考基準を満たしている場合）。

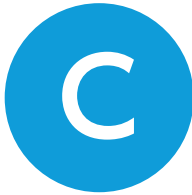
詳細については、教務部教務課（022-717-3315）保健看護学科担当にお問い合わせください。

⑤ その他の融資制度

種 類	対 象	融 資 額	申 込 窓 口
国の教育ローン (日本政策金融公庫)	入学および在学中の学生の保護者の方。	一人あたり 350万円以内	インターネット・郵送のどちらかで申込み ※詳しくは https://www.jfc.go.jp/
77教育ローン (七十七銀行)	入学および在学中の学生の保護者の方。ただし、七十七銀行本支店の営業区域に居住の方。	10万円以上 500万円以内 (1万円単位)	七十七銀行 本支店 ※詳しくは https://www.77bank.co.jp/
学費サポートプラン (オリエン트コーポレーション)	入学および在学中の学生の保護者等で安定した収入のある方。	10万円以上 500万円以内	オリエン트コーポレーション ※詳しくは https://orico-web.jp/gakushi/ 学校コード「14543367」/申込コード「0150」



学修の各種ルール



1 学年暦・授業日程

UNIPAで新年度の学年暦・授業日程をお知らせします。

授業日数を確保するため、土・祝日にも授業を行う場合がありますので、注意してください。

(1) 開講学期・期間・回数

授業は、原則前期と後期の二学期制です。

開講パターン	開講期間	授業回数 (※講義科目の場合)	備考
前期	4月1日～9月30日	15回	前期開講科目
後期	10月1日～翌年3月31日	15回	後期開講科目
通年	4月1日～翌年3月31日	30回	通年科目 (前期・後期を通して実施)
前期Ⅰ期 / 後期Ⅰ期	授業回数の1回目～8回目	8回	詳細はシラバス参照
前期Ⅱ期 / 後期Ⅱ期	授業回数の9回目～16回目	8回	詳細はシラバス参照
集中講義	通年、前期Ⅰ期、前期Ⅱ期、後期	15回 (30回)	一部科目のみ 短期集中型 (3日～5日間で実施)

(2) 授業時間

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
授業時間	8:40～10:10	10:25～11:55	12:35～14:05	14:20～15:50	16:05～17:35

2 卒業要件

本学を卒業（学士取得）するためには、4年以上在学し、諸条件を満たした上で卒業所要単位数124単位（保健看護学科は125単位、リハビリテーション学科作業療法学専攻は126単位）以上を修得しなければなりません。科目一覧表の「履修方法」に記載されている諸条件をしっかりと確認して履修してください。

また、**通算GPAが1.50以上**が必要です。

卒業に必要な修得単位数は、下表のとおり学科によって異なります。

「**基盤教育科目**」「**全学実践科目**」「**学科教育科目**」「**資格教育科目**」の合計が、自身の学科・専攻の最低単位に達していることが必要です。なお、単位数の修得だけではなく、定められた履修方法を満たしていなければなりません。履修方法は、各学科の科目一覧で確認してください。

学部	学科・専攻		必要単位（最低数）
総合福祉学部	社会福祉学科		124単位
	福祉心理学科		124単位
	福祉行政学科		124単位
共生まちづくり学部	共生まちづくり学科		124単位
教育学部	教育学科	初等教育専攻	124単位
		中等教育専攻	124単位
健康科学部	保健看護学科		125単位
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	124単位
		作業療法学専攻	126単位
	医療経営管理学科		124単位

3 シラバス

シラバス (Syllabus) は、科目担当教員が学生に対し、授業内容を示したものです。

学生は、下記に示されている内容を科目ごとに知ることができます。

履修科目を選択する際には、UNIPAの「シラバス照会」で科目を検索し、授業内容について把握した上で学修の準備をしてください。

シラバスの掲載内容

- ・ 授業形態、授業期間、単位数、教室
- ・ 担当教員名
- ・ 履修上の前提条件
- ・ 授業のテーマ、目的
- ・ 到達目標 (学修成果)、授業の概要
- ・ 授業の進め方と方法
- ・ 成績評価の方法と基準
- ・ 試験、課題へのフィードバック
- ・ テキスト、参考書、参考資料
- ・ 受講するときの留意点 (注意事項)
- ・ 各回の授業内容、授業時間外学修
- ・ 授業に関する実務経験
- ・ 教員への質問、相談

【留意点】

- ① 「受講するときの留意点」に欠格条件 (試験が受験できない条件、単位が修得できない条件) について明記していない場合であっても、その授業につき1/3以上欠席した者は、欠格条件に該当します。
- ② 「備考」でループリック評価の活用について明記がない場合でも、グループディスカッション、問題解決学習、プレゼンテーション、レポート等の学習にループリックを活用することが望まれます。

ループリック



4 履修登録と履修計画

(1) 必修科目・選択必修科目・選択科目

授業科目は、下記のとおり、必修、選択必修、選択に分かれています。十分に注意して科目を選んでください。

- ① 必修科目：学部・学科の学びの目標を達成するために、必ず履修しなければならない科目
- ② 選択必修科目：指定された複数の科目 (枠組みの中) から指定の単位数を選択し、必ず履修しなければならない科目
- ③ 選択科目：自由に選択することができる科目

(2) 履修登録上限 (年間)

学士取得 (卒業) のためには、本学に4年以上在学し、諸条件を満たした上で卒業所要単位数124単位 (保健看護学科は125単位、リハビリテーション学科作業療法学専攻は126単位) 以上を修得しなければなりません。無理のない履修計画を立て学修成果を高めるため、1年間に履修登録し、単位修得ができる単位数の上限を次のとおりとしています。

年間登録数の上限	1年	2年	3年	4年
卒業所要登録単位数	46単位	46単位	46単位	46単位
GPA2.5以上 ※1		50単位	50単位	50単位
資格取得 ※2		54単位	54単位	54単位

※1 保健看護学科・リハビリテーション学科を除き、前年度のGPA（前年度末時点）が2.5以上の場合、定められた単位数に加えて4単位まで履修することができます。

※2 以下の資格取得希望者および教育学科一部コースにおいては、54単位を上限とします。

社会福祉士 + 保育士

社会福祉士 + 精神保健福祉士

社会福祉士 + 介護福祉士

教育学科初等教育専攻小幼コース

教育学科中等教育専攻社会科コース

※ 資格取得を放棄した場合、46単位を上限とする場合があります。

【留意点】

- ① 1年間に履修しなければならない単位数は、4年次を除き**10単位以上**です。
- ② 原則として、1年間の修得単位数が**33単位以上**になるように努力してください。
- ③ 次の基準に該当する場合は、実情に応じてリエゾンゼミ担当教員や関係教職員の学修面談を受けることとなります。

学年	1年	2年	3年	4年
総修得単位数 ※1	24単位未満	48単位未満	78単位未満	124単位未満

※1 「修得単位」は、「履修単位」とは異なりますので、注意してください。

修得単位：履修登録した科目のうち、十分な出席と成績を達成した科目の単位

履修単位：履修登録して受講する科目の単位

(3) 履修計画（時間割）の作成

単位を修得するためには、学科・学年別ガイダンスを受け、その年度の履修科目をシラバス照会、各学科の諸条件にそって選択し、UNIPA上で登録します。

1年間で、どの科目をどのように履修するのか、以下の留意点に考慮して履修計画を立て、自分の時間割を作成してください。

【留意点】

- ① 「基盤教育科目」「全学実践科目」「学科教育課程」「資格教育課程」の一覧表で履修年次を確認の上、各科目のシラバスを参照し、履修科目を検討する。
- ② 必修科目は優先して履修する。
- ③ 選択必修科目、選択科目についてはシラバスを参考に履修する。
- ④ 資格の取得を目指す学生は、その資格の必修科目の未登録がないように気をつける。
 - ※ 年次進行で所定の科目を履修しなければならないこともあるため、未登録のないように注意しましょう。
 - ※ 資格によっては、履修前提条件が付けられている科目もあるため、十分に確認してください。
- ⑤ 上級学年に進んでから単位不足にならないよう卒業要件を考慮し、1年間の修得単位数は最低33単位以上となるように計画する。前項「(2) 履修登録上限（年間）」を参照。
- ⑥ 安易に履修放棄しないように、履修計画をしっかりと立てた上で履修登録する。
 - ※ 履修放棄をすると、GPAが低くなります。
- ⑦ 次の点に注意して履修登録を行う。

授業形態	注意事項
同一科目	同一年度に同一科目を履修することはできません。 (例) 前期履修した科目を後期は履修不可
同一時限重複	オンデマンド科目を除き、同一曜日時限内では1科目しか履修できません。 ※重複した科目や時限を誤って登録した科目については、その登録が無効となります。 (履修登録時にエラー表示) ※保健看護学科・リハビリテーション学科を除く
上級年次開講科目	上級年次に配当されている科目は、その年次以上でなければ履修することができません。 (例) 1年の場合…履修年次が2年・3年・4年の科目は履修できません
授業区分	授業科目によっては、少人数で行なわれる授業もあります。 履修するクラスが指定されている場合、それを変更することはできません。

(4) Web履修登録

その年度のシラバスで履修科目を検索し、履修上の注意事項等を確認の上、UNIPAで登録します。登録方法についての詳細は、「学内システムスタートアップガイド」の【履修登録】を参照してください。

【Web履修登録時の注意事項】

- 登録期間・時間は、UNIPAで確認し、指示に従ってください。
- 履修登録期間内であれば何度でも登録変更(取消・追加)は可能です。
ただし、リエゾンゼミⅠ～Ⅳ、学科必修科目、抽選科目、資格必修科目、クラス指定科目等は取消・追加できません。
- 指定の期間内に履修登録をしなかった場合、その年度の履修は認められません。
- 登録期間内に、前期・後期の両学期の履修登録を完了させてください。

【希望資格登録について】

- 取得を希望する資格がある場合は、履修登録の際に「希望資格登録」で必ず【登録】してください。
- ※ 課程履修費等がかかる資格もありますので、注意してください。(p.17～18参照)
 - ※ 一度登録した資格でも、毎年必ず登録してください。
 - ※ 登録漏れがあると、資格についての連絡が届かずに資格取得ができなくなる場合もあります。
 - ※ 4年次に登録漏れがあった場合、「資格取得見込証明書」を発行することができません。

【履修科目の取消・追加について】

やむを得ず履修を取り止めたい場合は、取消期間に限り申請が可能です。ただし、取消申請をしたことで、年間の修得単位不足にならないように注意してください。

- ① 前期・後期の指定期間に当該年度の履修科目の取消・追加を行うことができます。申請期間、申請方法、取消除外科目については、UNIPAでお知らせします。
- ② 前期授業終了後に前期科目を取り消すことはできません。
- ③ 事由によっては、取消が認められないこともあります。履修計画はしっかり立ててください。
- ④ 休学する場合は、休学願提出の際、教務課で履修科目の取消手続きをしてください。

(5) 履修登録の確認

履修登録を終えたら、以下の点を確認してください。

- ① 「基盤教育科目」「全学実践科目」「学科教育課程」「資格教育課程」の履修年次を確認し、履修漏れがないか。
- ② 履修登録に間違いや不足がないか。
- ③ 指定された年度中に履修または単位修得しなければならない科目を登録しているか。
(注) 各種資格の前提条件等。
- ④ 学科の必修科目や自分がめざす各種資格の必修科目が登録されているか。
- ⑤ 指定されているクラス(曜日時限)がある科目を、授業科目名だけで判断して登録していないか。
例) 科目名(〇〇学科指定、〇〇学科対象外、前期実習学生対象、〇〇課程限定)
※ システムエラー等により履修登録に不具合が生じることがあります。履修登録したことを証明するため、履修登録の確定後、最終版の時間割表を必ずPDFファイルで保存してください。

(6) 合理的配慮について

授業において配慮が必要な場合は、下記にお問い合わせください。

学生支援センター健康管理課 電話：022-301-1291

E-Mail：support@tfu.ac.jp

診断書または障害者手帳のコピーの提出が必要になります。また、申請時期によって配慮する時期が異なることや希望する配慮を受けられないことがありますので、予めご了承ください。

合理的配慮
ホームページ



5 受講上の注意と教室

(1) 受講上の注意事項

- ① 履修登録を終えたら、指定された教室で受講してください。
- ② 科目の取消・追加については、UNIPAでお知らせします。
【前期・通年科目】 指定期間中に後期科目を含む科目の履修取消が可能です。科目追加は認められませんので、シラバスをよく確認した上で履修登録を行ってください。
【後期科目】 指定期間中に後期科目の履修取消・追加が可能です。授業開始後の申請は認められませんので、注意してください。
- ③ 授業に関する質問は、授業開始前・終了時、UNIPAの「授業Q&A」、教員の空き時間(オフィスアワー)を活用してください。
- ④ 教員の時間割は、「UNIPAトップ→時間割→教員スケジュールで教員名検索」で確認できます。研究室の場所は、教務課窓口で確認できます。
- ⑤ 非常勤講師は研究室がありませんので、授業開始前・終了後の時間を活用もしくはUNIPAの授業Q&Aで質問してください。
- ⑥ 授業中、体調不良等で離席する必要がある場合は、担当教員に相談してください。
- ⑦ 授業中の私語や飲食等、他の受講生の迷惑になるような行動や授業に支障が出るような行為は慎んでください。
- ⑧ 授業中のスマートフォン等での録音や写真・動画撮影は、教員の許可なく行ってはいけません。必ず担当教員に可否を確認してください。

(2) 教室

履修登録期間が終了し、履修登録が確定するまでは、教室が変更になる場合があります。UNIPAの「学生時間割表」で教室を確認してから移動してください。急遽変更になった場合は、UNIPAでお知らせします。

時間割表上の教室表示は次のとおりです。演習室等の場所は、構内図で確認してください。

① 国見キャンパス

例)	130教室	⇒	1号館3階0番教室
	652教室	⇒	6号館5階2番教室
	2131教室	⇒	2001館3階1番教室
	第4演習室	⇒	国見キャンパス演習室

- ※ 3桁の数字のうち、頭の数字は建物名、2番目の数字は階数、3番目の数字は教室番号を表します。
- ※ 4桁の数字の場合、頭の「21」は「2001館」を表し、3番目の数字は階数、4番目の数字は教室番号を表します。

② ステーションキャンパス

例)	S501	⇒	ステーションキャンパス5階1番教室
	S演習(1)	⇒	ステーションキャンパス演習室

- ※ 頭に「S」がつく表示は、「ステーションキャンパス」を表します。

③ 国見ヶ丘第一キャンパス (ウェルコム21)

例)	理学療法実習室(1)(2)(3)	⇒	ウェルコム21 3階
	作業実習室(1)(2)	⇒	ウェルコム21 4階

6 試験

(1) 試験時間・試験方法

試験期間は、設けていません。試験を行う場合は、科目の授業時間内に実施されます。

科目の評価方法は、教員によって異なりますので、各科目のシラバス「成績評価の方法と基準」を確認してください。シラバスについては、p.23を参照してください。

筆記試験・実技試験	担当教員の指示のもと、試験を受けてください。
レポート試験	<p>書面で提出する際は、担当教員からの指定がない限り、下記のように①～⑦を記載した「表紙」を添えて提出をしてください。</p> <p>UNIPAの課題管理で提出する場合は、提出履歴（提出完了画面のスクリーンショット等）と提出した課題レポートデータを保存してください。</p>

【レポート試験の表紙例】

- ① 授業科目名
- ② 担当教員名
- ③ レポートの表題
- ④ 学部/学科/学年
- ⑤ 学籍番号
- ⑥ 氏名
- ⑦ 提出年月日

左上をホチキスでとじる。

①○○○○○
②○○○○○先生
③「○○○○○○○」
④学部/学科/学年
⑤学籍番号
⑥氏名
⑦○年○月○日

(2) 試験の受験資格

試験は、受講している全学生が受けられるわけではありません。

以下に該当する場合は無資格者の対象となり、試験を受けることができません。

試験の無資格者	開講実回数の1/3以上を欠席した者*
	Web履修登録をしていない者
	学費未納者

※15回講義で5回、30回講義で10回休んだ時点で無資格

(3) 試験に関する留意事項

- ① 試験時には必ず「学生証」を持参し、試験開始前には机の上に置いてください。
- ② 携帯電話、スマートフォンやウェアラブル端末は電源を切りバッグ等に入れ机下に置いてください。
- ③ 試験開始後、20分以上遅刻した場合は、入室できません。

(4) 不正行為

- ① 他者と話をする、他者の答案を見る、机の上に指定物以外を置くなどの不正行為と見なされる行為は慎んでください。
- ② 学期末に行う科目の単位を修得するための試験だけでなく、学期中に行う小テスト等でも同様です。
- ③ 不正行為があった場合、即時処分として一部または全科目を無効とし、その他の処分は教授会で決定されます。

以上のほか、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程も参照してください。

7 成績・評価

(1) 評価方法

試験の実施等、評価の方法は授業科目によって異なります。各科目のシラバスで確認してください。

(2) 成績評価基準・GPA制度

履修した科目の成績評価は、各科目で指定された成績評価を基準に以下のように評価され、60点以上で所定の単位が与えられます。また本学は、教育の質を保証するためにGPA (Grade Point Average) を導入しています。GPAは、成績評価基準に基づく評定をGP (Grade Point) に換算し、所定の計算式を用いて算出した1単位あたりのGP平均値のことをいいます。

GPAは、自らの学修状況（学修の到達目標の達成レベルやその推移等）をふり返り、自己管理して学んでいくために役立ててください。

成績の評定、点数、評価基準およびGPの関係は以下のとおりです。

評価	点数 (100点満点)	評価基準	判定	GP (科目の評点)
秀	90点～100点	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績を修めている	合格	4
優	80点～90点	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている		3
良	70点～79点	到達目標に十分達している		2
可	60点～69点	到達目標に最低限達している		1
不可	59点以下	到達目標に達していない	不合格	0

※「無資格」「放棄」の科目は、GP=0ポイントとしてGPA算出の対象となります。

① GPAの適用除外科目

- ・ 認定科目（「認定・不認定」等で評価する科目）
- ・ 編入学または転入学した際の単位認定科目
- ・ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ・ 留学により修得した単位認定科目
- ・ 外国語特別単位認定制度により修得した単位認定科目
- ・ 「学都仙台単位互換ネットワークに関する協定」により他大学で修得した科目
- ・ 履修取消期間中に履修取消願の手続きをして、取消を認められた科目

- ② GPAの計算式

$$\frac{(\text{秀の単位数} \times 4) + (\text{優の単位数} \times 3) + (\text{良の単位数} \times 2) + (\text{可の単位数} \times 1) + (\text{不可の単位数} \times 0)}{\text{履修登録した科目の単位数合計 (「不可」「無資格」「放棄」を含む)}}$$
- ③ GPAの確認方法
 自身のGPAは、UNIPAの「成績照会」の「GPA推移表」で確認することができます。
【年度学期GPA】 各年度の各学期で算出されます。 ※学期GPAは参考として活用してください。
 ・前期GPA = 当該年度の前期履修科目を用いて算出
 ・後期GPA = 当該年度の後期履修科目および通年履修科目を用いて算出
【年度GPA】 各年度の通算のGPAが表示されます。
【通算GPA】 在学中の全期間を通算して算出されます。
- ④ 再履修について
 GPAを高めるよう、単位修得した年度の次年度に開講する科目の場合に限り、すでに単位を修得した授業科目を再び履修することができます。再履修する場合は、単位を修得した年度の3月末までに、事前に教務課で受け取った「単位修得取消・再履修願」とUNIPAから印刷した成績表を提出してください。
 ※ その科目の成績評価は再履修後のものとなり、再履修前の成績を元に戻すことはできません。
 ※ 次年度に当該科目が開講されない場合は、当該科目の単位修得取消は行いません。
 ※ 次年度に取消科目の再履修をしなかった場合でも、取り消した科目を元に戻すことはできません。
- ⑤ GPAを活用した学修面談・卒業認定試験
 通算GPAが1.20未満の場合は、リエゾンゼミ担当者や関係教職員の学修面談を受ける必要があります。
 また、卒業するためには、所定の授業科目および**単位数の修得と卒業時の通算GPAが1.50以上**あることが必要です。通算GPAが1.50未満の場合は、学部学科で行う卒業認定試験を受け、合格しなければ卒業できません。

(3) 成績に関する質疑について

成績について質疑がある場合、UNIPAの「授業Q&A」機能を活用してください。ただし、これは成績評価の再確認をお願いするものであり、教員に対して成績の再考を求めるものではありません。

8 休講・補講

(1) 休講

担当教員のやむを得ない事由で授業を休講することがあります。
 また、自然災害や感染症まん延等により、全学で休講の措置を取る場合もあります。

(2) 補講

担当教員のやむを得ない事由により休講した場合、オンデマンド型授業で補講を実施します。履修者は、教員が定める期間内に受講しなければなりません。
 自然災害や感染症まん延等による全学休講の場合は、授業予備日に振り替えて講義を行います。

(3) 休講・補講の連絡

休講・補講についてはUNIPAでお知らせしますので、見落としのないようご注意ください。
 なお、自然災害等の緊急時は当日の判断になる場合がありますので、その際はUNIPAでお知らせしません。

9 緊急時における授業の取り扱い

自然災害等、以下のような不測の事態により、授業等中止することがあります。

- ① 東部仙台に特別警報・暴風警報・大雨警報・暴風雪警報・気象特別警報が発令された場合（別表1）
 - ※ あらかじめ気象警報が発令が予測される場合、警報発令前に授業を中止決定する場合があります。その場合、UNIPAや大学ホームページでお知らせします。
- ② 地震・災害等に関して発表された情報に基づき、授業等の中止などの措置が必要と判断した場合
- ③ JR・地下鉄・市バス・宮城交通バスのいずれかが、自然災害またはストライキ等により、全面運休もしくはこれに近い状態となり、授業等の中止などの措置が必要と判断した場合（別表1を準用）
- ④ その他、不測の事態が発生し、通学困難または授業等に支障が生じるおそれがあると判断した場合
- ⑤ 全学的に休講となった授業は、学年暦に記載の「予備日」に授業を開講
 - ※ 課外教育活動（各種実習・インターンシップ・ボランティア活動等）については、実習先、インターンシップ先、ボランティア活動先等の指示に従ってください。
 - ※ 全国瞬時警報システム（Jアラート）による緊急情報が伝達された場合は、各自が情報内容を確認し、安全な場所に避難してください。

（別表1）

区分	授業
午前7時前解除	通常通り授業実施
午前7時以降午前10時に解除	1時限・2時限の授業休講 3時限以降の授業実施
午前10時以降も気象警報発令中	全日休講
授業中に気象警報発令	速やかに休講とし、以降の授業休講

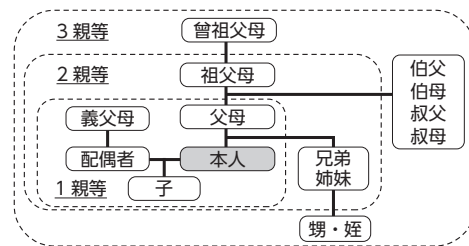
以上のほか、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程も参照してください。

10 授業の欠席

（1）公認欠席願の提出

公認欠席となる事由は、以下の通りです。申請方法等については、QRコードから確認してください。

- ① 忌引（※3親等以内の親族とする）
 - ・ 1親等-連続した7日以内
 - ・ 2親等-連続した3日以内
 - ・ 3親等-1日



- ② 学校保健安全法施行規則第18条に基づく感染症に罹患した場合
 - ➔ 診断が出たら、健康管理課（022-717-3372）へ電話連絡してください。
- ③ 罹災した場合
- ④ 公共交通機関の運休、遅延等で通学不能の場合
- ⑤ 裁判員の参加する刑事裁判に関する法律に基づき、裁判員に選任された場合
- ⑥ 学生団体が加盟している連盟等が主催する公式行事に参加する場合
- ⑦ 本学が認める資格取得のための実習等に参加する場合
- ⑧ 本学が認めたボランティア活動に参加する場合
- ⑨ その他、学長が特に必要と認めた場合

【申請方法】
証明書類、提出期限等



(2) 欠席届の提出

UNIPAの「各種資料ダウンロード」より用紙をプリントアウトし、科目担当教員に提出してください。

- ① 病気やけがによる通院や入院
- ② 忌引（「3親等以内の親族」以外）
- ③ その他、公認欠席の事由に当てはまらない場合

11 その他

(1) 4年次特別再試験

試験を受験し不合格になった4年生は、以下の条件で再試験を受験することができます。手続き等については、成績発表後にUNIPAでお知らせします。

- ① 当該年度の履修科目で、担当教員が特別再試験を実施すると発表した科目とする。
- ② 受験料（筆記科目・レポート科目）は、1科目につき3,000円とする。
- ③ 受験を希望する学生は、当年度履修科目の成績表をプリントアウトし、指定期日までに教務課で手続きを行うこと。
- ④ 筆記試験の際は、学生証のほか、「特別再試験受験許可書」を机の上に置くこと。
- ⑤ 特別再試験の合格者の評価は、65点を上限とする。

以上のほか、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程も参照してください。

(2) 卒業延期制度

卒業の要件を満たしている学生が引き続き在学することを希望する場合、「卒業延期制度」を利用することができます。

- ① 制度利用要件
 - ・卒業要件をすべて満たすこと。（学則第31条および第46条）
 - ・引き続き在学することで、在学年限が8年を超えないこと。ただし、編入学・転入学により入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えることはできない。（学則第18条）
 - ・学費等の納付金を滞納していないこと。
 - ・卒業延期期間は、半年または1年とする。ただし、引き続き制度の適用を希望する場合は、1回を限度に再度延長を許可する。また、1年延長者が半年での卒業を希望するときは、「卒業延期許可取消願」を提出することでこれを認める。
 - ・卒業延期者が、本来卒業すべき年度終了日の卒業を希望する場合は、所定の期日までに「卒業延期許可取消願」を提出した場合に限りこれを認める。
 - ・卒業延期者は、授業科目を履修することができない。
 - ・卒業延期期間中は、休学を認めない。
 - ・3月卒業予定者の卒業延期後の卒業時期は、半年延長者は前期終了日、1年延長者は当該年度の卒業生の卒業日とする。
 - ・9月卒業予定者の卒業延期後の卒業時期は、半年延長者は当該年度の卒業生の卒業日、1年延長者は前期終了日とする。
 - ・卒業延期者が、所定の期日までに延長期間に係る納付金を納付しなかった場合は、延期許可を取り消し、本来卒業すべき年度の終了日の卒業とする。

② 納付金

卒業延期者は、在籍料および厚生費の納付が必要です。施設設備資金、教育環境整備費、後援会費は徴収しません。

延期期間	在籍料	厚生費	計
半年	60,000円	20,000円	80,000円
1年	120,000円		140,000円

※ 既納の在籍料は返付しない。ただし、所定の手続きにより、本来卒業すべき年度終了日での卒業が認められた場合は既納の全額、1年の延長者が半年での卒業を認められた場合は、厚生費を除く既納の半年分6万円を返付する。

③ 手続き

詳細な卒業延期の手続きについては、UNIPAで掲示する卒業決定者掲示でお知らせします。

(3) 留年学生の取扱い

本学に4年以上在学し、卒業に必要な単位が不足しているために留年する学生の取扱いは、以下のとおりとします。

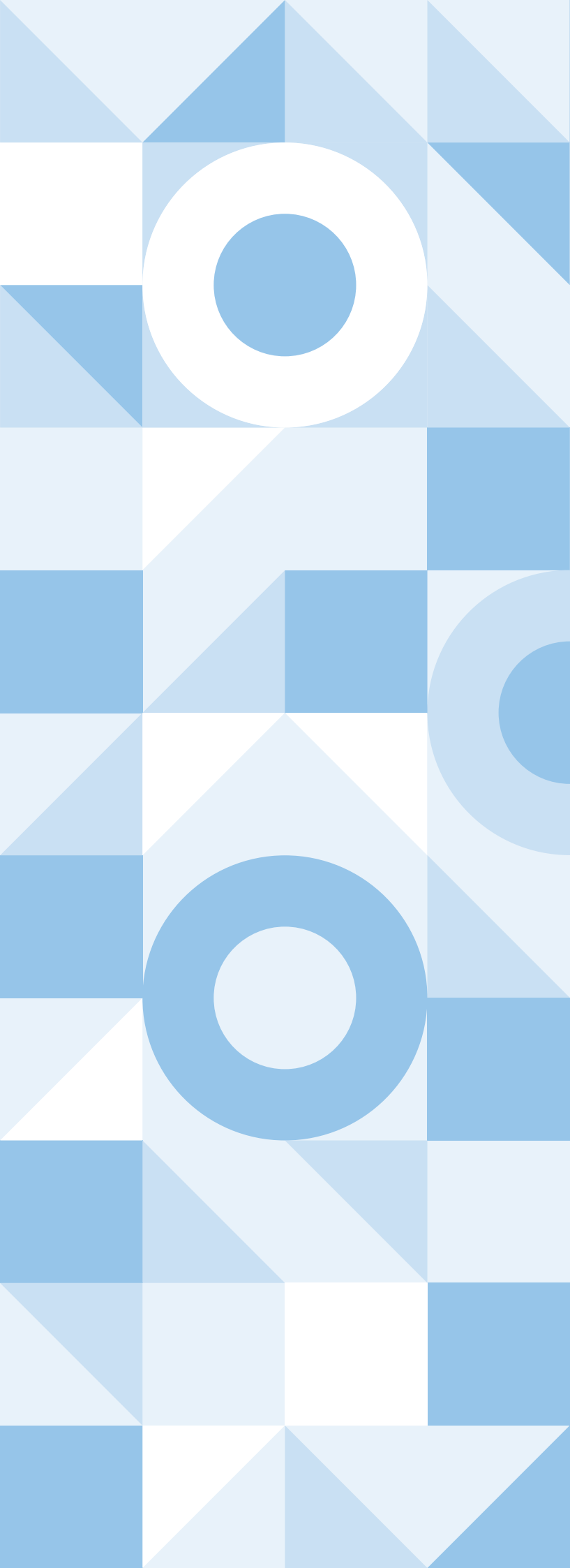
- ① 卒業時期は不足科目の単位充足時とし、原則として9月末および3月末の年2回とする。
- ② 留年学生が不足単位を履修する場合の学費は次のとおりです。

卒業に必要な 単位数	授業料	施設設備資金 教育環境整備費	厚生費 後援会費	実験施設維持費 実習費
30単位以下	1単位 15,000円	半額	厚生費 20,000円 後援会費 12,100円	別途算出
31単位以上	前期で修得できる場合：前期分 修得に1年を要する場合：1年分			

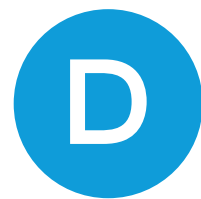
12 問い合わせ先

履修や学修についての相談は、「リエゾンゼミや演習の担当教員」または「教務課窓口」で対応します。実習に関する相談は、各部署にお問い合わせください。

問合せ内容・資格	担当部署	電話番号	窓口
履修、授業、試験、成績等	教務課	022-717-3315	1号館1階
社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、レクリエーションインストラクター、スクールソーシャルワーカー、介護職員初任者研修	福祉実習支援室	022-301-1279	
教職課程、保育士	教職課程支援室	022-301-1196	
実学臨床教育	実学臨床教育推進室	022-717-3359	音楽堂地下1階



基盤教育科目・ 全学実践科目



1 授業科目

本学の授業科目は、全学共通の「基盤教育科目」「全学実践科目」、各学科の「学科教育課程」「資格教育課程」に大別されます。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目は全学共通科目となっており、全学科の学生が以下の科目区分から所定の単位数を修得しなければなりません。

科目区分		必要な単位数
建学の精神を知る科目	TFU科目	必修7単位
自分自身を考える科目	自己管理能力（セルフマネジメント）	必修2単位他自由選択
多様性を考える科目	思考・判断力	1単位以上選択 ※保健看護学科は「性と生殖」1単位必修とし、他科目2単位を選択すること。
	表現力	必修4単位他自由選択
自他の調和を考える科目	社会力	2単位以上選択

① 建学の精神を知る科目：TFU科目

以下4科目（7単位）はすべて必修になります。必ず単位修得してください。

- ・ Well-Being を考える（オンデマンド科目）
- ・ 福祉と仏教（オンデマンド科目）
- ・ 禅のこころ
- ・ リエゾンゼミ I

※ 「禅のこころ」の授業日程についてはUNIPAでお知らせしますので、各自確認してください。

② 自分自身を考える科目：自己管理能力（セルフマネジメント）

以下2科目は必修になります。必ず単位修得してください。

- ・ キャリアデザイン（オンデマンド科目）
- ・ 身体をととのえる

③ 多様性を考える科目：表現力

全学科において、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」が必修となり、学科ごとに開講時限が指定され、抽選によりクラス分けされます。

※ 外国語は、語学能力検定試験を受けている学生について、その点数により当該外国語の単位を認定する場合があります。（p.38参照）

(2) 全学実践科目（科目群）

基盤教育科目に付随して、各分野の学修を深めることを目的とした科目です。詳細はp.37を参照してください。

(3) 学科教育課程

各学部学科によって、履修単位数が決められています。科目区分から所定の単位数を修得しなければなりません。

(4) 資格教育課程

指定された学部や学科において、各種資格の条件を達成することにより各種資格を取得することができます。

(5) 実習科目

各種資格取得に必要な実習の科目が設定されています。各種資格の指定科目一覧から、所定の単位数を修得しなければなりません。

(6) 地域貢献関連資格科目

指定の学部学科等において、以下の各資格の必修科目として履修可能です。

対象学部・学科	資格名称
総合福祉学部	初級パラスポーツ指導員資格
共生まちづくり学部	中級パラスポーツ指導員資格
健康科学部医療経営管理学科	レクリエーション・インストラクター資格
応用福祉学連係教育課程	レクリエーション・インストラクター資格
教育学部	レクリエーション・インストラクター資格

(7) 補助科目

資格教育課程において、「社会福祉士国家試験受験資格」「診療情報管理士」「健康運動実践指導者」の各資格を補うため、資格の指定科目以外に履修できる科目です。

(8) 多職種連携領域

社会において即戦力として活躍できる人材養成のための科目で、2026年度入学生は、社会福祉学科、福祉心理学科、保健看護学科の3学科の学生が、学科教育課程として「多職種連携論」を履修することができます。

(9) 科目ナンバリング

授業科目の番号と分類によって、学修の段階や順序等が分かるようになっています。ただし、難易度レベルは必ずしも履修学年と同じではありませんのでご注意ください。

科目ナンバリング



(10) オンデマンド授業

オンデマンド授業についての詳細はUNIPAで連絡します。必ず確認してください。

- ① すべての授業をオンデマンド型で行う科目を「オンデマンド科目」と呼びます。
- ② 学生一人あたりが受講できるオンデマンド科目は、1年間10単位程度とします。
- ③ オンデマンド科目は、決められた期間に授業を視聴します。
- ④ 授業で提示される確認テスト等は、決められた締め切り日までに担当教員の指示に従って提出します。
- ⑤ その他、科目の担当教員がやむを得ない理由により休講とした場合にオンデマンド授業で代替開講します。担当教員の指示に従って受講してください。
- ⑥ オンデマンド授業は、UNIPA上で視聴します。UNIPAについては、p. 2を参照してください。

大学設置基準第25条第2項等で規定するメディアを活用した科目（オンデマンド科目）は、大学設置基準第32条第5項の規定により、卒業に必要な単位のうち60単位を超えないものとします。

2 基盤教育科目

区分		授業科目名	単位		履修年次	履修方法 (各項目の要件を満たし合計 16単位※以上修得すること)
			必修	選択		
建学の精神を 知る科目	TFU科目	Well-Beingを考える	2		1年以上	必修7単位
		福祉と仏教	2		1年以上	
		禅のこころ	1		1年以上	
		リエゾンゼミ I	2		1年以上	
自分自身を 考える科目	自己管理能力 (セルフマネ ジメント)	キャリアデザイン	1		1年以上	必修2単位 他自由選択
		哲学の世界		2	1年以上	
		こころの探究		2	1年以上	
		メンタルヘルス		2	1年以上	
		身体をととのえる	1		1年以上	
		日常をととのえる		2	1年以上	
		ライフデザイン		2	1年以上	
		健康スポーツ		2	1年以上	
多様性を 考える科目	思考・判断力	生命と倫理		2	1年以上	1単位以上 選択※
		性と生殖		1	1年以上	
		ジェンダーと多様性		2	1年以上	
		モノの見方・考え方		2	1年以上	
		ものづくり(伝統)に触れる		2	1年以上	
		AIの基礎		2	1年以上	
		情報の科学		2	1年以上	
		統計情報を見る眼		2	1年以上	
	表現力	英語 I	2		1年以上	必修4単位 他自由選択
		英語 II	2		2年以上	
		実用英語		2	1年以上	
		第二外国語 I (中国語)		2	1年以上	
		第二外国語 I (韓国語)		2	1年以上	
		第二外国語 II (中国語)		2	2年以上	
第二外国語 II (韓国語)			2	2年以上		
アートとデザイン			2	1年以上		
自分の思いを伝える表現		2	1年以上			
自他の調和 を考える科目	社会力	日本国憲法		2	1年以上	2単位以上 選択
		社会・経済のしくみ		2	1年以上	
		リーダーシップと協調性		2	1年以上	
		人間関係について学ぶ		2	1年以上	
		ボランティアを学ぶ		2	1年以上	
		実践的防災を学ぶ		2	1年以上	
		持続可能なくらしづくり (SDGsを考える)		2	1年以上	

※ 保健看護学科は区分「思考・判断力」のうち「性と生殖」(1単位)必修、他2単位以上選択履修し、合計18単位以上修得すること。

3 全学実践科目

(1) グローバル化の推進

【基盤教育科目】 「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」 「実用英語」 「第二外国語Ⅰ（中国語）」 「第二外国語Ⅱ（中国語）」 「第二外国語Ⅰ（韓国語）」 「第二外国語Ⅱ（韓国語）」 の発展科目	グローバル・スタディ科目	単位		履修年次	履修方法
		必修	選択		
	アジア共同体に向けて		2	1年以上	自由選択 (日本語Ⅰ・Ⅱ、実用 日本語は留学生のみ 受講可)
	日本語Ⅰ		1	1年以上	
	日本語Ⅱ		1	1年以上	
	実用日本語		1	1年以上	
	Study Abroad		1	1年以上	
	グローバルコミュニケーションⅠ		2	1年以上	
	グローバルコミュニケーションⅡ		2	1年以上	
	Independent Study		1	1年以上	

(2) ボランティア支援

【基盤教育科目】 「ボランティアを学ぶ」 「実践的防災を学ぶ」 の発展科目	ボランティア・スタディ科目	単位		履修年次	履修方法
		必修	選択		
	福祉ボランティア活動		2	1年以上	自由選択
	災害伝承学・次世代塾講座		2	1年以上	
	ボランティア活動論		2	2年以上	

(3) 就職支援

【基盤教育科目】 「リエゾンゼミⅠ」 「キャリアデザイン」 の発展科目	キャリア・スタディ科目	単位		履修年次	履修方法
		必修	選択		
	就労実習		2	2年以上	自由選択

(4) ICT支援

【基盤教育科目】 「AIの基礎」「情報の科学」 「統計情報を見る眼」 の発展科目	ICT・スタディ科目	単位		履修年次	履修方法
		必修	選択		
	福祉の未来とAI		2	2年以上	自由選択
	福祉の未来とDS		2	2年以上	
	AIとコンテンツ制作		2	3年以上	
	AIエンジニアリング		2	3年以上	
	プログラミング演習		4	2年以上	
	ゲームプログラミング		4	3年以上	

4 履修上の特例措置

1. 外国語特別単位認定制度（外国語教育）

外国語の語学能力検定試験（外部テスト）で一定のレベルに達している学生は、本人の申請により、外国語科目の履修を免除される場合があります。

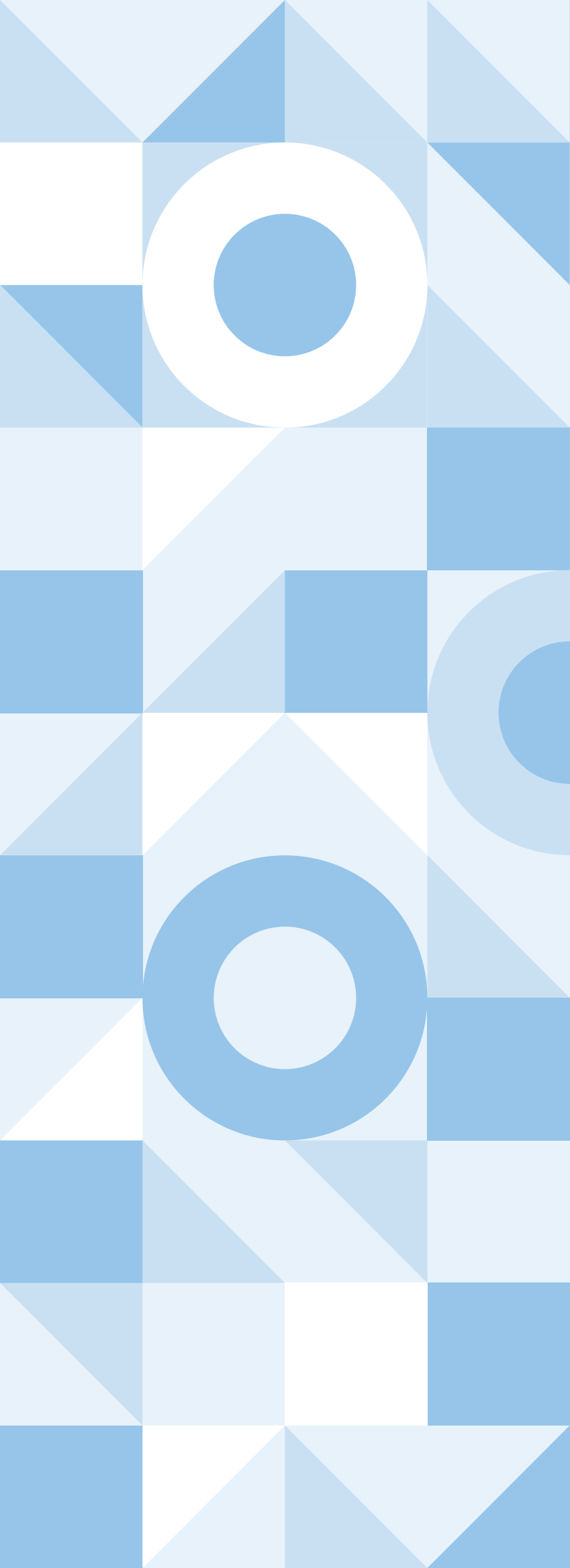
以下に示す各検定試験による単位認定に該当する学生は、1、2年次のガイダンス日の外国語クラス編成の際に申し出るとともに、検定試験の認定書または得点証明書（原本）を提出してください。外国語教員の面接と審議を経て、当該外国語の所定の単位を履修したものとみなされた場合、単位が認定されます。

科目	語学能力検定試験	点数/等級	単位認定される科目
英語	TOEIC	550点以上	英語 I
	TOEIC iBT (The Internet-based TOEFL)	52点以上	//
	TOEIC PBT (The Paper-based TOEFL)	470点以上	//
	国際バカロレア資格 English B HL	4 以上	//
	国際バカロレア資格 English B SL	5 以上	//
	TOEIC	600点以上	英語 II
	TOEIC iBT (The Internet-based TOEFL)	57点以上	//
	TOEIC PBT (The Paper-based TOEFL)	487点以上	//
	実用英語技能検定（英検）	準 1 級以上	//
	国際バカロレア資格 English B HL	5 以上	//
中国語	実用中国語技能検定	4 級	第二外国語 I（中国語）
	漢語水平考試（HSK）	初中等 3 級	//
	中国語コミュニケーション能力検定（TECC）	360点以上	//
	実用中国語技能検定	3 級	第二外国語 II（中国語）
	漢語水平考試（HSK）	初中等 4 級	//
	中国語コミュニケーション能力検定（TECC）	440点以上	//
韓国語	韓国語能力試験	2 級	第二外国語 I（韓国語）
	「ハングル」能力検定試験（ハングル検定）	4 級	//
	韓国語能力試験	3 級	第二外国語 II（韓国語）
	「ハングル」能力検定試験（ハングル検定）	3 級	//
日本語 (留学生対象)	日本語能力試験	1 級	日本語 I・II 実用日本語

2. 東北福祉大学体育会スポーツ特別履修制度

体育会加盟の所属部員は、課外活動をもって「身体をととのえる」（1単位）の単位を以下の条件で修得することができます。ただし、当制度の利用は、対象各部・各学生の任意とします。

- ① 「身体をととのえる」の単位は、担当専任教員で構成された単位認定委員会で認定します。
- ② 学生支援課から提出された各部の資料に基づいて、単位認定委員会が評価認定を行います。
- ③ 評価の対象となる学生は、履修を申請した年度の1年間、各部に継続して在籍活動した部員とし、途中入部・退部者は対象外とします。当制度による単位未修得の場合は、次年度以降に「身体をととのえる」の履修が必要です。
- ④ 各部部長は、単位認定のために必要な以下の資料を学生支援課に提出しなければなりません。
 - ・履修部員名簿
 - ・部活動年間出欠表
 - ・特別履修申請書
 - ・単位認定申請書
 - ・活動日誌
- ⑤ 各部部長は、提出するすべての資料を点検・確認のうえ押印してください。
- ⑥ 虚偽の資料を提出した部は、当該年度単位を取り消し、次年度当制度を利用することはできません。



学科教育課程 · 資格教育課程



学科教育課程では、学科・専攻ごとにカリキュラムが設定されています。卒業に必要な要件・単位数は学科によって異なります。学科ごとに定められた単位数を修得してください。

科目によって、履修する学年が定められている場合もあります。その際、下級学年の科目は履修できますが、上級学年の科目は履修できません。

◆各学科のカリキュラムに関する詳細は、大学HP <トップページ→学部・大学院→カリキュラム（学部・大学院）>にて確認してください

○カリキュラム一覧

○カリキュラムマップ

各授業がディプロマ・ポリシーに掲げている養成目標とどの様に関連しているかを示した表のことです。

○履修モデル

カリキュラム・ポリシーを具現化するために作られた、学びの歩みを描いた道順のことです。

それぞれ進むべきコースを見定め、履修モデルを一つの手掛かりとして、自分自身の学びに適した履修をしていきましょう

○履修系統図

身につける知識・能力と授業科目の対応関係、科目区分間、授業科目間の関係性や履修順序(配当年次)等を示した図です。

1 取得可能な資格一覧

健康科学部で取得できる資格一覧

資格・免許	保健看護 学科	リハビリテーション学科		医療経営管理 学科	掲載ページ	備考
		理学療法学 専攻	作業療法学 専攻			
看護師国家試験受験資格	●				44	
保健師国家試験受験資格	○※1				44	
助産師国家試験受験資格	○				44	
理学療法士国家試験受験資格		●			64	
作業療法士国家試験受験資格			●		71	
救急救命士国家試験受験資格				○	80	
診療情報管理士				□	83	
その他の資格						
社会福祉主事（任用）				○	86	
司書				○	88	
日本パラスポーツ指導員				▲	88	大学で一括申請
レクリエーション・ インストラクター				▲	90	
福祉用具専門相談員				▲	91	
臨床美術士				□	91	学外の講座等でも取得可能
デジタルコンテンツアセッサ				▲	93	要個人申請
メディカルクラーク (医療事務技能審査試験)				□	94	外部機関で取得する資格 ※試験関連科目の開講あり
ドクターズクラーク (医師事務作業補助技能認定試験)				□	94	外部機関で取得する資格 ※試験関連科目の開講あり
福祉住環境コーディネーター		□	□		76	外部機関で取得する資格 ※試験関連科目の開講あり
新生児蘇生法（NCPR） Bコース修了認定	□				61	
防災士	□	□	□	□	61、76、94	学外の講座等でも取得可能 ※学内で防災士養成講座を開講

- 卒業と同時に取得可能な資格・受験資格
- 所定の科目を修得し、卒業することで取得可能な資格・受験資格
- ▲ 所定の科目を修得することで取得可能な資格
- 所定の科目を修得し、学外の試験に合格することで取得可能な資格

※1 第一種衛生管理者：保健師免許を基礎資格として申請によって授与される
 養護教諭二種免許状：所定の科目を修得し、保健師免許を基礎資格として申請によって授与される

2 保健看護学科

保健看護学科を卒業するために

まずは、この学科で学修する目的（教育研究上の目的）を理解しましょう！

Q 保健看護学科は、どのようなことを目的として学生の皆さんと学んでいくのでしょうか。

A 様々な場面で、いろいろな職種の人々とよりよい人間関係を築きながら、対象者のWell-beingを探し求め問題の本質を見極めて、対象者中心の看護を実践する保健・医療において活躍できる人材の養成を目的とします。

つぎに、学科の卒業に必要なこと（ディプロマ・ポリシー）を理解しましょう！

Q 保健看護学科を卒業する要件を教えてください。

A 本学卒業生として相応しい品格と素養を備え、保健看護学科の学位プログラムにおける授業科目の単位修得等により、以下の能力が身についたと認められる学生に学位（看護学）を授与します。

1. 学び続ける力（努力する態度）
2. 看護者として倫理を追求する力（倫理観）
3. 看護とは何かを考える力（人間理解・生命の尊厳）
4. 看護の対象を理解する力（人間理解）
5. 対象者中心の看護を探求する力（科学的・論理的思考・創造性）
6. 対象者中心の看護を実践する力（コミュニケーション技術・創造性）
7. 多様な場で協働する力（コミュニケーション技術・多様性・協働）
8. 地域中心の看護を探求する力（科学的・論理的思考・コミュニケーション技術・多様性・創造性・協働）
9. 母子と家族中心の助産を実践する力（科学的・論理的思考・コミュニケーション技術・多様性・創造性・協働）

最後に、皆さんが学ぶ科目を理解しましょう！

Q 卒業要件を達成するために、4年間で学ぶ科目はどのように構成されているのでしょうか。

A 保健看護学科の教育課程は、次のカリキュラム・ポリシーに基づき構成されています。

1. 学科の学位取得（大学卒業）を目的とした教育課程（学位プログラム）
 - (1) 次の9つの能力が、学科の学位を取得する要件となります。以下の科目群の履修によって9つの能力を身につけましょう。
 - ① 学び続ける力：看護の基礎を築く科目群
 - ② 看護者として倫理を追求する力：看護の基礎を築く科目群
 - ③ 看護とは何かを考える力：看護の基礎を築く科目群
 - ④ 看護の対象を理解する力：看護の基礎を築く科目群
 - ⑤ 対象者中心の看護を探求する力：看護の実践力を高める科目群
 - ⑥ 対象者中心の看護を実践する力：看護の実践力を高める科目群
 - ⑦ 多様な場で協働する力：看護の実践力を高める科目群
 - ⑧ 地域中心の看護を探求する力：看護の専門性を積み上げる科目群
 - ⑨ 母子と家族中心の助産を実践する力：看護の専門性を積み上げる科目群
 - (2) 各科目群の授業科目を、履修モデルに示す年次進行に沿って履修しましょう。
 - (3) 履修モデルは看護師・保健師・助産師と3種類あります。取得する資格によって履修モデルを選択しましょう。
 2. 各種資格を取得するための教育課程（資格プログラム※）
 - (1) 各種の資格を取得するための能力は、それぞれの科目群（実習等を含む）を履修モデルの年次進行に沿って履修することによって身につけましょう。
 - (2) 取得する資格別に定められた履修モデル等に沿って学修しましょう。
 - (3) 各資格プログラムに含まれる授業科目で取得した単位は、年間の修得単位数に含まれます。
- ※看護師教育課程の資格プログラムは、学位プログラムと同様です。

教育課程の構造

資格プログラム

(保健師、助産師)

【看護の専門性を積み上げる科目】

- 地域中心の看護を探求する力
(保健師)
- 母子と家族中心の助産を実践する力
(助産師)

学位プログラム(看護学)

(看護師の資格プログラム)

【看護の実践力を高める科目】

- 対象者中心の看護を探求する力
- 対象者中心の看護を実践する力
- 多様な場で協働する力

【看護の基礎を築く科目】

- 学び続ける力
- 看護者として倫理を追求する力
- 看護とは何かを考える力
- 看護の対象を理解する力

全学実践科目

- Global化の推進
- ボランティア支援
- 就職支援
- ICT支援

基盤教育科目

- 建学の精神を知る科目:TFU科目
- 自分自身を考える科目:自己管理能力
- 多様性を考える科目:思考・判断力、表現力
- 自他の調和を考える科目:社会力

建学の精神: **行学一如** 教育理念: **自利・利他円満**

(1) 看護師・保健師・助産師教育課程

本学科では、全員が履修する看護師教育課程の授業科目に加え、選択者が履修する保健師教育課程、助産師教育課程の授業科目を開講しています。

授業科目は基盤教育科目と学科教育科目、資格教育科目に分類されています。基盤教育科目の履修方法は全学生共通ですが、学科教育科目および資格教育科目については、選択する課程によって履修方法が変わります。保健師・助産師国家試験受験資格取得希望者は、以下とあわせ「(2) 国家試験受験資格」を確認してください。

① 履修方法

(ア) 看護師教育課程

本学科学生は必修となっています。また、保健師教育課程および助産師教育課程の基盤にもなります。看護師教育課程の科目を履修するにあたり、看護学臨地実習に伴う実習費の納入が必要です（学費として納付）。

基盤教育科目の履修については、p.36の科目一覧の要件を満たすように履修する必要があります。保健看護学科の学生は、履修方法に記載されている要件のほか、「思考・判断力」のうち「性と生殖」が必修となり、さらに同区分から2単位以上の単位修得が必要です。学科教育課程については、p.48の（履修モデル＜看護師＞）に沿って履修してください。基盤教育科目、学科教育科目、資格教育科目を合わせて125単位以上の修得が卒業要件となり、同時に看護師国家試験受験資格に必要な指定単位となります。

(イ) 看護師教育課程＋保健師教育課程

基盤教育科目の履修については、看護師教育課程に準じます。学科教育科目、資格教育科目については、p.50の（履修モデル＜保健師＞）に沿って履修してください。基盤教育科目とあわせて合計150単位以上が保健師国家試験受験資格に必要な指定単位となります。

●定員：20名程度

●選考方法等：

2年次後期にガイダンスを実施し、12月以降に、筆記試験、1年次・2年次のGPA値、個人面接等による選考を行います。保健師教育課程に所属する学生は、課程履修費が別途必要となります。

(ウ) 看護師教育課程＋助産師教育課程

基盤教育科目の履修については、看護師教育課程に準じます。学科教育科目、資格教育科目については、p.53の（履修モデル＜助産師＞）に沿って履修してください。基盤教育科目とあわせて合計153単位以上が助産師国家試験受験資格に必要な指定単位となります。

●定員：5名程度

●選考方法等：

3年次にガイダンスを実施し、12月以降に、筆記試験、1年次～3年次のGPA値、小論文試験、個人面接等による選考を行います。助産師教育課程に所属する学生は、課程履修費が別途必要となります。

② 履修上の注意事項

- 単位未修得の必修科目については、進級後においても、下の学年の科目を優先して履修することが原則です。
- 3年次に開講される「看護過程総合演習」および「看護統合演習I」については、原則として、基盤教育科目における「性と生殖」および2年次までに開講される専門教育科目における必修科目についてすべて単位修得していることを履修要件とします。
- 集中講義と看護学臨地実習の開講時期が重なる可能性があります。履修にあたっては留意してください。
- 保健師教育課程・助産師教育課程の選択においては、その基盤となる学科教育課程の各科目の単位修得が必須となります。1年次より留意しながら学習してください。
- 「看護の専門性を積み上げる科目」のうち「地域中心の看護を探究する力」は保健師教育課程選択者の

みの必修科目、同「母子と家族中心の助産を实践する力」は助産師教育課程選択者のみの必修科目です。

- 保健師教育課程・助産師教育課程の授業科目においては、看護師教育課程のみ履修の学生にも開講しているものがあります。積極的な履修をお勧めします。

(2) 国家試験受験資格

本学科にて取得可能な資格は、看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格（選択学生のみ）および助産師国家試験受験資格（選択学生のみ）です。看護師、保健師、助産師はいずれも「保健師助産師看護師法」に定められている国家資格です。

■看護師国家試験受験資格

看護師教育課程において所定の単位を修得することにより、看護師国家試験受験資格を取得することができます。

■保健師国家試験受験資格（選択学生のみ）

看護師教育課程および保健師教育課程における所定の単位を修得することにより、保健師国家試験受験資格を取得することができます。なお、保健師は、看護師の資格を有することが必要となっています。

■助産師国家試験受験資格（選択学生のみ）

看護師教育課程および助産師教育課程における所定の単位を修得することにより、助産師国家試験受験資格を取得することができます。なお、助産師は、看護師の資格を有することが必要となっています。

(3) 保健看護学科 科目一覧

◎科目は、下表の「履修方法」に示されている要件を満たすように履修し、単位を修得する必要があります。原則として、別に示す「履修モデル」に準じて履修するようにしてください。

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法	
		必修	選択			
看護の基礎を築く科目	学び続ける力	基礎演習アドバンス	1		必修8単位 ※1 保健師教育課程を卒業後、養護教諭2種免許状を申請する場合は必修。	
		生活の科学	1			
		情報処理実習 ※1		2		
		リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2			
		リエゾンゼミⅢ（統合演習Ⅰ）	2			
		リエゾンゼミⅣ（統合演習Ⅱ）	2			
	看護師として倫理を追求する力	看護倫理	1		必修8単位 ※2 卒業後、看護師養成所の専任教員を目指す学生は受講すること。	
		医療安全論	1			
		公衆衛生学	2			
		社会福祉原論	2			
		看護と関係法規	1			
		教育学 ※2		2		
	看護とは何かを考える力	障害者教育方法論 ※2		2	4年	必修11単位 ※3 保健師教育課程は必修 ※4 助産師教育課程は必修
		生死論	1		2年以上	
		看護学原論	1		1年以上	
		臨床看護論	1		1年以上	
		地域看護学概論	1		1年以上	
		看護学基礎実習Ⅰ（人々の暮らしとWell-being）	1		1年以上	
		看護学基礎実習Ⅱ（看護の機能と役割）	1		1年以上	
		在宅看護学概論	1		1年以上	
精神看護学概論	1		1年以上			
母性看護学概論	1		1年以上			
小児看護学概論	1		2年以上			
成人看護学概論	1		2年以上			
老年看護学概論	1		2年以上			
公衆衛生看護学概論 ※3		1	2年以上			
助産学概論 ※4		1	2年以上			

(次頁へ続く)

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法	
		必修	選択			
看護の基礎を築く科目	看護の対象を理解する力	人体の構造と機能Ⅰ	2		1年以上	必修30単位 ※3 保健師教育課程は必修 ※4 助産師教育課程は必修
		人体の構造と機能Ⅱ	2		1年以上	
		生化学・代謝学	1		1年以上	
		微生物学	1		1年以上	
		栄養学	1		3年以上	
		生涯発達心理学	1		1年以上	
		行動科学 ※3		1	2年以上	
		保健医療社会学	1		1年以上	
		文化人類学 ※3 ※4		1	3年以上	
		家族看護論	1		2年以上	
		病態学・病理学	1		1年以上	
		臨床薬理学	2		2年以上	
		臨床検査学	1		2年以上	
		疾病治療論Ⅰ	2		2年以上	
		疾病治療論Ⅱ	1		2年以上	
		疾病治療論Ⅲ	2		2年以上	
		精神疾病治療論	1		2年以上	
		小児疾病治療論	1		2年以上	
		女性疾病治療論	1		2年以上	
		医療情報学	1		2年以上	
		保健統計学 ※3		2	3年以上	
		疫学 ※3		2	3年以上	
		地域看護援助論Ⅰ ※3 ※4	1		2年以上	
		地域看護援助論Ⅱ ※3		1	2年以上	
		公衆衛生看護援助論Ⅰ ※3		1	2年以上	
		公衆衛生看護援助論Ⅱ ※3		1	2年以上	
		在宅看護援助論Ⅰ	1		1年以上	
		精神看護援助論Ⅰ	1		2年以上	
		母性看護援助論Ⅰ	1		2年以上	
		小児看護援助論Ⅰ	1		2年以上	
成人看護援助論Ⅰ	1		2年以上			
老年看護援助論Ⅰ	1		2年以上			
看護の実践力を高める科目	対象者中心の看護を探求する力	コミュニケーション論	1		1年以上	必修24単位 ※3 保健師教育課程は必修 ※4 助産師教育課程は必修
		看護過程論	1		2年以上	
		看護学基礎実習Ⅲ（対象者中心の看護の探求）	2		2年以上	
		ヘルスアセスメント論	1		2年以上	
		看護過程総合演習	1		3年以上	
		看護統合演習Ⅰ	1		3年以上	
		看護統合演習Ⅱ	1		4年	
		在宅看護援助論Ⅱ	1		2年以上	
		公衆衛生看護援助論Ⅲ ※3		1	2年以上	
		精神看護援助論Ⅱ	1		2年以上	
		母性看護援助論Ⅱ	1		2年以上	
		地域母子保健 ※4		2	2年以上	
		助産診断技術論Ⅰ ※4		1	3年以上	
		助産診断技術論Ⅱ ※4		1	3年以上	
		小児看護援助論Ⅱ	1		3年以上	
		成人看護援助論Ⅱ	1		3年以上	
		老年看護援助論Ⅱ	1		3年以上	
		がん看護論	1		3年以上	
		周手術期・救命救急看護論	2		3年以上	
		在宅看護援助論Ⅲ	1		3年以上	
		精神看護援助論Ⅲ	1		3年以上	
		母性看護援助論Ⅲ	1		3年以上	
		小児看護援助論Ⅲ	1		3年以上	
		老年看護援助論Ⅲ	1		3年以上	
		看護管理	1		3年以上	
		看護研究方法論	1		3年以上	
		看護学研究		2	4年	

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法	
		必修	選択			
看護の実践力を高める科目	対象者中心の看護を実践する力	生活援助論Ⅰ	2		1年以上	必修22単位
		生活援助論Ⅱ	2		2年以上	
		診療援助論	1		2年以上	
		看護技術総合演習		1	4年	
		臨床看護実習Ⅰ	2		3年以上	
		臨床看護実習Ⅱ	2		3年以上	
		臨床看護実習Ⅲ	2		3年以上	
		重症・集中ケア実習	1		3年以上	
		在宅看護学実習	2		3年以上	
		精神看護学実習	2		3年以上	
		母性看護学実習	2		3年以上	
		小児看護学実習	2		3年以上	
	看護学統合実習	2		4年		
	多様な場で協働する力	産業保健論 ※3		1	3年以上	必修4単位 ※3 保健師教育課程は必修
学校保健論 ※3			1	3年以上		
災害看護論		1		3年以上		
国際看護論			1	4年		
多職種連携論		1		3年以上		
認知症ケア実習		1		3年以上		
継続看護実習		1		3年以上		
アドバンスド看護実習		1	4年			
看護の専門性を積み上げる科目	地域中心の看護を探求する力	公衆衛生看護援助論Ⅳ		1	3年以上	保健師選択者は必修12単位
		公衆衛生看護援助論Ⅴ		1	3年以上	
		公衆衛生看護援助論Ⅵ		1	4年	
		公衆衛生看護援助論Ⅶ		2	4年	
		公衆衛生看護学研究		2	4年	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ		1	3年以上	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ		1	3年以上	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ		3	4年	
	母子と家族中心の助産を実践する力	助産診断技術論Ⅲ		1	3年以上	助産師選択者は必修21単位
		助産診断技術論Ⅳ		1	3年以上	
		助産診断技術論Ⅴ		3	4年	
		助産診断技術論Ⅵ		1	4年	
		助産管理		2	4年	
		助産学研究		2	4年	
助産学実習Ⅰ		1	4年			
助産学実習Ⅱ		2	4年			
助産学実習Ⅲ		2	4年			
助産学実習Ⅳ		6	4年			

(4) 履修モデル

〈看護師〉

授業科目の区分 (身につける能力)			授業科目名	単位数		履修モデル				
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	
人間基礎力を養う科目 基盤教育科目	建学の精神を知る科目	TFU科目 (必修7単位)	Well-Beingを考える	2		2				
			福祉と仏教	2		2				
			禅のこころ	1		1				
			リエゾンゼミⅠ	2		2				
	自分自身を考える科目	自己管理能力 (セルフマネジメント) (必修2単位)	キャリアデザイン	1		1				
			身体をととのえる	1		1				
	多様性を考える科目	思考・判断力 (必修1単位、 選択必修2単位)	性と生殖	1		1				
			統計情報を見る眼		2		2			
			表現力 (必修4単位)	英語Ⅰ	2		2			
			英語Ⅱ	2			2			
	自他の調和を考える科目	社会力 (選択必修2単位)	人間関係について学ぶ		2	2				
	基盤教育科目 履修単位数 (18単位以上)						14	4		
							18			
	看護の基礎を築く科目	学び続ける力	基礎演習アドバンス	1		1				
生活の科学			1		1					
リエゾンゼミⅡ (専門基礎演習)			2			2				
リエゾンゼミⅢ (統合演習Ⅰ)			2				2			
リエゾンゼミⅣ (統合演習Ⅱ)			2					2		
看護者として倫理を追求する力		看護倫理	1		1					
		医療安全論	1			1				
		公衆衛生学	2		2					
		社会福祉原論	2			2				
		看護と関係法規	1					1		
		生死論	1			1				
看護とは何かを考える力		看護学原論	1		1					
		臨床看護論	1		1					
		地域看護学概論	1		1					
		看護学基礎実習Ⅰ (人々の暮らしとWell-being)	1		1					
		看護学基礎実習Ⅱ (看護の機能と役割)	1		1					
		在宅看護学概論	1		1					
		精神看護学概論	1		1					
		母性看護学概論	1		1					
		小児看護学概論	1			1				
		成人看護学概論	1			1				
		老年看護学概論	1			1				
看護の対象を理解する力		人体の構造と機能Ⅰ	2		2					
		人体の構造と機能Ⅱ	2		2					
		生化学・代謝学	1		1					
		微生物学	1		1					
		栄養学	1				1			
		生涯発達心理学	1		1					
		保健医療社会学	1		1					
		家族看護論	1			1				
		病態学・病理学	1		1					
		臨床薬理学	2			2				
		臨床検査学	1			1				
		疾病治療論Ⅰ	2			2				
		疾病治療論Ⅱ	1			1				
		疾病治療論Ⅲ	2			2				
		精神疾病治療論	1			1				
	小児疾病治療論	1			1					
	女性疾病治療論	1			1					

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		履修モデル				
			必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	
看護の基礎を築く科目	看護の対象を理解する力	医療情報学	1			1			
		地域看護援助論Ⅰ	1			1			
		在宅看護援助論Ⅰ	1		1				
		精神看護援助論Ⅰ	1			1			
		母性看護援助論Ⅰ	1			1			
		小児看護援助論Ⅰ	1			1			
		成人看護援助論Ⅰ	1			1			
		老年看護援助論Ⅰ	1			1			
看護の基礎を築く科目 履修単位数 (必修57単位)					23	28	3	3	
					57				
看護の実践力を高める科目	対象者中心の看護を探求する力	コミュニケーション論	1		1				
		看護過程論	1			1			
		看護学基礎実習Ⅲ (対象者中心の看護の探求)	2			2			
		ヘルスアセスメント論	1			1			
		看護過程総合演習	1				1		
		看護統合演習Ⅰ	1				1		
		看護統合演習Ⅱ	1					1	
		在宅看護援助論Ⅱ	1			1			
		精神看護援助論Ⅱ	1			1			
		母性看護援助論Ⅱ	1			1			
		地域母子保健		2		2			
		小児看護援助論Ⅱ	1				1		
		成人看護援助論Ⅱ	1				1		
		老年看護援助論Ⅱ	1				1		
		がん看護論	1				1		
		周手術期・救命救急看護論	2				2		
		在宅看護援助論Ⅲ	1				1		
		精神看護援助論Ⅲ	1				1		
		母性看護援助論Ⅲ	1				1		
		小児看護援助論Ⅲ	1				1		
		老年看護援助論Ⅲ	1				1		
		看護管理	1				1		
		看護研究方法論	1				1		
	看護学研究		2				2		
	対象者中心の看護を 実践する力	生活援助論Ⅰ	2		2				
		生活援助論Ⅱ	2			2			
		診療援助論	1			1			
		看護技術総合演習		1				1	
		臨床看護実習Ⅰ ※	2					2	
		臨床看護実習Ⅱ ※	2					2	
		臨床看護実習Ⅲ ※	2					2	
		重症・集中ケア実習 ※	1					1	
		在宅看護学実習 ※	2					2	
		精神看護学実習 ※	2					2	
		母性看護学実習 ※	2					2	
		小児看護学実習 ※	2					2	
		看護学統合実習	2					2	
	多様な場で協働する力	災害看護論	1				1		
		国際看護論		1				1	
		多職種連携論	1				1		
		認知症ケア実習 ※	1					1	
		継続看護実習 ※	1					1	
	アドバンスド看護実習		1					1	
	看護の実践力を高める科目 履修単位数 (必修50単位)					3	12	17	25
						57			
	履修単位数合計 (125単位)					40	44	20	28
						132			

※ 下の学年において単位修得ができなかった必修科目は、進級した際に優先して履修すること。

<保健師>

授業科目の区分 (身につける能力)			授業科目名	単位数		履修モデル			
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
基盤教育科目	建学の精神を知る科目	TFU科目 (必修7単位)	Well-Beingを考える	2		2			
			福祉と仏教	2		2			
			禅のこころ	1		1			
			リエゾンゼミⅠ	2		2			
	自分自身を考える科目	自己管理能力 (セルフマネジメント) (必修2単位)	キャリアデザイン	1		1			
			身体をととのえる	1		1			
			日常をととのえる ※1		2	2			
	多様性を考える科目	思考・判断力 (必修1単位、 選択必修2単位)	性と生殖	1		1			
			モノの見方・考え方		2	2			
		表現力 (必修4単位)	英語Ⅰ	2		2			
			英語Ⅱ	2			2		
	自他の調和を考える科目	社会力 (選択必修2単位)	日本国憲法 ※1		2				2
			人間関係について学ぶ		2	2			
	基盤教育科目 履修単位数 (18単位以上)						18	2	
						22			
看護の基礎を築く科目	学び続ける力		基礎演習アドバンス	1		1			
			生活の科学	1		1			
			情報処理実習 ※1		2	2			
			リエゾンゼミⅡ (専門基礎演習)	2			2		
			リエゾンゼミⅢ (統合演習Ⅰ)	2				2	
			リエゾンゼミⅣ (統合演習Ⅱ)	2					2
	看護者として倫理を追求する力		看護倫理	1		1			
			医療安全論	1			1		
			公衆衛生学	2		2			
			社会福祉原論	2			2		
			看護と関係法規	1					1
			教育学		2				2
			障害者教育方法論		2				2
			生死論	1			1		
	看護とは何かを考える力		看護学原論	1		1			
			臨床看護論	1		1			
			地域看護学概論	1		1			
			看護学基礎実習Ⅰ (人々の暮らしとWell-being)	1		1			
			看護学基礎実習Ⅱ (看護の機能と役割)	1		1			
			在宅看護学概論	1		1			
			精神看護学概論	1		1			
			母性看護学概論	1		1			
			小児看護学概論	1			1		
			成人看護学概論	1			1		
			老年看護学概論	1			1		
			公衆衛生看護学概論	1			1		
	看護の対象を理解する力		人体の構造と機能Ⅰ	2		2			
			人体の構造と機能Ⅱ	2		2			
			生化学・代謝学	1		1			
			微生物学	1		1			
			栄養学	1				1	
			生涯発達心理学	1		1			
			行動科学	1			1		
保健医療社会学			1		1				

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		履修モデル			
			必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
看護の基礎を築く科目	看護の対象を理解する力	文化人類学	1				1	
		家族看護論	1			1		
		病態学・病理学	1		1			
		臨床薬理学	2			2		
		臨床検査学	1			1		
		疾病治療論Ⅰ	2			2		
		疾病治療論Ⅱ	1			1		
		疾病治療論Ⅲ	2			2		
		精神疾病治療論	1			1		
		小児疾病治療論	1			1		
		女性疾病治療論	1			1		
		医療情報学	1			1		
		保健統計学	2					2
		疫学	2					2
		地域看護援助論Ⅰ	1				1	
		地域看護援助論Ⅱ	1				1	
		公衆衛生看護援助論Ⅰ	1				1	
		公衆衛生看護援助論Ⅱ	1				1	
		在宅看護援助論Ⅰ	1		1			
		精神看護援助論Ⅰ	1				1	
		母性看護援助論Ⅰ	1				1	
		小児看護援助論Ⅰ	1				1	
		成人看護援助論Ⅰ	1				1	
老年看護援助論Ⅰ	1				1			
看護の基礎を築く科目 履修単位数 (必修67単位)					25	33	8	7
					73			
看護の実践力を高める科目	対象者中心の看護を 探求する力	コミュニケーション論	1		1			
		看護過程論	1			1		
		看護学基礎実習Ⅲ (対象者中心の看護の探求)	2			2		
		ヘルスアセスメント論	1			1		
		看護過程総合演習	1					1
		看護統合演習Ⅰ	1					1
		看護統合演習Ⅱ	1					1
		在宅看護援助論Ⅱ	1			1		
		公衆衛生看護援助論Ⅲ	1			1		
		精神看護援助論Ⅱ	1			1		
		母性看護援助論Ⅱ	1			1		
		小児看護援助論Ⅱ	1					1
		成人看護援助論Ⅱ	1					1
		老年看護援助論Ⅱ	1					1
		がん看護論	1					1
		周手術期・救命救急看護論	2					2
		在宅看護援助論Ⅲ	1					1
		精神看護援助論Ⅲ	1					1
		母性看護援助論Ⅲ	1					1
		小児看護援助論Ⅲ	1					1
		老年看護援助論Ⅲ	1					1
		看護管理	1					1
		看護研究方法論	1					1

(次頁へ続く)

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		履修モデル			
			必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
看護の実践力を高める科目 [※] 履修年次は 3年後期～4年前期	対象者中心の看護を 実践する力	生活援助論Ⅰ	2		2			
		生活援助論Ⅱ	2			2		
		診療援助論	1			1		
		臨床看護実習Ⅰ ※	2					2
		臨床看護実習Ⅱ ※	2					2
		臨床看護実習Ⅲ ※	2					2
		重症・集中ケア実習 ※	1					1
		在宅看護学実習 ※	2					2
		精神看護学実習 ※	2					2
		母性看護学実習 ※	2					2
		小児看護学実習 ※	2					2
	看護学統合実習	2						2
	多様な場で協働する力	産業保健論	1				1	
		学校保健論	1				1	
		災害看護論	1				1	
		多職種連携論	1				1	
認知症ケア実習 ※		1					1	
継続看護実習 ※	1						1	
看護の実践力を高める科目 履修単位数 (必修53単位)					3	11	19	20
					53			
看護の専門性を 積み上げる科目	地域中心の看護を 探求する力	公衆衛生看護援助論Ⅳ	1				1	
		公衆衛生看護援助論Ⅴ	1				1	
		公衆衛生看護援助論Ⅵ	1					1
		公衆衛生看護援助論Ⅶ	2					2
		公衆衛生看護学研究	2					2
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	1				1	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	1				1	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ	3					3
看護の専門性を積み上げる科目 履修単位数 (必修12単位)					0	0	4	8
					12			
履修単位数合計 (150単位)					46	46	31	37
					160			

※ 下の学年において単位修得ができなかった必修科目は、進級した際に優先して履修すること。

※ 1 卒業後、養護教諭二種免許状の申請をする場合は必修。

<助産師>

授業科目の区分 (身につける能力)			授業科目名	単位数		履修モデル			
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
基盤教育科目 (人間基礎力を養う科目)	建学の精神を知る科目	TFU科目 (必修7単位)	Well-Beingを考える	2		2			
			福祉と仏教	2		2			
			禅のこころ	1		1			
			リエゾンゼミ I	2		2			
	自分自身を考える科目	自己管理能力 (セルフマネジメント) (必修2単位)	キャリアデザイン	1		1			
			身体をととのえる	1		1			
	多様性を考える科目	思考・判断力 (必修1単位、 選択必修2単位)	性と生殖	1		1			
			モノの見方・考え方		2	2			
			統計情報を見る眼		2		2		
		表現力 (必修4単位)	英語 I	2		2			
		英語 II	2			2			
自他の調和を考える科目	社会力 (選択必修2単位)	人間関係について学ぶ		2	2				
基盤教育科目 履修単位数 (18単位以上)						16	4		
						20			
看護の基礎を築く科目	学び続ける力		基礎演習アドバンス	1		1			
			生活の科学	1		1			
			リエゾンゼミ II (専門基礎演習)	2			2		
			リエゾンゼミ III (統合演習 I)	2				2	
			リエゾンゼミ IV (統合演習 II)	2					2
	看護者として倫理を追求する力		看護倫理	1		1			
			医療安全論	1			1		
			公衆衛生学	2		2			
			社会福祉原論	2			2		
			看護と関係法規	1					1
			生死論	1			1		
	看護とは何かを考える力		看護学原論	1		1			
			臨床看護論	1		1			
			地域看護学概論	1		1			
			看護学基礎実習 I (人々の暮らしとWell-being)	1		1			
			看護学基礎実習 II (看護の機能と役割)	1		1			
			在宅看護学概論	1		1			
			精神看護学概論	1		1			
			母性看護学概論	1		1			
			小児看護学概論	1			1		
			成人看護学概論	1			1		
			老年看護学概論	1			1		
			助産学概論	1			1		
			看護の対象を理解する力		人体の構造と機能 I	2		2	
	人体の構造と機能 II	2				2			
	生化学・代謝学	1				1			
	微生物学	1				1			
	栄養学	1						1	
	生涯発達心理学	1				1			
	保健医療社会学	1				1			
	文化人類学	1						1	
	家族看護論	1					1		
	病態学・病理学	1				1			
臨床薬理学	2					2			

(次頁へ続く)

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		履修モデル			
			必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
看護の基礎を築く科目	看護の対象を理解する力	臨床検査学	1			1		
		疾病治療論Ⅰ	2			2		
		疾病治療論Ⅱ	1			1		
		疾病治療論Ⅲ	2			2		
		精神疾病治療論	1			1		
		小児疾病治療論	1			1		
		女性疾病治療論	1			1		
		医療情報学	1			1		
		地域看護援助論Ⅰ	1			1		
		地域看護援助論Ⅱ	1			1		
		在宅看護援助論Ⅰ	1		1			
		精神看護援助論Ⅰ	1			1		
		母性看護援助論Ⅰ	1			1		
		小児看護援助論Ⅰ	1			1		
成人看護援助論Ⅰ	1			1				
老年看護援助論Ⅰ	1			1				
看護の基礎を築く科目 履修単位数 (必修60単位)					23	30	4	3
					60			
看護の実践力を高める科目	対象者中心の看護を 探求する力	コミュニケーション論	1		1			
		看護過程論	1			1		
		看護学基礎実習Ⅲ (対象者中心の看護の探求)	2			2		
		ヘルスアセスメント論	1			1		
		看護過程総合演習	1					1
		看護統合演習Ⅰ	1					1
		看護統合演習Ⅱ	1					1
		在宅看護援助論Ⅱ	1			1		
		精神看護援助論Ⅱ	1			1		
		母性看護援助論Ⅱ	1			1		
		地域母子保健	2			2		
		助産診断技術論Ⅰ	1					1
		助産診断技術論Ⅱ	1					1
		小児看護援助論Ⅱ	1					1
		成人看護援助論Ⅱ	1					1
		老年看護援助論Ⅱ	1					1
		がん看護論	1					1
		周手術期・救命救急看護論	2					2
		在宅看護援助論Ⅲ	1					1
		精神看護援助論Ⅲ	1					1
	母性看護援助論Ⅲ	1					1	
	小児看護援助論Ⅲ	1					1	
	老年看護援助論Ⅲ	1					1	
	看護管理	1					1	
	看護研究方法論	1					1	
	対象者中心の看護を 実践する力	生活援助論Ⅰ	2		2			
		生活援助論Ⅱ	2			2		
診療援助論		1			1			
臨床看護実習Ⅰ ※		2					2	
臨床看護実習Ⅱ ※		2					2	
臨床看護実習Ⅲ ※		2					2	
重症・集中ケア実習 ※		1					1	
在宅看護学実習 ※	2					2		
[※] 履修年次は 3年後期～4年前期								

授業科目の区分（身につける能力）		授業科目名	単位数		履修モデル			
			必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
看護の実践力を高める科目	対象者中心の看護を 実践する力	精神看護学実習 ※	2				2	
		母性看護学実習 ※	2				2	
		小児看護学実習 ※	2				2	
		看護学統合実習	2					2
	多様な場で協働する力	災害看護論	1				1	
		多職種連携論	1				1	
		認知症ケア実習 ※	1				1	
	継続看護実習 ※	1				1		
看護の実践力を高める科目 履修単位数（必修54単位）					3	12	19	20
					54			
看護の専門性を積み上げる科目	母子と家族中心の助産 を実践する力	助産診断技術論Ⅲ	1				1	
		助産診断技術論Ⅳ	1				1	
		助産診断技術論Ⅴ	3					3
		助産診断技術論Ⅵ	1					1
		助産管理	2					2
		助産学研究	2					2
		助産学実習Ⅰ	1					1
		助産学実習Ⅱ	2					2
		助産学実習Ⅲ	2					2
		助産学実習Ⅳ	6					6
看護の専門性を積み上げる科目 履修単位数（必修21単位）					0	0	2	19
					21			
履修単位数合計（153単位）					42	46	25	42
					155			

※ 下の学年において単位修得ができなかった必修科目は、進級した際に優先して履修すること。

(5) 実習

① 看護師教育課程

保健看護学科では、看護学臨地実習として23単位が必修となっており、1単位45時間を要します。

なお、実習履修の可否は下記要件のほかに単位修得・成績・授業への参加状況等をもとに実習判定会議で総合的に判断します。

科目名				内容および履修要件
看護師・保健師・助産師教育課程で必要な実習				
看護の基礎を築く科目		看護の実践力を高める科目		
看護とは何かを考える力	対象者中心の看護を探究する力	対象者中心の看護を実践する力	多様な場で協働する力	
(1)	看護学基礎実習Ⅰ (人々の暮らしとWell-being)			看護職は、同じ社会で生きる「人」として、対象の「生活」や「人生」を考えながら専門性を発揮することが求められる。そこで、看護学生として学ぶ早い段階でのこの実習では、地域で提供される住民サービスや活動およびそれらのつながりを理解すると共に、学生も住民と共に参加し、活動を通して「地域で生活すること」、「住み慣れた地域で、その人がその人らしく生活すること」を理解し体感する。またこれらを踏まえ地域包括ケアシステムの役割を考察する。 【履修要件】 「看護倫理」「地域看護学概論」「コミュニケーション論」の単位修得見込みであること。
(2)	看護学基礎実習Ⅱ (看護の機能と役割)			初回病院実習として、看護師に同行し患者の療養生活とそれを支える看護実践を学ぶことにより看護の役割と機能について考える。また、フィールドワークから自分とは異なる年代や背景をもつ人々の生活、環境についての理解を深め、生活と健康について考える。 【履修要件】 「看護学基礎実習Ⅰ」およびその履修要件となっている科目、「看護学原論」「臨床看護論」の単位を修得していること。
(3)		看護学基礎実習Ⅲ (対象者中心の看護の探究)		実習施設の病棟にて、教員および臨地実習指導者の指導下で患者を受け持ち実習を行う。臨床の場で、看護の対象となる人の健康障害や日常生活に及ぼす影響を把握し、援助のニーズを明確にする。既習の知識、技術を統合させながら、援助計画を立案し、基本的な援助を実施する。看護援助者としての自己洞察をおこなうことで、専門職業人としての素地を養う。 【履修要件】 「看護学基礎実習Ⅱ」およびその履修要件となっている科目、「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」「生化学・代謝学」「微生物学」「病態学・病理学」「生活援助論Ⅰ」の単位を修得していること、「臨床薬理学」「看護過程論」「生活援助論Ⅱ」の単位修得見込みであること。
以下(4)～(13)の実習(臨床看護実習Ⅰ、臨床看護実習Ⅱ、臨床看護実習Ⅲ、重症・集中ケア実習、在宅看護学実習、精神看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、認知症ケア実習、継続看護実習)の履修にあたっては、次のとおりとする。				
【履修要件】 原則として、基盤教育科目における「性と生殖」および3年前期までに開講される専門教育科目における必修科目について、すべて単位修得していること。				
(4)			臨床看護実習Ⅰ	臨床看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、様々な健康障害をもつ成人期・老年期にある対象を統合的に理解し、看護を実践するための基本的知識・技術・態度を養う。多様な学びが構成できるよう、実習施設を器官系統別に配置し、健康障害が対象者の生活や人生に及ぼす影響、必要となる看護の違いと共通点に対する理解を深め、ライフステージや健康レベルなど対象者の特性と健康課題に応じた看護過程の展開を重ねることで段階的に学びを深めていく。
(5)			臨床看護実習Ⅱ	
(6)			臨床看護実習Ⅲ	
(7)			重症・集中ケア実習	救急・重症患者を中心とした生命の危機的状態にある看護ケアを必要とする人々と取り巻く環境、救急・重症者に生じる生体反応について理解し、生命の危機的状態にある人々の集中治療と救急医療についての実際について学び、生命の維持・回復に向けた患者と家族に対する看護援助方法の特徴を理解する。医療チームにおける看護師の役割および多職種との協働・連携のあり方に必要な知識、技術、態度を学ぶ。
(8)			在宅看護学実習	地域で生活する対象者とその家族の現状を把握し、疾病・障がいがあっても生活を継続していくための援助ニーズをアセスメントする。看護援助の実際を理解し、実践の基礎を学ぶ。社会資源の活用や多職種連携・協働の場面を学び、看護専門職としての役割や今後の在宅看護について考察する。

科目名				内容および履修要件
看護師・保健師・助産師教育課程で必要な実習				
看護の基礎を築く科目	看護の実践力を高める科目			
看護とは何かを考える力	対象者中心の看護を探求する力	対象者中心の看護を実践する力	多様な場で協働する力	
(9)		精神看護学実習		対象と場を共にする中で、受容的態度を養い、人間関係の形成過程について体験的に学習する。また、精神障害をもつ人の正しい立ちや生活環境に目を向けながら、精神状態やセルフケア能力をアセスメントし、対象のニーズと健康上の問題を考え、その人のもつ能力の維持・向上にむけた看護を実践する。さらに、精神医療・福祉で活用されている法律や実際に生じている倫理的問題について考察し、多面的に看護の役割について学習する。
(10)		母性看護学実習		妊娠・分娩・産褥・子育て各期の女性と子どもの健康に焦点を当て、その家族を含めた看護について実践的に学ぶ。具体的には、妊娠・分娩・産褥・新生児期における母子を受け持ち、その家族を含めて健康問題をとらえ、個別的な看護実践について学習する。さらに、生命の誕生、生命の尊厳について体験的に学び、母性看護の役割について理解を深める。
(11)		小児看護学実習		子どもの成長発達段階と健康レベル、および環境の影響を理解したうえで、子どもとその家族のニーズを把握し、根拠に基づいた看護を実践するための知識・技術・態度を学ぶ。さらに、子どもとその家族への援助を通して、小児看護の特徴を理解し、子どもに関わる多職種チームにおける看護師の役割と責任、子どもの最善の利益について考える。実習施設はおもに地域における小児医療の中核病院であり、地域の小児医療および小児看護の現状や問題、問題解決への取り組みについても学ぶ。
(12)			認知症ケア実習	超高齢社会を迎え、すべての看護職が認知症ケアを実践する必要のある現状をふまえ、認知症ケアを基礎教育から実践的に学ぶ重要性を考えた実習である。多様な高齢者施設がある総合大学としての本学の特徴や強みをいかし、重症度の異なる認知症者と接することで、認知症ケアにおける倫理、家族支援、認知症の重症度と認知機能低下に応じた日常生活を支援など、認知症ケアに必要な基本的知識・技術・態度について実践的に学ぶ。
(13)			継続看護実習	外来受診者に対する支援と入院患者が退院後も住み慣れた家庭や施設などで安心して生活が送れるように院内の多職種や地域と連携して退院後の療養生活の環境調整を行う入退院支援において看護師が果たしている役割および多職種との連携・協働の実際を学び、看護職の働きを長期的、広域的な視野から理解し、自身が行いたい多職種連携、地域連携を考える。
(14)		看護学統合実習		1～3年次までに修得した知識、技術、態度を統合させ、複数患者の看護に必要な多重課題への対応、優先順位の判断方法について実践しながら学ぶ。夜勤実習では夜間の看護業務や患者の状態から24時間継続的な看護の必要性を理解する。さらに、病棟組織を構成する看護管理者、チームリーダー、チームメンバーの役割、協働について理解を深め、卒業後医療チームの一員として役割を遂行するための自己の課題と対策を明確にする。 【履修要件】 「看護統合演習Ⅱ」の単位修得見込みであること、および原則として「臨床看護実習Ⅰ」「臨床看護実習Ⅱ」「臨床看護実習Ⅲ」「重症・集中ケア実習」「在宅看護学実習」「精神看護学実習」「母性看護学実習」「小児看護学実習」「認知症ケア実習」「継続看護実習」のうち14単位以上修得見込みであること。
(15)			アドバンスド看護実習 ※看護師教育課程対象・選択科目	本実習は、これまでの実習での学びをふまえ、多様な実習内容から、学生が主体性をもって関心のある内容を選び、看護を実践的に学ぶことで、将来のキャリア形成を意識することを目的とする。実習内容は、専門看護師・認定看護師等による卓越した実践が行われている多様な場での実習、総合大学の強みである福祉・心理・教育に関連した多様な施設での実習、新生児蘇生法等の資格取得を含む実習、等である。 【履修要件】 「臨床看護実習Ⅰ」「臨床看護実習Ⅱ」「臨床看護実習Ⅲ」「重症・集中ケア実習」「在宅看護学実習」「精神看護学実習」「母性看護学実習」「小児看護学実習」「認知症ケア実習」「継続看護実習」の単位を修得しているまたは単位修得見込みであること。

② 保健師教育課程

「公衆衛生看護学」における実習では、市町村、保健所、専門機関、事業所および学校等で展開されている各種事業・活動に参加し、保健師、関係職種および地域住民との協働を通じて、保健師に必要な知識・技術・態度を統合して学び、さまざまな対象の状況や場に応じて公衆衛生看護活動を実践できる基礎的な能力を身につけます。

科目名		内容および履修要件
保健師教育課程に必要な実習		
看護の専門性を積み上げる科目		
地域中心の看護を探求する力		
本区分における実習の履修は、保健師教育課程の選択者のみとする。		
<p>【履修要件】 実習の履修にあたっては、看護師・保健師国家試験受験資格取得に必要なすべての必修科目について、原則として「保健看護学科 科目一覧」および「履修モデル（保健師）」に示されている年次・期間において履修していることが必要である。さらに各実習以前の年次・期間に開講される科目については単位修得、同じ年次・期間に開講される科目については単位修得見込みであることを要件とする。なお、各実習の履修時期についても、原則として「保健看護学科 科目一覧」および「履修モデル（保健師）」に示されている年次・期間のみとする。</p>		
(1)	公衆衛生看護学実習Ⅰ	宮城県内市町村を実習フィールドとし、公衆衛生看護活動として展開されている各種事業、地区活動、家庭訪問等に参与しながら、活動の場の特性、活動の実際、対象の持つ健康課題と活動のつながりについて学習する。そして、これらの経験を踏まえ、人々の健康や生活に資する公衆衛生看護の役割について考察する。また、実習での体験を通じ、保健師を目指すうえでの自己の課題を明確化し、実践能力を高める方策を検討する契機とする。
(2)	公衆衛生看護学実習Ⅱ	宮城県内の保健所、専門機関、事業所および学校を実習フィールドとする。それぞれの場において展開されている、公衆衛生看護活動、産業保健活動、学校保健活動に関するオリエンテーションを踏まえ、実際の活動に参加する。そして、活動の場の特性、対象の持つ健康課題と活動のつながり、活動の実際、さらには地域ケアシステムや多職種連携について学習する。このような学習を踏まえ、公衆衛生看護の本質、役割についても考察していく。
(3)	公衆衛生看護学実習Ⅲ	宮城県内の市町村を実習フィールドとし、公衆衛生看護活動として展開されている各種事業、地区活動、家庭訪問等に参与しながら、公衆衛生看護活動の実際を理解していく。また、健康教育については、学生が実習指導者や実習指導教員の支援を受けながら、実際に看護過程を展開することによって、実践能力を高めていく。また、地域住民と関わり、保健師の実務に触れることを通じ、看護職者としての展望についても検討していく。

③ 助産師教育課程

「助産学」における実習では、周産期医療施設や地域の助産活動の場における実践を通して、助産師に必要な知識・技術・態度を統合して学び、さまざまな対象者の状況や場に応じて助産活動を実践できる基礎的な能力を身につけます。

科目名		内容および履修要件
助産師教育課程に必要な実習		
看護の専門性を積み上げる科目		
母子と家族中心の助産を実践する力		
本区分における実習の履修は、助産師教育課程の選択者のみとする。		
<p>【履修要件】 実習の履修にあたっては、看護師・助産師国家試験受験資格取得に要するすべての必修科目について、原則として「保健看護学科 科目一覧」および「履修モデル（助産師）」に示されている年次・期間において履修していることが必要である。さらに各実習以前の年次・期間に開講される科目については単位修得、同じ年次・期間に開講される科目については単位修得見込みであることを要件とする。なお、各実習の履修時期についても、原則として「保健看護学科 科目一覧」および「履修モデル（助産師）」に示されている年次・期間のみとする。</p>		
(1)	助産学実習Ⅰ	宮城県内の市町村及び地域における子育て支援施設で展開されている各種保健事業および子育て支援の活動への参与、活動の対象者との関わりを通じて、地域で生活する妊婦および母子、それを取り巻く家族のニーズと実際の活動の関連性を把握し、地域において子育て世帯を切れ目なく支援するシステムの概要と実際を学習する。そのシステムにおける多機関、多職種連携、支援者の役割、さらには助産師が果たすべき役割についても体験を通じて考察していく。
(2)	助産学実習Ⅱ	妊娠期にある対象者に対して、周産期医療施設の助産実習指導者の指導のもと妊婦健康診査を行う。また、実習期間中1人程度の妊婦を妊娠後期から継続して受け持ち、妊婦健康診査の結果をふまえて個別の健康教育の計画、実施、評価を行う。その際は、妊娠経過から分娩・産褥経過を予測し、予防的観点から日常生活上の個別の健康教育を実施する。さらに、ハイリスク状態の母子の状態についてアセスメントし、必要に応じた援助を考察する。
(3)	助産学実習Ⅲ	産褥期・新生児期にある対象者に対して、周産期医療施設の助産実習指導者の指導のもと、早期産褥期および早期新生児期の助産実践を行う。産褥期については、セルフケアと家族計画、育児に関する教育を含む産褥期の個別健康教育を実施する。また、新生児は胎外生活への適応の診断とケアを行う。さらに、ハイリスク状態の母子の状態についてアセスメントし、必要に応じた援助を実践の場で学び、産褥期における母子と家族に対する助産師の役割を考察する。
(4)	助産学実習Ⅳ	分娩期にある対象者に対して、周産期医療施設の助産実習指導者の指導のもと、分娩第1期から分娩第4期までの産婦への援助を継続して行い、産婦への助産活動の実際を学ぶ。具体的には、10症例程度の対象者にして分娩介助を実施し、産婦と胎児・新生児とその家族にとって安全・安楽な分娩介助技術を学ぶ。症例数に応じて、分娩介助技術の到達目標を設定し、段階的に、安全で確実な技術と態度を身につける。

(6) 保健看護学科で取得可能なその他の資格

① 新生児蘇生法 (NCPR) Bコース修了認定

NCPRとは、「新生児蘇生法 (Neonatal Cardio-Pulmonary Resuscitation)」の略で、出生時に呼吸や心臓の働きがうまくいかない新生児に対して行う心肺蘇生法です。日本周産期・新生児医学会が普及事業を主導しており、関連する医療従事者は講習会を受講して資格を取得します。この講習会で、新生児の救命と重篤な障害の回避につながる標準的な蘇生技術と知識を習得します。本コースでは助産学生や看護学生も受講できる基本的な知識と技術を学ぶことができます。本学では、本コースのインストラクターの資格を持つ教員が講義と演習 (標準3時間) を担当します。

所定の科目 (下記) を修得し、学外の試験に合格することで取得可能な資格です。

* 助産師教育課程においては、「助産診断技術論Ⅵ (必修科目)」

* 看護師教育課程においては、「アドバンスド看護実習 (選択科目)」履修者の希望者

※ 資格取得にかかる費用は、各自負担となります。

※ 費用を含め、資格取得に関しての詳細は、担当教員から随時お知らせします。

② 防災士

防災士は、防災に対する知識や技能を持つ人で、一定の知識・技能を習得したことを日本防災士機構が認定する民間資格です。防災士になるために必要な条件は、以下のとおりです。

● 大学等の認定研修機関で研修を修了すること

● 普通救急救命講習を修了すること

● 防災士資格試験に合格すること

本学では、防災士養成研修講座を実施しています。講座受講後、資格試験の合格を経て日本防災士機構へ登録申請することで資格取得となります。なお、在学中に試験に合格した場合の登録申請は、本学が代行します。

資格取得にかかる費用は、各自負担となります。費用を含め、資格取得に関しての詳細は、教員もしくは担当部署からUNIPAでお知らせします。

<防災士資格に関する問合せ部署>

東北福祉大学 国見キャンパス

防災士研修事務局

電話：022-766-8836

E-Mail：bousai@tfu-ac.net

3 リハビリテーション学科

理学療法学専攻を卒業するために

まずは、この学科で学修する目的（教育研究上の目的）を理解しましょう！

Q リハビリテーション学科の理学療法学専攻は、どのようなことを目的として学生の皆さんと学んでいくのでしょうか。

A 広い視野を持って、保健医療福祉のシステムの中で豊かな人間性、高度な知識と技術、科学的探究心や協調性、使命感を有する人材の養成を目的とします。

つぎに、学科の卒業に必要なこと（ディプロマ・ポリシー）を理解しましょう！

Q リハビリテーション学科の理学療法学専攻を卒業する要件を教えてください。

A 本学卒業生として相応しい品格と素養を備え、上記の学位プログラムにおける授業科目の単位修得等により、以下の能力が身についたと認められる学生に学位（リハビリテーション学）を授与します。

1. リハビリテーションの基礎を理解する力（人体の構造・機能・運動及び心身の発達を理解するとともに、疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を踏まえて、リハビリテーションの理念と概要を理解する力）
2. 理学療法を理解する力（理学療法を探求し、対象者の状況を正しく捉え、地域での理学療法を含め有効な理学療法の技術を実践する力）
3. 理学療法を実践する力（臨床実習の場で必要とされる知識・技術を学び、適切な理学療法を実践する力）
4. リハビリテーションの実践を発展させる力（理学療法の実践力を発展させるための力）

最後に、皆さんが学ぶ科目を理解しましょう！

Q 卒業要件を達成するために、4年間で学ぶ科目はどのように構成されているのでしょうか。

A リハビリテーション学科理学療法学専攻の教育課程は、次のカリキュラム・ポリシーに基づき構成されています。

1. 学科の学位取得（大学卒業）を目的とした教育課程（学位プログラム）
 - (1) 次の4つの能力が、学科の学位を取得する要件となります。以下の科目群の学修によって4つの能力を身につけましょう。
 - ①リハビリテーションの基礎を理解する力：リハビリテーションの基礎について学ぶ科目群
 - ②理学療法を理解する力：理学療法を構築する科目群
 - ③理学療法を実践する力：臨床現場での実践力を高める科目群
 - ④リハビリテーションの実践を発展させる力：リハビリテーション実践力を発展させる科目群
 - (2) 各科目群の授業科目を、履修モデルに示す年次進行に沿って学修しましょう。
2. 各種資格を取得するための教育課程（資格プログラム※）
 - (1) 資格を取得するための能力は、それぞれの科目群（実習等を含む）を履修モデルの年次進行に沿って学修することによって、身につけましょう。
 - (2) 定められた履修モデルに沿って学修しましょう。
 - (3) 資格プログラムに含まれる授業科目で修得した単位は、年間の修得単位数に含まれます。
※リハビリテーション学科理学療法学専攻の資格プログラムは、学位プログラムと同様です。

教育課程の構造

学位プログラム(リハビリテーション学) (理学療法士の資格プログラム)

【リハビリテーション実践力を 発展させる科目】

- 理学療法の実践力を発展させるための力

【臨床現場での実践力を 高める科目】

- 実践における知識・技術を活用する力
- 臨床現場で理学療法を実践する力

【理学療法を構築する科目】

- 理学療法を探究する力
- マネジメントする力
- 多様な理学療法を実践する力
- 対象者の状況を捉える力
- 理学療法の技術を実践する力
- 地域で理学療法を実践する力

【リハビリテーションの基礎について学ぶ科目】

- 人体の構造・機能・運動及び心身の発達を理解する力
- 疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を理解する力
- リハビリテーションを理解する力

全学実践科目

- Global化の推進
- ボランティア支援
- 就職支援
- ICT支援

基盤教育科目

- 建学の精神を知る科目:TFU科目
- 自分自身を考える科目:自己管理力
- 多様性を考える科目:思考・判断力、表現力
- 自他の調和を考える科目:社会力

建学の精神: **行学一如** 教育理念: **自利・利他円満**

(1) 理学療法学専攻

理学療法士 (Physical Therapist または Physio Therapist (略称PT)) は、医療資格 (コ・メディカル) の一つで、この資格を取得するためには、本専攻において国家資格受験資格を得た上で、国家試験に合格しなければなりません。

理学療法士は、一般に考えられている高齢者や交通事故等により発生した身体機能障害の回復のための理学療法のみならず、脳卒中での片麻痺、新生児の運動能力の発達の遅れ等、身体的な障害を持つ人に対して、医師の指示の下、その基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、および電気刺激、運動療法、温熱その他の物理的手段を加える者であり、その活動を理学療法といいます。

【理学療法学専攻 科目一覧】

◎科目は、下表の「履修方法」に示されている要件を満たすように履修し、単位を修得する必要があります。原則として、別に示す「履修モデル」に準じて履修するようにしてください。

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法
		必修	選択		
リハビリテーションの基礎について学ぶ科目	解剖学Ⅰ (筋骨格系)	2		1年以上	必修14単位 他自由選択
	機能解剖学実習	1		1年以上	
	解剖学Ⅱ (神経系・内臓系)	2		1年以上	
	人体生理学	2		1年以上	
	人体生理学実習	1		1年以上	
	運動学Ⅰ	2		1年以上	
	理学療法運動学Ⅱ	2		2年以上	
	人間発達学	1		1年以上	
	人間発達学演習		1	2年以上	
	臨床運動学	1		2年以上	
疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を理解する力	疾病と障害総論	2		1年以上	必修14単位
	臨床医学基礎論	1		2年以上	
	神経系障害とリハビリテーション	2		2年以上	
	骨・関節障害とリハビリテーション	2		2年以上	
	内部障害とリハビリテーション	2		2年以上	
	発達障害とリハビリテーション	1		2年以上	
	老年期障害とリハビリテーション	1		2年以上	
	精神障害とリハビリテーション	2		2年以上	
健康と臨床の心理学	1		1年以上		
リハビリテーションを理解する力	リハビリテーションの理念と概要	2		1年以上	必修5単位
	リハビリテーション実践	2		2年以上	
	地域包括ケアとリハビリテーション	1		2年以上	
理学療法を構築する科目	理学療法概論	2		1年以上	必修9単位
	基礎理学療法	1		1年以上	
	理学療法研究法	1		3年以上	
	理学療法研究法演習	1		3年以上	
	卒業研究	4		4年	
マネジメントする力	理学療法管理学	2		3年以上	必修2単位
対象者の状況を捉える力	理学療法評価学Ⅰ	2		1年以上	必修7単位
	理学療法評価学Ⅱ	2		2年以上	
	surface anatomy	1		2年以上	
	画像診断学	1		2年以上	
	運動動作分析学	1		2年以上	

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法	
		必修	選択			
理学療法を構築する科目	理学療法の技術を実践する力	基礎運動療法学	2		2年以上	必修21単位
		運動器系理学療法学Ⅰ	2		2年以上	
		運動器系理学療法学Ⅱ	1		3年以上	
		発達系理学療法学Ⅰ	2		3年以上	
		発達系理学療法学Ⅱ	1		3年以上	
		神経系理学療法学Ⅰ	2		2年以上	
		神経系理学療法学Ⅱ	1		3年以上	
		神経系理学療法学Ⅲ	1		3年以上	
		内部障害系理学療法学Ⅰ	2		3年以上	
		内部障害系理学療法学Ⅱ	1		3年以上	
		高齢者・生活系理学療法学	1		3年以上	
		義肢装具学	1		2年以上	
		義肢装具学実習	1		3年以上	
		物理療法学	1		1年以上	
	物理療法学実習	1		2年以上		
	日常生活活動	1		2年以上		
	地域で理学療法を実践する力	地域理学療法学Ⅰ	2		3年以上	必修3単位
		地域理学療法学Ⅱ	1		3年以上	
	多様な理学療法を実践する力	理学療法総合特論	2		4年	必修2単位 他自由選択
		世界における理学療法		1	4年	
スポーツ理学療法学			1	4年		
予防理学療法			1	4年		
理学療法士の社会活動			1	1年以上		
臨床現場での実践力を高める科目	実践における知識・技術を活用する力	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2		2年以上	必修10単位
		リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2		3年以上	
		リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2		4年	
		リハビリテーションと教育	2		1年以上	
		リハビリテーション英語	2		2年以上	
	臨床現場で理学療法を実践する力	見学実習	1		1年以上	必修20単位
		理学療法評価実習	4		2年以上	
		理学療法実践実習Ⅰ	6		3年以上	
		理学療法実践実習Ⅱ	8		4年	
		地域理学療法実習	1		4年	
リハビリテーション実践力を発展させる科目	理学療法の実践力を発展させるための力	ボディメカニクスと力学	1		1年以上	必修1単位 他自由選択
		救急救命法		2	2年以上	
		地域生活と住環境		2	4年	
		災害リハビリテーション		1	4年	
		実践教育方法論		2	4年	

<履修モデル>

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		配当年次	履修方法 (基盤教育科目：各項目の要件を満たし合計16単位以上を修得すること)	
			必修	選択			
(人間基礎力を養う科目) 基盤教育科目	建学の精神を知る科目	TFU科目	Well-Beingを考える	2		1年以上	必修7単位
			福祉と仏教	2		1年以上	
			禅のこころ	1		1年以上	
			リエゾンゼミ I	2		1年以上	
	自分自身を考える科目	自己管理能力	キャリアデザイン (自分を知る)	1		1年以上	必修2単位 他自由選択
			身体をととのえる (個人・チームスポーツ)	1		1年以上	
	多様性を考える科目	思考・判断力	情報の科学		2	1年以上	1単位以上選択
		表現力	英語 I	2		1年以上	必修4単位 他自由選択
	英語 II		2		2年以上		
	自他の調和を考える科目	社会力	人間関係について学ぶ		2	1年以上	2単位以上選択
リハビリテーションの基礎について学ぶ科目	人体の構造・機能・運動及び心身の発達を理解する力	解剖学 I (筋骨格系)	2		1年以上	必修14単位	
		機能解剖学実習	1		1年以上		
		解剖学 II (神経系・内臓系)	2		1年以上		
		人体生理学	2		1年以上		
		人体生理学実習	1		1年以上		
		運動学 I	2		1年以上		
		理学療法運動学 II	2		2年以上		
		人間発達学	1		1年以上		
		臨床運動学	1		2年以上		
	疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を理解する力	疾病と障害総論	2		1年以上	必修14単位	
		臨床医学基礎論	1		2年以上		
		神経系障害とリハビリテーション	2		2年以上		
		骨・関節障害とリハビリテーション	2		2年以上		
		内部障害とリハビリテーション	2		2年以上		
		発達障害とリハビリテーション	1		2年以上		
		老年期障害とリハビリテーション	1		2年以上		
		精神障害とリハビリテーション	2		2年以上		
	健康と臨床の心理学	1		1年以上			
リハビリテーションを理解する力	リハビリテーションの理念と概要	2		1年以上	必修5単位		
	リハビリテーション実践	2		2年以上			
	地域包括ケアとリハビリテーション	1		2年以上			
理学療法を構築する科目	理学療法を探究する力	理学療法概論	2		1年以上	必修9単位	
		基礎理学療法	1		1年以上		
		理学療法研究法	1		3年以上		
		理学療法研究法演習	1		3年以上		
		卒業研究	4		4前・後		
	マネジメントする力	理学療法管理学	2		3年以上	必修2単位	
	対象者の状況を捉える力	理学療法評価学 I	2		1年以上	必修7単位	
		理学療法評価学 II	2		2年以上		
		surface anatomy	1		2年以上		
		画像診断学	1		2年以上		
運動動作分析学		1		2年以上			

授業科目の区分 (身につける能力)	授業科目名	単位数		配当年次	履修方法 (基礎教育科目：各項目の 要件を満たし合計16単位 以上を修得すること)	
		必修	選択			
理学療法を構築する科目	基礎運動療法学	2		2年以上	必修21単位	
	運動器系理学療法学Ⅰ	2		2年以上		
	運動器系理学療法学Ⅱ	1		3年以上		
	発達系理学療法学Ⅰ	2		3年以上		
	発達系理学療法学Ⅱ	1		3年以上		
	神経系理学療法学Ⅰ	2		2年以上		
	神経系理学療法学Ⅱ	1		3年以上		
	神経系理学療法学Ⅲ	1		3年以上		
	内部障害系理学療法学Ⅰ	2		3年以上		
	内部障害系理学療法学Ⅱ	1		3年以上		
	高齢者・生活系理学療法学	1		3年以上		
	義肢装具学	1		2年以上		
	義肢装具学実習	1		3年以上		
	物理療法学	1		1年以上		
	物理療法学実習	1		2年以上		
	日常生活活動	1		2年以上		
	地域で理学療法を 実践する力	地域理学療法学Ⅰ	2			3年以上
地域理学療法学Ⅱ		1		3年以上		
多様な理学療法を 実践する力	理学療法総合特論	2		4年以上	必修2単位 他自由選択	
	スポーツ理学療法学		1	4年以上		
	予防理学療法		1	4年以上		
臨床現場での実践力を 高める科目	実践における知識・ 技術を 活用する力	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2		2前・後	必修10単位
		リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2		3前・後	
		リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2		4前・後	
		リハビリテーションと教育	2		1年以上	
		リハビリテーション英語	2		2年以上	
	臨床現場で理学療法を 実践する力	見学実習	1		1年以上	必修20単位
		理学療法評価実習	4		2年以上	
		理学療法実践実習Ⅰ	6		3年以上	
		理学療法実践実習Ⅱ	8		4年以上	
		地域理学療法実習	1		4年以上	
リハビリテーション実 践力を発展させる科目	理学療法の実践力を 発展させるための力	ボディメカニクスと力学	1		1年以上	必修1単位 他自由選択
		救命救急法		2	2年以上	
		実践教育方法論		2	4年以上	
合計単位数		121	10	—	131単位	

○ 実習

臨床実習は、以下のすべてを履修する必要があります。それぞれの実習を履修するためには、原則として、当該実習までに開講されているすべての必修科目を履修・修得していることが前提となります。また、すべての実習において、実習前後に実施されるオリエンテーションやセミナー（報告会等）に必ず出席する必要があります。実習は本学関連施設のほか、県内外施設（実習承諾施設）の協力を得て実施されます。

科目名		内容
(1)	見学実習 *開講時期は1年次後期	この実習では、見学を中心に体系的な理学療法の流れや代表的疾患の臨床像をとらえ、対象者への対応等について体験的な認識を学生に与える機会と考えます。臨床職場での対象者への対応等についての見学を実施し、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士の役割について学び、社会人及び医療専門職としての基本的姿勢が養われ理学療法士になることの動機づけを高める目的として1年次後期に1週間経験する。
(2)	理学療法評価実習 *開講時期は2年次後期	この実習では、基礎医学、臨床医学の理学療法の基本原理についてのカリキュラムを終了した後に行われる実習であり、学内で学び習得した理論と技術を臨床場面で初めて実践し体験する機会となります。臨床実習指導者の指導・監督のもと診療参加型臨床実習で実施され、様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査・測定等を適切に実施することを学びます。また、診療録等からの間接的情報収集や対象者への直接的な情報収集（検査・測定等）を通じて、得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ重要な機会です。2年次後期に4週間経験する。
(3)	理学療法実践実習Ⅰ *開講時期は3年次後期	この実習では評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案様々な疾患・状態の対象者を数多く経験する機会であり、得られた情報からNeedsに基づいた問題点、治療プログラム立案を理解する重要な機会です。3年次後期に6週間経験する。
(4)	理学療法実践実習Ⅱ *開講時期は4年次前期	この実習では評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案様々な疾患・状態の対象者を数多く経験する機会であり、得られた情報からNeedsに基づいた問題点、治療プログラム立案を理解する重要な機会です。3年次後期に6週間経験する。
(5)	地域理学療法実習 *開講時期は4年次前期	地域包括ケアシステムを支える一員となり行動出来るよう、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等について学ぶ重要な機会です。4年次前期に1週間経験する。

- ※ 臨床実習の質向上を図るために、「臨床実習前の評価」「臨床実習後の評価」を「基礎理学療法」「リエゾンゼミⅡ～Ⅳ」で実施します。また、実習後には実習で得た経験を他の学生と共有し教育効果を高めるため、セミナー（報告会）を実施します。
- ※ 実習施設における指導は実習指導者が中心となり具体的指導にあたりますが、実習の目的、内容、方法等は実習開始前に「臨床実習指導者会議」を開催するなどして、教員と実習指導者の連携、調整により実習を進めます。
- ※ 実習中の訪問面接指導は実習期間の適切な時期に行い、さらに必要な場合は、実習指導者と調整の上実施します。

実習計画進行表（理学療法学専攻）

年次	科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	見学実習 (必修)											↔ (期間：1週間/5日間)	
2	理学療法評価実習 (必修)											↔ (期間：4週間/20日間)	
3	理学療法実践実習Ⅰ (必修)								↔ (期間：6週間/30日間)				
4	理学療法実践実習Ⅱ (必修)		↔ (期間：8週間/40日間)										
4	地域理学療法実習 (必修)					↔ (期間：1週間/5日間)							

作業療法学専攻を卒業するために

まずは、この学科で学修する目的（教育研究上の目的）を理解しましょう！

- Q リハビリテーション学科の作業療法学専攻は、どのようなことを目的として学生の皆さんと学んでいくのでしょうか。
- A 広い視野を持って、保健医療福祉のシステムの中で豊かな人間性、高度な知識と技術、科学的探究心や協調性、使命感を有する人材の養成を目的とします。

つぎに、学科の卒業に必要なこと（ディプロマ・ポリシー）を理解しましょう！

- Q リハビリテーション学科の作業療法学専攻を卒業する要件を教えてください。
- A 本学卒業生として相応しい品格と素養を備え、上記の学位プログラムにおける授業科目の単位修得等により、以下の能力が身についたと認められる学生に学位（リハビリテーション学）を授与します。
1. リハビリテーションの基礎を理解する力（人体の構造・機能・運動及び心身の発達を理解するとともに、疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を踏まえて、リハビリテーションの理念と概要を理解する力）
 2. 作業療法を理解する力（作業および作業療法の基本を理解し、対象者の状況を幅広く捉え、地域リハビリテーションを含む各領域で作業療法を実践し、作業療法を探究する力）
 3. 作業療法を実践する力（臨床実習の場で必要とされる知識・技術・態度を活用し、対象者の状況に応じて適切に作業療法を実践できる力）
 4. リハビリテーションの実践を発展させる力（作業療法の実践力を発展させるための力）

最後に、皆さんが学ぶ科目を理解しましょう！

- Q 卒業要件を達成するために、4年間で学ぶ科目はどのように構成されているのでしょうか。
- A リハビリテーション学科作業療法学専攻の教育課程は、次のカリキュラム・ポリシーに基づき構成されています。
1. 学科の学位取得（大学卒業）を目的とした教育課程（学位プログラム）
 - (1) 次の4つの能力が、学科の学位を取得する要件となります。以下の科目群の学修によって4つの能力を身につけましょう。
 - ①リハビリテーションの基礎を理解する力：リハビリテーションの基礎について学ぶ科目群
 - ②作業療法を理解する力：作業療法の実践力を高める科目群
 - ③作業療法を実践する力：臨床実践力を高める科目群
 - ④リハビリテーションの実践を発展させる力：リハビリテーション実践力を発展させる科目群
 - (2) 各科目群の授業科目を、履修モデルに示す年次進行に沿って学修しましょう。
 2. 各種資格を取得するための教育課程（資格プログラム※）
 - (1) 資格を取得するための能力は、それぞれの科目群（実習等を含む）を履修モデルの年次進行に沿って学修することによって、身につけましょう。
 - (2) 定められた履修モデルに沿って学修しましょう。
 - (3) 資格プログラムに含まれる授業科目で修得した単位は、年間の修得単位数に含まれます。
- ※リハビリテーション学科作業療法学専攻の資格プログラムは、学位プログラムと同様です。

教育課程の構造

学位プログラム(リハビリテーション学) (作業療法士の資格プログラム)

【リハビリテーション実践力を 発展させる科目】

- 作業療法の実践力を発展させるための力

【臨床実践力を高める科目】

- 臨床の場で知識・技術・態度を活用する力
- 対象者の状況に応じて適切に作業療法を
実践できる力

【作業療法の実践力を高める科目】

- 作業及び作業療法を理解する力
- 対象者の状況を幅広く捉える力
- マネジメントする力
- 各実践領域で作業療法を実践する力
- 作業療法を探求する力
- 地域リハビリテーションを実践する力

【リハビリテーションの基礎について学ぶ科目】

- 人体の構造・機能・運動及び
心身の発達を理解する力
- 疾患と障害の成り立ちと回復促進
過程を理解する力
- リハビリテーションを理解する力

全学実践科目

- Global化の推進
- ボランティア支援
- 就職支援
- ICT支援

基盤教育科目

- 建学の精神を知る科目:TFU科目
- 自分自身を考える科目:自己管理力
- 多様性を考える科目:思考・判断力、表現力
- 自他の調和を考える科目:社会力

建学の精神: **行学一如** 教育理念: **自利・利他円満**

(2) 作業療法学専攻

作業療法士（Occupational Therapist（略称OT））は医療資格（コ・メディカル）の一つで、この資格を取得するためには、本専攻において国家試験受験資格を得た上で、国家試験に合格しなければなりません。

作業療法士は、常に対象者（身体または精神に障害のある者、それが予測される者）中心の対応を行い、対象者が主体的な生活の獲得を図るため心身の機能の回復や維持を促す作業を用い、あるいは、対象者が種々の作業が行えるようになるために、治療、指導、援助を行っていくものであり、その実践が作業療法です。作業療法士が重視する作業とは、身の回りの事を行うセルフケア、楽しむ活動としてのレジャー、勉強や仕事等の生産的活動など、人が生活するために必要な目的的活動すべてを指しています。

【作業療法学専攻 科目一覧】

◎科目は、下表の「履修方法」に示されている要件を満たすように履修し、単位を修得する必要があります。原則として、別に示す「履修モデル」に準じて履修するようにしてください。

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法		
		必修	選択				
リハビリテーションの基礎について学ぶ科目	人体の構造・機能・運動及び心身の発達を理解する力	解剖学Ⅰ（筋骨格系）	2		1年以上	必修13単位 他自由選択	
		機能解剖学実習	1		1年以上		
		解剖学Ⅱ（神経系・内臓系）	2		1年以上		
		人体生理学	2		1年以上		
		人体生理学実習	1		1年以上		
		運動学Ⅰ	2		1年以上		
		作業療法運動学Ⅱ	2		2年以上		
		人間発達学	1		1年以上		
		人間発達学演習		1	2年以上		
	臨床運動学		1	2年以上			
	疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を理解する力	疾病と障害総論	2		1年以上	必修14単位	
		臨床医学基礎論	1		2年以上		
		神経系障害とリハビリテーション	2		2年以上		
		骨・関節障害とリハビリテーション	2		2年以上		
		内部障害とリハビリテーション	2		2年以上		
		発達障害とリハビリテーション	1		2年以上		
		老年期障害とリハビリテーション	1		2年以上		
		精神障害とリハビリテーション	2		2年以上		
	健康と臨床の心理学	1		1年以上			
	リハビリテーションを理解する力	リハビリテーションの理念と概要	2		1年以上	必修5単位	
		リハビリテーション実践	2		2年以上		
		地域包括ケアとリハビリテーション	1		2年以上		
	作業療法の実践力を高める科目	作業及び作業療法を理解する力	作業療法概論	1		1年以上	必修7単位 他自由選択
			作業科学Ⅰ	2		1年以上	
			作業科学Ⅱ	1		3年以上	
			健康と作業	1		1年以上	
			生活と作業	1		1年以上	
作業の評価と実践			1		2年以上		
国際作業療法学				1	3年以上		
マネジメントする力		作業療法管理学	2		3年以上	必修2単位	
対象者の状況を幅広く捉える力		作業療法評価学総論	2		1年以上	必修6単位	
		作業療法評価学Ⅰ	2		2年以上		
		作業療法評価学Ⅱ	1		2年以上		
		作業療法評価学Ⅲ	1		2年以上		

(次頁へ続く)

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法	
		必修	選択			
作業療法の実践力を高める科目	各実践領域で作業療法を 実践する力	作業療法の介入と適用	1		2年以上	必修20単位
		身体機能と作業療法学Ⅰ	2		2年以上	
		身体機能と作業療法学Ⅱ	2		2年以上	
		身体機能と作業療法学Ⅲ	2		3年以上	
		精神機能と作業療法学Ⅰ	1		2年以上	
		精神機能と作業療法学Ⅱ	2		2年以上	
		小児期の作業療法学	1		3年以上	
		高齢期の作業療法学	2		2年以上	
		高次脳機能と作業療法学	2		3年以上	
		生活技術学	1		2年以上	
		生活技術学実習	1		2年以上	
		テクノロジーと作業療法学Ⅰ	1		2年以上	
	テクノロジーと作業療法学Ⅱ	1		3年以上		
	作業療法実践基礎論	1		3年以上		
	地域リハビリテーションを 実践する力	地域生活支援学Ⅰ	2		3年以上	必修4単位
地域生活支援学Ⅱ		1		3年以上		
就労と就学支援論		1		3年以上		
作業療法を 探求する力	作業療法研究法	2		3年以上	必修4単位 他自由選択	
	作業療法総合特論Ⅰ	1		4年		
	作業療法総合特論Ⅱ	1		4年		
	特講（作業療法）		1	4年		
	卒業研究		4	4年		
臨床実践力を高める科目	臨床の場で知識・ 技術・態度を 活用する力	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2		2年以上	必修10単位
		リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2		3年以上	
		リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2		4年	
		リハビリテーションと教育	2		1年以上	
		リハビリテーション英語	2		2年以上	
	対象者の状況に 応じて適切に 作業療法を 実践できる力	早期体験実習	1		1年以上	必修25単位
		作業療法体験実習	3		2年以上	
		作業療法評価実習	3		3年以上	
		作業療法実践実習Ⅰ	8		3年以上	
		作業療法実践実習Ⅱ	8		4年	
地域生活支援実習	2		4年			
リハビリテーション実 践力を発展させる科目	作業療法の実践力を 発展させる ための力	ボディメカニクスと力学		1	1年以上	自由選択
		救急救命法		2	2年以上	
		地域生活と住環境		2	4年	
		災害リハビリテーション		1	4年	
		実践教育方法論		2	4年	

<履修モデル>

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		配当年次	履修方法 (基盤教育科目：各項目の要件を満たし合計16単位以上を修得すること)		
			必修	選択				
人間基礎力を養う科目 (基盤教育科目)	建学の精神を知る科目	TFU科目 (建学の精神を知る科目)	Well-Beingを考える	2		1年以上	必修7単位	
			福祉と仏教	2		1年以上		
			禅のこころ	1		1年以上		
			リエゾンゼミ I	2		1年以上		
	自分自身を考える科目	自己管理能力 (自分自身を考える科目)	キャリアデザイン (自分を知る)	1		1年以上	必修2単位 他自由選択	
			身体をととのえる (個人・チームスポーツ)	1		1年以上		
	多様性を考える科目	思考・判断力 (多様性を考える科目)	情報の科学		2	1年以上	1単位以上選択	
			表現力 (多様性を考える科目)	英語 I	2		1年以上	必修4単位 他自由選択
				英語 II	2		2年以上	
	自他の調和を考える科目	社会力 (自他の調和を考える科目)	人間関係について学ぶ		2	1年以上	2単位以上選択	
リハビリテーションの基礎について学ぶ科目	人体の構造・機能・運動及び心身の発達を理解する力	解剖学 I (筋骨格系)	2		1年以上	必修13単位 他自由選択		
		機能解剖学実習	1		1年以上			
		解剖学 II (神経系・内臓系)	2		1年以上			
		人体生理学	2		1年以上			
		人体生理学実習	1		1年以上			
		運動学 I	2		1年以上			
		作業療法運動学 II	2		2年以上			
		人間発達学	1		1年以上			
		人間発達学演習		1	2年以上			
	疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を理解する力	疾病と障害総論	2		1年以上	必修14単位		
		臨床医学基礎論	1		2年以上			
		神経系障害とリハビリテーション	2		2年以上			
		骨・関節障害とリハビリテーション	2		2年以上			
		内部障害とリハビリテーション	2		2年以上			
		発達障害とリハビリテーション	1		2年以上			
		老年期障害とリハビリテーション	1		2年以上			
		精神障害とリハビリテーション	2		2年以上			
	健康と臨床の心理学	1		1年以上				
	リハビリテーションを理解する力	リハビリテーションの理念と概要	2		1年以上	必修5単位		
		リハビリテーション実践	2		2年以上			
地域包括ケアとリハビリテーション		1		2年以上				
作業療法の実践力を高める科目	作業及び作業療法を理解する力	作業療法概論	1		1年以上	必修7単位 他自由選択		
		作業科学 I	2		1年以上			
		作業科学 II	1		3年以上			
		健康と作業	1		1年以上			
		生活と作業	1		1年以上			
		作業の評価と実践	1		2年以上			
		国際作業療法学		1	3年以上			
	マネジメントする力	作業療法管理学	2		3年以上	必修2単位		
	対象者の状況を幅広く捉える力	作業療法評価学総論	2		1年以上	必修6単位		
		作業療法評価学 I	2		2年以上			
		作業療法評価学 II	1		2年以上			
		作業療法評価学 III	1		2年以上			
	各実践領域で作業療法を実践する力	作業療法の介入と適用	1		2年以上	必修20単位		
身体機能と作業療法学 I		2		2年以上				
身体機能と作業療法学 II		2		2年以上				

(次頁へ続く)

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		配当年次	履修方法 (基盤教育科目：各項目の要件を満たし合計16単位以上を修得すること)
			必修	選択		
作業療法の実践力を高める科目	各実践領域で作業療法を 実践する力	身体機能と作業療法学Ⅲ	2		3年以上	必修20単位
		精神機能と作業療法学Ⅰ	1		2年以上	
		精神機能と作業療法学Ⅱ	2		2年以上	
		小児期の作業療法学	1		3年以上	
		高齢期の作業療法学	2		2年以上	
		高次脳機能と作業療法学	2		3年以上	
		生活技術学	1		2年以上	
		生活技術学実習	1		2年以上	
		テクノロジーと作業療法学Ⅰ	1		2年以上	
		テクノロジーと作業療法学Ⅱ	1		3年以上	
		作業療法実践基礎論	1		3年以上	
	地域リハビリテーションを 実践する力	地域生活支援学Ⅰ	2		3年以上	必修4単位
		地域生活支援学Ⅱ	1		3年以上	
		就労と就学支援論	1		3年以上	
作業療法を探究する力	作業療法研究法	2		3年以上	必修4単位 他自由選択	
	作業療法総合特論Ⅰ	1		4年以上		
	作業療法総合特論Ⅱ	1		4年以上		
	卒業研究		4	4前・後		
臨床実践力を高める科目	臨床の場で知識・ 技術・態度 活用する力	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2		2年前・後	必修10単位
		リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2		3年前・後	
		リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2		4前・後	
		リハビリテーションと教育	2		1年以上	
		リハビリテーション英語	2		2年以上	
	対象者の状況に応じて 適切に作業療法を 実践できる力	早期体験実習	1		1年以上	必修25単位
		作業療法体験実習	3		2年以上	
		作業療法評価実習	3		3年以上	
		作業療法実践実習Ⅰ	8		3年以上	
		作業療法実践実習Ⅱ	8		4年以上	
		地域生活支援実習	2		4年以上	
リハビリテーション実践力を 発展させる科目	作業療法の実践力を 発展させるための力	実践教育方法論		2	4年以上	
合計単位数			123	12		135単位

○ 実習

- 臨床実習は、以下の必修科目を（１）から（４）の順に履修し、同時に、それぞれの実習を履修するための前提条件を満たす必要があります。また、すべての臨床実習において、実習前後に実施される複数回のオリエンテーションとセミナー（報告会等）、および実習前に実施されるゼミ学習（グループ学習）に必ず出席しなければなりません。この際、指定された実施回数のうち、5分の1以上欠席した場合には、原則実習を履修することはできません。なお、実習は本学関連施設のほか、県内外施設（実習承諾施設）の協力を得て実施されます。
- 下記①～③は早期体験実習を除く5つの臨床実習に共通する事項です。
 - ① 学生は臨床実習指導者のチームに参加し、当該施設や作業療法の役割を理解するとともに、チームアプローチの実際を学ぶ。
 - ② 学生は臨床実習指導者の指導と立ち合いの下で多様な作業療法の実践場面の見学と体験を行う。
 - ③ 学生は対象者の多様な障害・病期・ライフステージにおける作業療法を経験する。

	科目名	内容および履修上の前提条件
(1)	早期体験実習 *開講時期は1年次後期以降	主に本学関連施設での見学や早期の体験実習を実施する。本実習は少人数グループでの実施を原則とする。事前の学内での取り組みとしてグループワークを中心とした演習を行い、対象者へ関わる際の基本的な姿勢やコミュニケーション・スキルを学ぶ。事後には報告会を開催し学生それぞれの学びを共有することで、以降の主体的な学習行動へ発展させる。 【前提条件】 1年後期までに開講されている学科教育課程の必修科目を履修していること。
(2)	作業療法体験実習 *開講時期は2年次後期以降	(作業療法を体験し作業療法士の職務を理解する実習) 早期体験実習の次の段階として、作業療法の実際を見学し体験する。 【前提条件】 ・2年後期までに開講されている学科教育課程の必修科目を履修していること。 ・上記学科教育課程の必修科目で、無資格、履修放棄科目がないこと。 ・「基本的臨床能力試験Ⅰ」*を合格していること。
(3)	作業療法評価実習 *開講時期は3年次前期以降	(対象者の目標を達成するための評価を学ぶ実習) 作業療法体験実習の次の段階として、対象者のリハビリテーションゴール（あるいは当面の方針）に基づいて実施される評価法を体験し、対象者の評価の目的と情報の解釈を実施する。 【前提条件】 ・「作業療法体験実習」を修得していること。 ・2年後期までに開講されている学科教育課程の必修科目を、修得あるいは修得見込みであること。 ・3年前期に開講されている学科教育課程の必修科目を修得見込みであること。 ・「基本的臨床能力試験Ⅱ」*を合格していること。
(4)	作業療法実践実習Ⅰ・Ⅱ *Ⅰの開講時期は3年次後期以降 *Ⅱの開講時期は4年次前期以降 ※開講時期を問わず、初めて修得する実習を「作業療法実践実習Ⅰ」とし、次に修得する実習を「作業療法実践実習Ⅱ」とする。	(対象者の目標を達成するための作業療法プロセスを学ぶ実習) 作業療法実践実習Ⅰ及びⅡは、対象障害や年代等の異なる施設で実習を行うが、実施内容や目的を同等のものとする。作業療法評価実習の次の段階として、対象者のリハビリテーションゴール（あるいは当面の方針）に基づいて実施される一連の作業療法プロセスを経験する。実習の前半では評価を体験し、後半では介入の体験より学ぶ。 【前提条件】 作業療法実践実習Ⅰ ・当該臨床実習までに開講されているすべての学科教育課程の必修科目を修得していること ・「基本的臨床能力試験Ⅲ」*を合格していること。 作業療法実践実習Ⅱ ・作業療法実践実習Ⅰを修得していること
(5)	地域生活支援実習 *開講時期は4年次後期	(対象者の地域支援を学ぶ実習) ・本実習は訪問リハビリテーション又は通所リハビリテーションに関する実習を含み、対象者の地域生活の実際やそのひとらしく暮らすための作業を確認する。なお、他の臨床実習で同領域の実習を経験した学生に関しては、医療機関や福祉施設などで行われている地域生活を支援する実践を経験することもできる。 【前提条件】 ・作業療法実践実習Ⅰを修得していること

*基本的臨床能力試験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについての詳細は、関連する科目内で説明します。

*それぞれの実習については、「リエゾンゼミⅠ～Ⅳ」等で、実習オリエンテーションや実習前ゼミ、知識・技術等に関する試験を実施し、実習終了後は報告会（セミナー）を実施します。

*実習施設における指導は実習指導者が中心となり具体的指導にあたりますが、実習の目的、内容、方法等は実習開始前に「臨床実習指導者会議」を開催するなどして、教員と実習指導者の連携、調整により実習を進めます。

*実習中の訪問面接指導は実習期間の適切な時期に行い、さらに必要な場合は、実習指導者と調整の上実施します。

実習計画進行表〔作業療法学専攻〕

年次	科目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	早期体験実習 (必修)											↔ (期間：1週間/5日間)	
2	作業療法体験実習 (必修)											↔ (期間：3週間/15日間)	
3	作業療法評価実習 (必修)				↔ (期間：3週間/15日間)								
3	作業療法実践実習Ⅰ (必修)							↔ (期間：8週間/40日間)					
4	作業療法実践実習Ⅱ (必修)		↔ (期間：8週間/40日間)										
4	地域生活支援実習 (必修)					↔ (期間：2週間/10日間)							

(3) リハビリテーション学科で取得可能なその他の資格

① 福祉住環境コーディネーター（2級）

福祉住環境コーディネーターは、介護・介助が必要な高齢者や障害者に対し、ケアマネジャーなどの専門家と連携を取りながら、手すりの設置位置、数、形状または段差の解消方法等、住環境の整備について助言を行います。介護施設や病院のような医療機関だけではなく、福祉用具を扱う会社、保健所、リハビリテーションセンター、バリアフリー等の建設・改修工事などを行うハウスメーカーや工務店でも生かすことができる資格です。

資格を取得するためには、検定試験に合格する必要があります。本学では、「地域生活と住環境」という講義で高齢者、障害者の地域生活を支援するための各種制度や住環境整備について学び、希望する学生が受験します。

② 防災士

防災士は、防災に対する知識や技能を持つ人で、一定の知識・技能を習得したことを日本防災士機構が認定する民間資格です。防災士になるために必要な条件は、以下のとおりです。

- 大学等の認定研修機関で研修を修了すること
- 普通救急救命講習を修了すること
- 防災士資格試験に合格すること

本学では、防災士養成研修講座を実施しています。講座受講後、資格試験の合格を経て日本防災士機構へ登録申請することで資格取得となります。なお、在学中に試験に合格した場合の登録申請は、本学が代行します。

資格取得にかかる費用は、各自負担となります。費用を含め、資格取得に関しての詳細は、教員もしくは担当部署からUNIPAでお知らせします。

<防災士資格に関する問合せ部署>

東北福祉大学 国見キャンパス
防災士研修事務局
電話：022-766-8836
E-Mail：bousai@tfu-ac.net

4 医療経営管理学科

医療経営管理学科を卒業するために

まずは、この学科で学修する目的（教育研究上の目的）を理解しましょう！

Q 医療経営管理学科は、どのようなことを目的として学生の皆さんと学んでいくのでしょうか。

A 医療・いのちにかかわる仕事に憧れ、その仕事に就くことで他者のため、社会のために役立つ人材の養成を目的とします。

つぎに、学科の卒業に必要なこと（ディプロマ・ポリシー）を理解しましょう！

Q 医療経営管理学科を卒業する要件を教えてください。

A 本学卒業生として相応しい品格と素養を備え、学位プログラムにおける授業科目の単位修得等により、以下の能力が身についたと認められる学生に学位（医療経営管理学）を授与します。

1. 課題発見力（現状を把握・分析し、問いを立てる力）
2. 健康理解力（健康・医学知識、医療情報をいかす力）
3. 数的分析力（数的根拠をもとに未来を予測し、情報を整理する力）
4. 危機管理能力（リスクの評価から最善の判断を導く力）
5. 生涯学習力（探求的に学ぶ姿勢と手法を身につける力）

最後に、皆さんが学ぶ科目を理解しましょう！

Q 卒業要件を達成するために、4年間で学ぶ科目はどのように構成されているのでしょうか。

A 医療経営管理学科の教育課程は、次のカリキュラム・ポリシーに基づき構成されています。

1. 学科の学位取得（大学卒業）を目的とした教育課程（学位プログラム）
 - (1) 次の5つの能力が、学科の学位を取得する要件となります。以下の科目群の学修によって5つの能力を身につけましょう。
 - ①課題発見力：健康を支える社会のしくみを学ぶ科目群
 - ②健康理解力：身体・こころのしくみや身近な病気を理解する科目群
 - ③数的分析力：数字に基づく分析力を養う科目群
 - ④危機管理能力：対応力を養う科目群
 - ⑤生涯学習力：探求的に学ぶ姿勢と手法を養う科目群
 - (2) 各科目群の授業科目を、履修モデルに示す年次進行に沿って学修しましょう。
2. 各種資格を取得するための教育課程（資格プログラム）
 - (1) 資格を取得するための能力は、それぞれの科目群（実習等を含む）を履修モデルの年次進行に沿って学修することによって、身につけましょう。
 - (2) 定められた履修モデルに沿って学修しましょう。
 - (3) 資格プログラムに含まれる授業科目で修得した単位は、年間の修得単位数に含まれます。

教育課程の構造

資格プログラム(診療情報管理士、救急救命士)

【診療情報管理士・救急救命士の専門性を磨く科目】

- 医療機関が扱う多様な情報を分析・活用する力(診療情報管理士)
- 救急医療の知識・技術を実践する力(救急救命士)

学位プログラム(医療経営管理学)

次世代ヘルスケアを担う人材養成プログラム

【健康・医学知識、医療情報を活かす科目】健康理解力

【現状を把握・分析し問いを立てる科目】課題発見力

【数的根拠をもとに未来を予測し、情報を整理する科目】数的分析力

【リスクの評価から最善の判断を導く科目】危機管理能力

【探求的に学ぶ姿勢と手法を身につける科目】生涯学習力

全学実践科目

- Global化の推進
- ボランティア支援
- 就職支援
- ICT支援

基盤教育科目

- 建学の精神を知る科目:TFU科目
- 自分自身を考える科目:自己管理能力
- 多様性を考える科目:思考・判断力、表現力
- 自他の調和を考える科目:社会力

建学の精神: **行学一如** 教育理念: **自利・利他円満**

【医療経営管理学科 科目一覧】

◎科目は、下表の「履修方法」に示されている要件を満たすように履修・修得する必要があります。

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法
		必修	選択		
健康を支える社会のしくみを学ぶ科目	医療概論	4		1年以上	必修6単位 他自由選択
	医療経営管理論	2		1年以上	
	公衆衛生学		2	2年以上	
	成人保健		2	2年以上	
	保健医療情報学		2	2年以上	
	デジタルヘルスケア		2	2年以上	
	ヘルスマネジメント論		2	3年以上	
	社会保障論Ⅰ		2	3年以上	
身体・こころのしくみや身近な病気を理解する科目	生命科学と医療の接点	2		1年以上	基盤教育科目に該当 必修4単位 他自由選択
	百寿時代の老年医学	2		1年以上	
	日常をととのえる		2	1年以上	
	解剖生理学		2	1年以上	
	臨床医学総論		2	1年以上	
	身体活動と健康		2	1年以上	
	医薬品学		2	2年以上	
	心理学概論		2	1年以上	
	健康・医療心理学		2	2年以上	
数字に基づく分析力を養う科目	統計情報を見る眼	2		1年以上	基盤教育科目に該当 必修4単位 他自由選択
	生活の中の数学	2		1年以上	
	情報の科学		2	1年以上	
	AIの基礎		2	1年以上	
	モノの見方・考え方		2	1年以上	
	ICT入門実習		2	1年以上	
	福祉の未来とDS		2	2年以上	
	インフォメーションデザイン論		2	2年以上	
	医療データサイエンス入門		2	2年以上	
対応力を養う科目	ファーストエイド	2		1年以上	基盤教育科目に該当 基盤教育科目に該当 基盤教育科目に該当 必修2単位 他自由選択
	リーダーシップと協調性		2	1年以上	
	人間関係について学ぶ		2	1年以上	
	実践的防災を学ぶ		2	1年以上	
	災害概論		2	1年以上	
	災害医療論		2	2年以上	
	コミュニケーション基礎演習		1	2年以上	
	災害・イベント医療		2	3年以上	
探求的に学ぶ姿勢と手法を養う科目	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2		2年以上	必修6単位 他自由選択
	リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2		3年以上	
	リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2		4年	
	卒業研究		4	4年	

(1) 救急救命士国家試験受験資格

救急救命士は、救急救命士法第2条において「厚生労働大臣の免許を受けて、医師の指示のもとに、救急救命処置を行うことを業とするもの」と定められています。具体的には、救急車に乗車して救急現場に向かい、傷病者に対して観察・処置を施しながら医療機関へ搬送するまでの間の役割を担う医療従事者です。血圧測定や心電図などの観察を行い、傷病者の状態から適切な搬送医療機関を選定し、搬送中の悪化を防ぐために必要な気道確保や点滴などの救急救命処置を行います。このように救急救命士は、傷病者の一番最初に寄り添う医療従事者と言えます。

救急救命士の多くは消防機関に属し、救急隊員として働いていますが、自衛隊や海上保安庁、民間救急会社等傷病者の搬送に携わる機関でも活躍しています。また、救急救命士法の改正により、入院前の医療機関（救急外来等）でも働くことが可能となったため、医療機関で働く救急救命士も増えてきています。

■ 履修定員

履修定員は各学年35名とします。

履修者は、1年次修了時（2月中旬～3月中旬予定）に実施する適正審査によって決定します。審査を受けるためには、以下の前提条件を満たす必要があります。なお、詳細については、所定の時期に開催するガイダンスで説明します。

【適正審査を受ける前提条件】①②の条件を満たすこと

- ① 以下の5科目を「優」（80点以上）の成績で修めていること
「医療概論」「臨床医学総論」「解剖生理学」「シミュレーション基礎実習」「シミュレーション実習Ⅰ」
- ② 「生命科学と医療の接点」「百寿時代の老年医学」「ファーストエイド」を修得済であること。

■ 履修方法

健康科学部医療経営管理学科の学生で適正審査によって決定した履修者は、救急救命士国家試験の受験資格を取得するために、下表の「救急救命士課程に関する科目」に掲げられている32科目（72単位）を受講し、すべての単位を修得しなければなりません。

非常に多くの科目を履修することになるため、4年次までの履修計画を早期につくることが重要です。

■ カリキュラムの特徴

本学で育成する救急救命士（国家試験受験資格）は「知識」か「技術」のどちらかでなく、「理論と実践」を一体化した「人間力」を身に着けることを目指す、建学の精神「行学一如」を具現化できる人材を目指します。即ち、救急救命士として必要な知識・技術を身に着けるとともに、医療としての倫理観を養い、チーム医療の一員として主体的に行動できる人材です。

救急救命士（国家試験受験資格）の指定科目をだけではなく、健康、福祉、医療、情報、防災等を有機的に学び、地域社会に貢献するためのカリキュラム配置としています。学生自身が救急救命士としての適正を考える機会があり、自らの進路を選択していきます。4年間で確かな基盤と実践力を体得できる体系的なカリキュラムを構築しています。

◎救急救命士課程に関する科目

	授業科目名	単位		履修年次	履修方法
		必修	選択		
救急救命士課程 科目	公衆衛生学	2		2年以上	必修72単位
	生命科学と医療の接点	2		1年以上	
	解剖生理学	2		1年以上	
	薬理学	1		2年以上	
	病理学	2		2年以上	
	生化学・栄養代謝学	1		2年以上	
	医療概論	4		1年以上	

授業科目名	単位		履修年次	履修方法	
	必修	選択			
救急救命士課程科目	臨床医学総論	2		1年以上	必修72単位
	臨床医学各論 A	2		2年以上	
	臨床医学各論 B	2		2年以上	
	臨床医学各論 C	2		2年以上	
	臨床医学各論 D	2		2年以上	
	臨床医学各論 E	2		2年以上	
	臨床医学各論 F	2		2年以上	
	百寿時代の老年医学	2		1年以上	
	ファーストエイド	2		1年以上	
	救急医学総論	2		2年以上	
	小児疾病治療論	1		2年以上	
	精神医学と精神医療 I	2		3年以上	
	放射線医学	1		2年以上	
	病院実習 I	4		3年以上	
	病院実習 II	4		4年	
	救急車同乗実習	2		3年以上	
	シミュレーション実習 I	2		1年以上	
	シミュレーション実習 II	4		2年以上	
	シミュレーション実習 III	4		3年以上	
	シミュレーション実習 IV	4		4年	
	医学概論	2		2年以上	
	外傷・中毒	2		3年以上	
	シミュレーション基礎実習	2		1年以上	
災害医療論	2		2年以上		
災害・イベント医療	2		3年以上		

<履修モデル>

救急救命士必修科目 (※)

授業科目の区分 (身につける能力)			授業科目名	単位数		履修モデル			
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
(人間基礎力を養う科目) 基盤教育科目	建学の精神を知る科目	TFU科目 (必修7単位)	Well-Beingを考える	2		2			
			福祉と仏教	2		2			
			禅のこころ	1		1			
			リエゾンゼミ I	2		2			
	自分自身を考える科目	自己管理能力 (セルフマネジメント) (必修2単位)	キャリアデザイン	1		1			
			身体をととのえる	1		1			
	多様性を考える科目	思考・判断力 (1単位選択必修)	生命と倫理		2		2		
			情報の科学		2	2			
			統計情報を見る眼	2		2			
			表現力 (必修4単位)	英語 I	2		2		
			英語 II	2			2		
	自他の調和を考える科目	社会力 (2単位選択必修)	リーダーシップと協調性		2	2			
			実践的防災を学ぶ		2	2			
	基盤教育科目 履修単位数						19	4	0
						23			

(次頁へ続く)

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		履修モデル			
			必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
学科教育課程	健康を支える 社会のしくみ を学ぶ科目	医療概論 ※	4		4			
		医療経営管理論	2		2			
		公衆衛生学 ※		2		2		
		保健医療情報学		2			2	
	身体・こころ のしくみや 身近な病気を 理解する科目	生命科学と医療の接点 ※	2		2			
		百寿時代の老年医学 ※	2		2			
		解剖生理学 ※		2	2			
		臨床医学総論 ※		2	2			
	数字に基づく 分析力を 養う科目	生活の中の数学	2		2			
		ICT入門実習		2	2			
		医療データサイエンス入門		2		2		
	対応力を養う 科目	ファーストエイド ※	2		2			
		災害概論		2	2			
		災害医療論 ※		2		2		
		災害・イベント医療 ※		2			2	
	探求的に学ぶ 姿勢と手法を 養う科目	コミュニケーション基礎演習		1		1		
リエゾンゼミⅡ (専門基礎演習)		2			2			
リエゾンゼミⅢ (統合演習Ⅰ)		2				2		
		リエゾンゼミⅣ (統合演習Ⅱ)	2				2	
学科教育課程 履修単位数					22	9	6	2
					39			
資格教育課程	救急救命士課程	医学概論 ※		2		2		
		薬理学 ※		1		1		
		病理学 ※		2		2		
		生化学・栄養代謝学 ※		1		1		
		臨床医学各論A ※		2		2		
		臨床医学各論B ※		2		2		
		臨床医学各論C ※		2		2		
		臨床医学各論D ※		2		2		
		臨床医学各論E ※		2		2		
		臨床医学各論F ※		2		2		
		小児疾病治療論 ※		1		1		
		精神医学と精神医療Ⅰ ※		2			2	
		放射線医学 ※		1		1		
		外傷・中毒 ※		2			2	
		救急医学総論 ※		2		2		
		シミュレーション基礎実習 ※		2	2			
		シミュレーション実習Ⅰ ※		2	2			
		シミュレーション実習Ⅱ ※		4		4		
		シミュレーション実習Ⅲ ※		4			4	
		シミュレーション実習Ⅳ ※		4				4
		病院実習Ⅰ ※		4			4	
病院実習Ⅱ ※		4				4		
救急車同乗実習 ※		2			2			
		(自由選択)			0	6	4	
資格教育課程科目等 履修単位数					4	32	18	8
					62			
履修単位数合計					45	45	24	10
					124			

○救急救命士課程実習期間一覧（予定）

年次	実習名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	病院実習Ⅰ	← (期間：4月～12月の間) →											
3	救急車 搭乗実習							← (期間：10月～12月の間) →					
4	病院実習Ⅱ (学内実習)	← →											

※実習期間の詳細については、実習ガイダンス等で説明します。

(2) 診療情報管理士

医療提供において必要となる「診療録（カルテ）」や「診療報酬明細書（レセプト）」等の診療情報は、患者に適した医療を提供することに役立てられますが、同時に個々の医療機関の経営や、公衆衛生、医学研究においても高い価値を持つものとなります。すなわち、診療情報は、診療の実態や診療報酬の実績を明らかにし、医療の質の評価や医療経営上の判断を行う際の有益な情報であり、また、疾患の流行状況の把握や病因の解明などによって、医療の発展に役立ちます。

診療情報管理は医療事務の中の一つの専門分野であり、その業務を行うにあたって必要な知識と技術をもっていることを認定する資格が「診療情報管理士」です。診療情報管理士は医療に関わる多職種チームの中で診療情報を活用して、医療の質の向上に寄与する上での中心的な役割を担います。

この資格は、一般社団法人日本病院会の認定資格であり、本校本学科のような指定校で3年以上、指定の単位を修得した後、認定試験に合格すると認定、登録されます。（4年制大学の3年次合格者は保留合格となり、卒業後に有資格者として働くことが可能となります。）本課程では、3年次の前期までに受験資格を得て3年次末に受験し、保留合格後に就職活動を行うパターンが主流です。なお、認定試験出願にあたって受験料、合格後に認定料がかかります。

資格取得希望者は、下表の「診療情報管理士課程に関する科目」に示されている要件を満たすように、履修し、単位を修得する必要があります。原則として、別に示す「履修モデル」に準じて履修するようにしてください。

◎診療情報管理士課程に関する科目

	日本病院会 教科目	本学開設科目名	単位数		履修年次	履修方法
			必修	選択		
基礎科目	医療概論	医療概論	4		1年以上	必修48単位
	人体構造・機能論	解剖生理学	2		1年以上	
	臨床医学総論 (外傷学・先天異常等含む)	臨床医学総論	2		1年以上	
	臨床医学各論Ⅰ (感染症および寄生虫症)	臨床医学各論A	2		2年以上	
	臨床医学各論Ⅱ (新生物)	臨床医学各論B	2		2年以上	
臨床医学各論Ⅲ (血液・代謝・内分泌等)						

(次頁へ続く)

日本病院会 教科目		本学開設科目名	単位数		履修年次	履修方法
			必修	選択		
基礎科目	臨床医学各論Ⅳ (精神・脳神経・感覚器系等)	臨床医学各論C	2		2年以上	必修48単位
	臨床医学各論Ⅴ (循環器・呼吸器系)	臨床医学各論D	2		2年以上	
	臨床医学各論Ⅵ (消化器・泌尿器系)	臨床医学各論E	2		2年以上	
	臨床医学各論Ⅶ (周産期系)	臨床医学各論F	2		2年以上	
	臨床医学各論Ⅷ (皮膚・筋骨格系等)	臨床医学各論F	2		2年以上	
	医学・医療用語	医学・医療用語	2		2年以上	
専門科目	医療管理総論	医療経営管理論	2		1年以上	
	医療管理各論Ⅰ (病院管理)	医療管理各論Ⅰ	2		3年以上	
	医療管理各論Ⅱ (医療保険・介護保険制度)	医療管理各論Ⅱ	2		3年以上	
	医療管理各論Ⅲ (医療安全・医療の質管理)					
	保健医療情報学	保健医療情報学	2		2年以上	
	医療統計Ⅰ (統計理論)	医療データサイエンス入門	2		2年以上	
	医療統計Ⅱ (病院統計・疾病統計)	医療データサイエンス実践	2		3年以上	
	診療情報管理Ⅰ (法令・諸規則)	診療情報管理論Ⅰ	2		2年以上	
	診療情報管理Ⅱ (診療情報管理士の実務)	診療情報管理論Ⅱ	2		3年以上	
	診療情報管理Ⅲ (DPC・医師事務作業補助者・がん登録の実務)					
	国際統計分類Ⅰ	国際統計分類Ⅰ	2		3年以上	
	国際統計分類Ⅱ	国際統計分類Ⅱ	4		3年以上	
	病院実習		コミュニケーション基礎演習	1		2年以上
			医療機関実習事前指導	1		2年以上
		医療機関実習	2		3年以上	
補助科目		臨床医学アドバンス	2		3年以上	必修4単位
		情報処理応用実習	2		3年以上	
		医療事務実践講座		2	2年以上	自由選択
		医師事務作業補助実践講座		2	3年以上	

○ 医療機関実習

診療情報管理士の受験資格要件の一つに、医療機関における実習を行うことが求められています。実習にあたっては、2年次に「医療機関実習事前指導」(後期)を履修してから、3年次に「医療機関実習」(通年)を履修し、その中で2～4週間の医療機関(病院・診療所)での実習と事前・事後指導を行います。なお、医療機関実習には別途実習費(5万円程度)がかかります。実習の詳細については、2年次・3年次のガイダンスで説明します。

<履修モデル>

診療情報管理士必修科目（※）

授業科目の区分 (身につける能力)			授業科目名	単位数		履修モデル			
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次
人間基礎力を養う科目 基盤教育科目	建学の精神を知る科目	TFU科目 (必修7単位)	Well-Beingを考える	2		2			
			福祉と仏教	2		2			
			禅のこころ	1		1			
			リエゾンゼミ I	2		2			
	自分自身を考える科目	自己管理能力 (セルフマネジメント) (必修2単位)	キャリアデザイン	1		1			
			身体をととのえる	1		1			
			日常をととのえる		2	2			
	多様性を考える科目	思考・判断力 (1単位選択必修)	AIの基礎		2	2			
			情報の科学		2	2			
			統計情報を見る眼	2		2			
		表現力 (必修4単位)	英語 I	2		2			
		英語 II	2			2			
	自他の調和を考える科目	社会力 (2単位選択必修)	リーダーシップと協調性		2	2			
			人間関係について学ぶ		2		2		
			実践的防災を学ぶ		2	2			
基盤教育科目 履修単位数						23	4	0	0
						27			
学科教育課程	健康を支える社会のしくみを学ぶ科目	課題発見力	医療概論 ※	4		4			
			医療経営管理論 ※	2		2			
			保健医療情報学 ※		2		2		
			デジタルヘルスケア		2			2	
	身体・こころのしくみや身近な病気を理解する科目	健康理解力	生命科学と医療の接点	2		2			
			百寿時代の老年医学	2		2			
			解剖生理学 ※		2	2			
			臨床医学総論 ※		2	2			
			医薬品学		2		2		
	数字に基づく分析力を養う科目	数的分析力	生活の中の数学	2		2			
			ICT入門実習		2	2			
			医療データサイエンス入門 ※		2		2		
			インフォメーションデザイン論		2			2	
	対応力を養う科目	危機管理能力	ファーストエイド	2		2			
			災害概論		2	2			
災害医療論				2		2			
災害・イベント医療				2			2		
探求的に学ぶ姿勢と手法を養う科目	生涯学習力	コミュニケーション基礎演習 ※		1		1			
		リエゾンゼミ II (専門基礎演習)	2			2			
		リエゾンゼミ III (統合演習 I)	2				2		
		リエゾンゼミ IV (統合演習 II)	2					2	
学科教育課程 履修単位数						22	11	8	2
						43			
資格教育課程	診療情報管理士課程	基礎科目	臨床医学各論 A ※		2		2		
			臨床医学各論 B ※		2		2		
			臨床医学各論 C ※		2		2		
			臨床医学各論 D ※		2		2		
			臨床医学各論 E ※		2		2		
			臨床医学各論 F ※		2		2		
			医学・医療用語 ※		2		2		
		専門科目	医療管理各論 I ※		2			2	
医療管理各論 II ※			2			2			

(次頁へ続く)

授業科目の区分 (身につける能力)		授業科目名	単位数		履修モデル					
			必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次		
資格教育課程	診療情報管理士課程	専門科目	医療データサイエンス実践 ※		2			2		
			診療情報管理論Ⅰ ※		2		2			
			診療情報管理論Ⅱ ※		2			2		
			国際統計分類Ⅰ ※		2			2		
			国際統計分類Ⅱ ※		4			4		
			医療機関実習事前指導 ※		1		1			
			医療機関実習 ※		2			2		
		補助科目	臨床医学アドバンス ※		2			2		
			情報処理応用実習 (MOS Excel/Access 応用) ※		2			2		
			医療事務実践講座		2		2			
			医師事務作業補助実践講座		2			2		
			(自由選択)			0	10	2	2	
		資格教育課程科目等 履修単位数					0	29	24	2
							55			
履修単位数合計					45	44	32	4		
					125					

(3) 医療経営管理学科で取得可能なその他の資格

① 社会福祉主事 (任用資格)

社会福祉主事は、都道府県や市町村の福祉事務所や各種行政機関等において、保護・援助を必要とする人のために相談・指導・援助を行います。医療経営管理学科の学生は履修条件を満たすことで資格を取得することができ、公務員採用試験に合格したのち、自治体の福祉事務所等において採用されることで社会福祉主事として業務に携わることになります。公務員の職務上の資格ではありますが、福祉分野の職種において資格要件に規定されることもあり、就職の幅が広がります。

下表に沿って必要科目を履修し、単位を修得してください。

◎社会福祉主事 (任用資格) に関する科目

厚生労働省指定科目	本学開設授業科目名	単位	履修年次	履修方法
社会福祉概論	社会福祉原論A	2	2年以上	6科目単位修得で完成
	社会福祉原論B	2	2年以上	
社会福祉事業史	社会福祉史A	2	2年以上	
	社会福祉史B	2	2年以上	
社会福祉援助技術論	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	1年以上	
	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)	2	1年以上	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2年以上	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2年以上	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	3年以上	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	3年以上	
社会福祉調査論	社会福祉調査の基礎	2	2年以上	
社会福祉施設経営論	福祉サービスの組織と経営	2	3年以上	
社会福祉行政論	社会福祉法制論	2	3年以上	
社会保障論	社会保障論Ⅰ	2	3年以上	
	社会保障論Ⅱ	2	3年以上	
公的扶助論	公的扶助論	2	3年以上	
児童福祉論	児童・家庭福祉	2	1年以上	
家庭福祉論				

厚生労働省指定科目	本学開設授業科目名	単位	履修年次	履修方法
保育理論	保育原理	2	1年以上	厚生労働省指定科目別に 3科目以上単位修得 (科目にⅠとⅡ及びAと Bがある場合、両者の単 位を修得)
身体障害者福祉論	障害者福祉	2	1年以上	
知的障害者福祉論				
精神障害者保健福祉論	精神医学と精神医療Ⅰ	2	3年以上	
	精神医学と精神医療Ⅱ	2	3年以上	
	精神疾患とその治療	2	3年以上	
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2	2年以上	
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2	2年以上	
老人福祉論	高齢者福祉	2	1年以上	
医療社会事業論	医療ソーシャルワーク論	2	2年以上	
地域福祉論	地域福祉と包括的支援体制A	2	2年以上	
	地域福祉と包括的支援体制B	2	2年以上	
法学	権利擁護を支える法制度	2	1年以上	
民法	民法総則Ⅰ	2	1年以上	
	民法総則Ⅱ	2	1年以上	
行政法	行政法Ⅰ	2	2年以上	
	行政法Ⅱ	2	2年以上	
経済学	社会・経済のしくみ	2	1年以上	
社会政策	社会政策論	2	2年以上	
経済政策				
心理学	福祉心理学	2	1年以上	
	心理学概論	2	1年以上	
社会学	社会学と社会システム	2	1年以上	
教育学	教育学概論B	2	1年以上	
倫理学	倫理学概論	4	2年以上	
公衆衛生学	公衆衛生学	2	2年以上	
医学一般	医学概論	2	2年以上	
リハビリテーション論	リハビリテーション論	2	1年以上	
看護学	看護学	4	2年以上	
介護概論	介護概論Ⅰ（ケアワークの基礎）	2	2年以上	
栄養学	栄養学（食品学を含む）	2	2年以上	
家政学	家政学概論Ⅰ	2	2年以上	
	家政学概論Ⅱ	2	2年以上	

② 司書

■ 資格取得認定校とは

司書は、図書館の専門職員として必要な知識と訓練を受けた国家資格保持者です。資格取得には複数の方法がありますが、本学では指定された単位を修得することで取得できます。なお、課程履修費（20,000円）は自己負担で、資格科目の履修開始年度に徴収します。

下表に沿って必要科目を履修し、単位を取得してください。

◎司書資格に関する専門科目

区 分		本学の授業科目名	単位	履修年次	履修方法
必修科目	基礎科目	生涯学習概論Ⅰ	2	1年以上	必修22単位
		図書館概論	2	2年以上	
		図書館情報技術論	2	3年以上	
		図書館制度・経営論	2	3年以上	
	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2	2年以上	
		情報サービス論	2	2年以上	
		情報サービス演習	2	3年以上	
		児童サービス論	2	2年以上	
	図書館情報資源に関する科目	図書館情報資源概論	2	3年以上	
		情報資源組織論	2	2年以上	
情報資源組織演習		2	3年以上		
選択科目	2科目選択	図書館基礎特論	1	2年以上	2科目2単位以上 選択して取得のこと
		図書館サービス特論	1	2年以上	
		図書館情報資源特論	1	3年以上	
		図書・図書館史	1	2年以上	
		図書館施設論	1	2年以上	
		図書館総合演習	1	3年以上	
		図書館実習*	1	3年以上	

※ 図書館実習の実施時期は、夏季休業中の8月・9月の4日間を予定しています。実習に関しては登録が必要となりますので、必ず履修登録期間直前の図書館実習ガイダンスに出席してください。なお、実習費（5,000円）は各自負担となります。

※ 図書館実習履修の前提条件は、以下のとおりです。

開講科目名	単位	履修年次	履修状況
生涯学習概論Ⅰ	2	1年以上	修得済
図書館概論	2	2年以上	修得済
情報サービス論	2	2年以上	修得済
児童サービス論	2	2年以上	修得済
図書館情報資源概論	2	3年以上	修得済もしくは履修中
図書館情報技術論	2	3年以上	修得済もしくは履修中
図書館制度・経営論	2	3年以上	修得済もしくは履修中

③ (公財) 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員

「日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者制度」は、日本における障がい者スポーツ振興等にあたるパラスポーツ指導者の資質と指導力の向上を図り、指導活動の促進と指導体制を隔離するために、公益財団法人日本パラスポーツ協会が制定したものです。指導者は以下に示す種類に分けられ、適正に応じたスポーツ・レクリエーションを通じて、健康・体力の維持・増進と競技力の向上に寄与することを任務としています。

■ パラスポーツ指導員の種類

※ 本学では、初級および中級パラスポーツ指導員資格のみ取得可能です。

種類	内容
初級パラスポーツ指導員	地域で活動する18歳以上の指導者で、初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者。また、障がいの基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては健康や安全管理を重視した指導ができる者。さらに、地域の大会や行事に参加すると共に、指導員組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支える者。
中級パラスポーツ指導員	地域における障がい者スポーツのリーダーとしての役割を持ち、指導現場では十分な知識、技術と経験に基づいた指導ができ、指導員の模範となる者。また、地域のスポーツ大会や行事の企画・運営に参加すると共に、全国障がい者スポーツ大会に参加する選手団のコーチとして、選手選考やその強化・育成の役割を担う者。さらに、指導員の組織化や運営にも関わり、地域の障がい者スポーツ振興を進める者。
上級パラスポーツ指導員 ※本学での取得不可	県レベルのリーダーとして、指導現場では障がい者スポーツの高度な専門的知識を有し、指導現場では十分な知識、技術と豊富な経験に基づいた指導と指導員を取りまとめる指導的立場になる者。また、県レベルのスポーツ大会や行事の企画・運営の中心的役割を持ち、全国障がい者スポーツ大会に参加する選手団の監督として、選手選考やその強化・育成の責任を担う者。さらに、指導者の組織運営に積極的にかわり、地域のスポーツ振興のキーパーソンとなる者。

■ 資格取得認定校制度

日本パラスポーツ協会は、開講科目を受講することで「パラスポーツ指導員基準カリキュラム」を修了することが可能な大学・短期大学等などで、申請のあったもののうち協会が認めた学校を公認パラスポーツ指導員資格取得認定校としています。

認定校においてカリキュラムを修了した場合、資格申請は大学がまとめて行うこととなります。

※ 学外で資格を取得する場合、資格取得要件等が異なりますので注意が必要です。

■ 履修・資格取得方法

履修登録の際に資格チェックを行ったうえで、以下に示す科目を履修し、単位を修得してください。なお、課程履修費および申請費用がかかります。各自負担となります。

※ 課程履修費は、初級・中級の科目履修開始の初年度に各10,000円徴収します。

※ 資格についての詳細は、資格科目の講義内で説明します。

① 初級パラスポーツ指導員

◎初級パラスポーツ指導員に関する科目

授業科目名	単位	履修年次	履修方法
障害者スポーツ指導法Ⅰ	2	1年以上	必修4単位
ユニバーサルスポーツ	2	1年以上	

※ 初級を取得するには、上記2科目の単位修得が必要です。

※ 11月中旬頃に、上記2科目を修得かつ課程履修費納入済みの方を対象に、申請についての連絡をUNIPAで配信します。

※ 申請の際に、申請費用9,300円（申請・認定料 5,500円＋登録料3,800円）が必要となります。申請は一括で行いますので、費用の支払いが期限までに確認できない方は、その年度の資格申請はできません。

※ 資格取得後は、毎年度資格の更新手続き（更新料3,800円）が必要です。更新手続きは、各自で行います。

② 中級パラスポーツ指導員

◎中級パラスポーツ指導員に関する科目

授業科目名	単位	履修年次	履修方法
障害者スポーツ指導法Ⅱ	2	2年以上	必修4単位
障害者スポーツ指導法Ⅲ	1	2年以上	

- ※ 上記2科目の単位修得のほか、80時間以上の実践ボランティア活動が必要です。
- ※ 実践ボランティア活動の活動実績の記録として、所定の「活動実績証明（小冊子）」に活動先の団体や担当者に証明を受ける必要があります。活動実績には、以下のような活動が含まれます。
 - ・パラスポーツに関わる研修会・講習会に受講者として参加する。
 - ・パラスポーツに携わる研修会・講習会に講師として携わる。
 - ・パラスポーツに関わる協議会やイベント、教室等に審判員、補助員（ボランティア）等として携わる。
 - ・障がい者スポーツ団体の支援・協力を行う。
 - ・障がいを持つ個人（家族・友人等を含む）のスポーツ活動に加わる。
- ※ 「活動実績証明（小冊子）」は、担当教員が授業内で配布します。
- ※ 11月中旬頃に、上記2科目を修得かつ課程履修費納入済みの方を対象に、申請についての連絡をUNIPAで配信します。
- ※ 申請の際に、申請費用9,300円（申請・認定料 5,500円＋登録料3,800円）が必要となります。申請は一括で行いますので、費用の支払いが期限までに確認できない方は、その年度の資格申請はできません。
- ※ 初級の「登録証」を持っている場合、申請に係る費用は登録料（3,800円）のみとなります。初級申請後、更新手続きを行わずに「登録証」の期限が切れている場合は、9,300円が必要となります。
- ※ 中級を申請する場合は、「活動証明書のコピー」の添付が必要です。

④ レクリエーション・インストラクター資格

公益財団法人日本レクリエーション協会制定の公認指導者資格で、人と人との交流促進や、楽しさの体験に主眼をおいた技術指導や継続的に楽しむクラブ・教室・「市民サービス型事業」の企画・運営・実施を具体的に進める指導者として、さまざまな遊びのメニューと、技術を持ち、楽しさの体験を多くの人に提供していきます。

本学は（公財）日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校に指定されています。

■ 履修定員・方法

養成課程を履修できる学生は、総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の全学年で50名とし、1年次後期に課程への登録を行います。登録申請については、UNIPAでお知らせします。

資格取得希望者は、以下に示す科目を履修し、単位を修得してください。なお、テキスト代を除く課程履修費（10,000円）は各自負担となり、資格科目履修開始の初年度に徴収します。

◎レクリエーション・インストラクター資格に関する科目

系列	本学の授業科目名	種別	単位	履修年次	履修方法
1. 理論科目	レクリエーション理論	講義	2	2年以上	必修2単位
2. 実技科目	レクリエーション実技	実技	2	2年以上	必修3単位
	レクリエーション支援技術演習	演習	1	2年以上	
2-1. 実習（活動）	福祉ボランティア活動※1	実習	2	1年以上	1科目選択し単位修得
	実学臨床教育Ⅱ	実習	2	2年	
2-2. 事業参加	レクリエーション事業※2	実習	1	2年以上	必修 (2回参加およびレポートを提出することにより単位認定)

※1 「福祉ボランティア活動」は1年次から履修可能ですが、カリキュラム体系上、理論科目・実技科目と同時または理論科目・実技科目履修後の受講をお勧めします。

※2 レクリエーション事業は、以下（ア）～（ウ）の事業のいずれかに2回（1回8時間程度）参加しなければなりません。

（ア）日本、都道府県、市区町村レクリエーション協会主催事業並びに加盟団体主催事業

（イ）行政や民間等の主催する事業で、レクリエーション協会が共催、後援、受託等で関係している事業

(ウ) 大学が指定する各種の事業等（レクリエーション・インストラクター養成課程にふさわしいと認める事業）但し、(ウ) に該当する事業は、原則として2回のうち1回までとします。

※2 レクリエーション事業については（通年）で行います。事業内容・参加人数・日程・会場等を含めて主催者等と協議が必要なため、教員または福祉実習支援室から随時お知らせします。

■ 資格登録申請

「レクリエーション・インストラクター資格に関する科目」の要件を満たすすべての単位を4年次までに修得または修得見込みであることを確認し、（公財）日本レクリエーション協会へ4年次の11月頃に資格登録申請手続きをします。手続き方法については、4年次にお知らせします。

※ 申請には課程履修費とは別に登録料がかかります。

○資格登録料 17,600円（登録料16,000円+10%消費税1,600円）

⑤ 福祉用具専門相談員

介護保険制度のなかで高齢者や障害者、その家族に適した福祉用具の選び方・使い方などの相談、導入後のサポートを行う福祉用具のプロです。活かせる職場としては、福祉用具貸与事務所や福祉用具販売事務所、福祉用具メーカー、レンタル事業者福祉施設、訪問介護事業所、ホームセンターなどがあります。

※福祉用具貸与、福祉用具販売とは、保健師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、義肢装具士のほか、この課程を修了した者が、福祉用具に関する専門知識に基づく助言を受けて行われるものをいいます。（介護保険法施行令第四条）

■ 履修定員・方法

履修定員は、総合福祉学部・健康科学部医療経営管理学科の2年次以上、および応用福祉学連係教育課程の全学生で40名とします。

資格取得希望者は、履修登録前に実施されるガイダンス（UNIPA 掲示で案内）に必ず参加してください。下記の指定科目すべてを履修年度中に取得することで、修了証明書（福祉用具専門相談員指定講習）を受けることができます。なお、実習費は各自負担となります。

◎福祉用具専門相談員に関する科目

指定科目名称	本学の授業科目名	単位	履修年次	履修方法
老人保健に関する基礎知識	高齢者の保健福祉とリハビリテーション	2	2年	必修
関連領域に関する基礎知識				
介護と福祉用具に関する理解	福祉用具と生活支援	2	2年	必修
福祉用具の活用に関する実習	福祉用具活用実習*	1	2年	必修

※ 問い合わせ部署：生涯学習ボランティア支援課 電話：022-766-8834

⑥ 臨床美術課程

臨床美術はアートによって脳を刺激して活性化し、認知症の予防や進行抑制に役立てるもので、現在では発達が気になる子どもやメンタルヘルスとして社会人にも実施されるようになってきました。本課程では、造形美術を用いた系統的なカリキュラムに沿って学習・訓練することで、認知症などの人々の力を引き出す専門的スキルを養成することを目的としています。

教育課程の内容は、臨床美術概論、臨床美術入門（制作）、コミュニケーショントレーニング、画材について学ぶ教材研究、ロールプレイを中心とした実践研究など多岐にわたり、臨床美術の基本的な知識と技術を習得することができます。

東北福祉大学において「臨床美術論Ⅰ、Ⅱ」を修めた者は臨床美術士5級の認定試験受験資格が、「臨床美術論Ⅲ、Ⅳ」を修めた者は、臨床美術士資格取得4級の認定試験受験資格が与えられます。

※3級までは、仙台市において臨床美術士養成講座を受講することでも受験資格が得られます。詳しくは特定非営利活動法人日本臨床美術協会事務局（電話：050-6865-3701）までお問い合わせ下さい。

■ 各認定級の位置づけは以下のとおりです。

資格	説明
臨床美術士 5級	理論と実技の両面から臨床美術の概要を学び、基本的なアートプログラムを実施できます。資格取得講座で学んだアートプログラム、およびその他5級以上向けアートプログラムを使用し、臨床美術を実施することができます。
臨床美術士 4級	臨床美術の基礎知識と実践スキルを身につけており、全てのアートプログラムを実施でき、さまざまな現場でさまざまな対象者に対応できます。
臨床美術士 3級	現場実習を中心に臨床美術の深い理解とより幅広い対応力が必要とされる多様な現場で臨床美術を実施できます。自信と実力を備えたプロフェッショナルとして活躍できます。
臨床美術士 2級	臨床美術における専門性と現場経験の蓄積があり、オリジナルアートプログラム作成と実施を行い、後進の指導・育成や臨床美術に関する講演などの実施を行うことができます。
臨床美術士 1級	臨床美術士の代表として、数多くの現場経験および講演経験を持っています。臨床美術関連の書籍を執筆、編纂するなどして臨床美術を広く社会に紹介、拡大する役割を担います。

■ 履修方法

養成課程を修了するためには、以下に示す資格に関する科目を履修・修得しなければなりません。なお、臨床美術論（Ⅰ・Ⅱ履修費15,000円、Ⅲ・Ⅳ履修費15,000円）および陶芸制作（Ⅰ材料費5,000円、Ⅱ材料費5,000円）の課程履修費は各自負担となり、履修開始の初年度に徴収します。

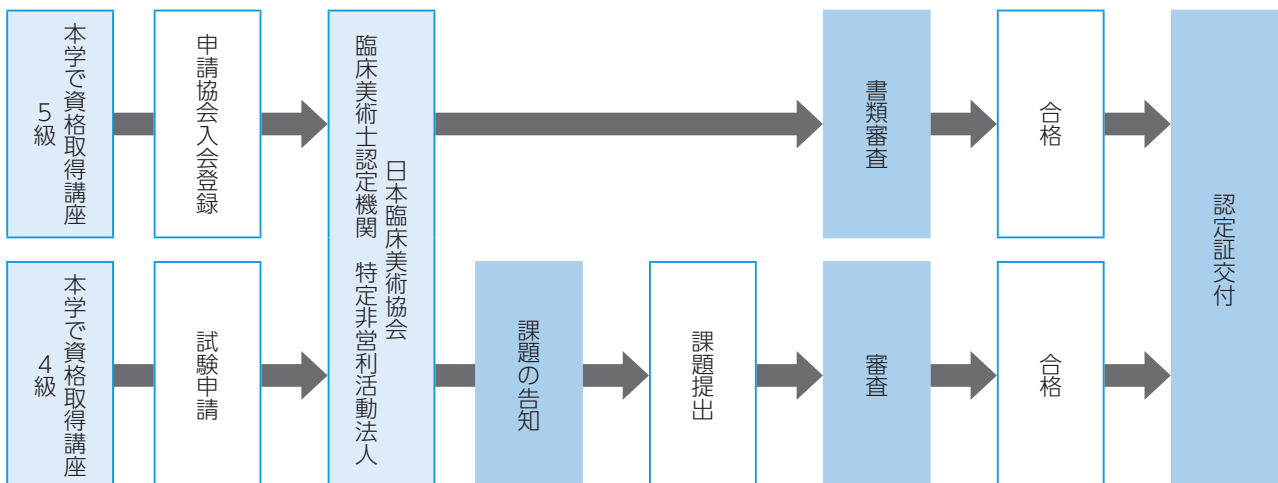
◎臨床美術課程に関する科目

本学の授業科目名	単位		履修年次	履修方法
	必修	選択		
臨床美術論Ⅰ	2		1年以上	必修8単位* 2科目4単位以上選択し修得
臨床美術論Ⅱ	2		1年以上	
臨床美術論Ⅲ	2		2年以上	
臨床美術論Ⅳ	2		2年以上	
陶芸制作Ⅰ		2	2年以上	
陶芸制作Ⅱ		2	2年以上	
ケアマネジメント論		2	3年以上	
表現技術Ⅲ（美術）		1	2年以上	
精神医学と精神医療Ⅰ		2	3年以上	
精神医学と精神医療Ⅱ		2	3年以上	

※ 臨床美術士5級の認定試験受験資格希望者は「臨床美術論Ⅰ、Ⅱ」必修、臨床美術士4級の認定試験受験資格希望者は「臨床美術論Ⅲ、Ⅳ」必修です。

※ 「臨床美術論」は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順に履修してください。

<資格認定までの流れ>



◎資格取得（5級・4級）時の学生優遇措置および入会金納入

臨床美術士の資格を取得すると、日本臨床美術協会の資格認定会員となります。会員は入会金および年会費の納入が必要ですが、在学中は以下の優遇措置が適用されます。なお、権利と義務は、他の資格認定会員と同等です。

【優遇内容】

①在学中の年会費免除

② 同じ学校法人内での進学（大学院）、休学・留学・留年中も年会費免除

※ 入会金(2,000円)を期限内に納入すると、3月中旬頃より会員証および入会書類が発送されます。

⑦ 介護職員初任者研修課程

介護職員初任者研修は、介護に携わる者が業務を遂行する上で必要な知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにすることを目的として、宮城県介護職員養成研修事業実施要綱に基づいて実施されています。本学で科目を履修するだけでは資格を取得することはできませんので、ご注意ください。

下表は、資格取得にあたって参考になる科目です。

◎介護職員初任者研修課程に関連する科目

授業科目名	単位	履修年次
介護概論Ⅰ（ケアワークの基礎）	2	2年以上
高齢者福祉	2	1年以上
障害者福祉	2	1年以上
老年心理学Ⅰ	2	3年以上*
老年心理学Ⅱ	2	3年以上
認知症の理解と支援Ⅰ	2	3年
認知症の理解と支援Ⅱ	2	3年
医学概論	2	2年以上
基礎介護技術	2	2年以上
介護過程論	2	2年以上

※「老年心理学Ⅰ」は、福祉心理学科のみ2年以上での履修が可能です。

資格取得に関する詳細は、担当部署からUNIPAでお知らせします。

※問い合わせ部署：福祉実習支援室 電話：022-301-1279

⑧ デジタルコンテンツアセッサ課程

デジタルコンテンツアセッサ（Digital Contents Assessor：DCA）は、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構が運営する民間資格で、インターネット上のリスクに対応しながら、インターネット上で受発信されるデジタルコンテンツを適切に評価することができる人材を認定します。近年の青少年のネットトラブルやネットいじめ等に対応するためには、教員も高度情報社会のツールを把握する必要があり、その意味で本課程は、教員を目指す者にとっても重要な資格となります。また、企業や公務員、各種医療・福祉施設等で情報発信を担える人材の基礎資格でもあります。

■ 履修方法

デジタルコンテンツアセッサ課程は、総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生が選択できます。

以下に示す科目を履修し、単位を修得することで、DCA 2級および3級の申請資格が与えられます。

※詳細は年度初めにUNIPAでお知らせします。

◎デジタルコンテンツアセッサ課程に関する科目

●デジタルコンテンツアセッサ（3級）課程に関する科目

本学の授業科目名	単位	履修年次	履修方法
情報と社会	2	1年以上	必修2単位

●デジタルコンテンツアセッサ（2級）課程に関する科目

本学の授業科目名	単位	履修年次	履修方法
iコンプライアンス論	2	2年以上	必修2単位

⑨ **メディカルクラーク（医療事務技能審査試験）**

メディカルクラークは、一般財団法人日本医療教育財団が認定する資格で、病院や診療所等医療の現場で、受付窓口、患者のカルテ管理、健康保険点数の算出、医療保険の支払い機関に提出する診療報酬明細書（レセプト）の作成を行います。

本学では、「診療情報管理士課程に関する科目」として、2年次に「医療事務実践講座」を開講しています。

資格を取得するためには、科目受講後に日本医療教育財団が実施している医療事務技能審査試験に合格する必要があります。詳細は、財団のホームページ（<https://www.jme.or.jp/exam/mc/index.html>）を確認してください。なお、資格にかかる費用（テキスト代、受講料）は、各自負担になります。

⑩ **ドクターズクラーク（医師事務作業補助技能認定試験）**

ドクターズクラークは、医師の業務負担を軽減するために、医師の指示の下で診療録や各種診断書・証明書・処方せん等の医療文書を作成する業務を行います。

本学では、「診療医療情報管理士課程に関する科目」として、3年次に「医療事務作業補助実践講座」を開講しています。

資格を取得するためには、科目受講後に日本医療教育財団が実施している医療事務作業補助技能認定試験に合格する必要があります。詳細は、財団のホームページ（<https://www.jme.or.jp/exam/dc/index.html>）を確認してください。なお、資格にかかる費用（テキスト代、受講料）は、各自負担となります。

⑪ **防災士**

防災士は、防災に対する知識や技能を持つ人で、一定の知識・技能を習得したことを日本防災士機構が認定する民間資格です。防災士になるために必要な条件は、以下のとおりです。

- 大学等の認定研修機関で研修を修了すること
- 普通救急救命講習を修了すること
- 防災士資格試験に合格すること

本学では、防災士養成研修講座を実施しています。講座受講後、資格試験の合格を経て日本防災士機構へ登録申請することで資格取得となります。なお、在学中に合格した場合の登録申請は、本学が代行します。

資格取得にかかる費用は、各自負担となります。費用を含め、資格取得に関しての詳細は、教員もしくは担当部署からUNIPAでお知らせします。

<防災士資格に関する問合せ部署>

東北福祉大学 国見キャンパス
防災士研修事務局
電話：022-766-8836
E-Mail：bousai@tfu-ac.net

5 リエゾンゼミⅠ～Ⅳ（演習科目）

演習は、担当教員の指導のもと、ある特定のテーマについて文献等の講読や調査を行うなどしてこれを発表し、討議しあう訓練を積むことによって学生の自主的な研究態度を養成し、研究方法を体得することを目的にしています。

- リエゾンゼミⅠ ※学科ごとの学籍番号でクラス分けされます。

初年次教育（大学生として必要になる基礎的知識やスキルを身につけるプログラム）として、すべての学部・学科に共通した内容で展開します。大学生活に適応し、大学における学習方法や学習スキルを習得し、自分や社会についての理解を深め、人生やキャリアについて学びます。

※「リエゾンゼミⅡ～Ⅳ」の選定・登録は、学科単位で実施します。詳細は、「リエゾンゼミⅠ」等の講義内にお知らせします。

- リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）

「リエゾンゼミⅠ」での入門的な学びを踏まえつつ、担当教員のもと学科に即した専門分野の基礎的な知識の習得、プレゼンテーションや議論の方法、レジュメやレポートの書き方、資料の調べ方等、大学での学習や専門的研究を進める際に不可欠な技法を身につけます。

- リエゾンゼミⅢ（統合演習Ⅰ）／リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）

「リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）」での基礎的な学びを踏まえつつ、担当教員のもと特定の専門的なテーマに沿って行う少人数授業です。学生の発表に対する質問や議論のやりとり、グループワーク等によって進行し、教員と学生さらに学生同士が積極的に参加しながら学んでいく、専門性の高い授業といえます。

- リエゾンゼミⅣ（統合演習Ⅱ）／リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）

「リエゾンゼミⅢ（統合演習Ⅰ）／（専門演習Ⅰ）」での専門的な学びを踏まえつつ、担当教員のもとより一層専門性を深化させ、これまでの大学での学びの集大成を目指す場といえます。

6 卒業研究

【保健看護学科】

- 「看護学研究」(選択科目)
各自の研究課題を明らかにし、課題探求の成果をまとめるという課題を通して、自己の看護観の形成、職業人としての倫理観の形成を図ります。
- 「公衆衛生看護学研究」(保健師教育課程必修)
公衆衛生看護活動の実践と研究活動を連動させ、根拠に基づいた実践活動およびそれらの質の向上に寄与できるようになるための基礎的実践能力を養います。
- 「助産学研究」(助産師教育課程必修)
助産学実習において一組の母児を継続して受け持ち、分娩から産褥1か月までの助産過程を振り返ることと、自身の助産実践と対象者の反応について評価をします。自らの助産診断を省察的に捉えることで、助産診断能力を修得する姿勢を身につけることを目的とします。

【リハビリテーション学科】

- 理学療法学専攻 (PT)
広範な領域の理学療法研究および臨床現場で臨床研究をすすめるための基礎を学ぶとともに、適切な理学療法の検証のために必要な研究のあり方を理解し、卒業研究の計画と実践を行います。
- 作業療法学専攻 (OT)
授業をもとに実証研究(実験・調査・文献・事例研究)を進め、口述発表、ポスター発表、論文作成の過程を経て、研究の必要性を認識し、作業療法の実践家として研究を継続できる基本的マナーを習得することを目的としています。

【医療経営管理学科】

卒業研究は、学生各自が興味あるテーマについて演習担当教員の指導を受け、研究するものです。選択履修する学生は、その研究の基盤となる演習の選択も含め、長期的展望にたって、担当教員の指導を十分に受けてください。

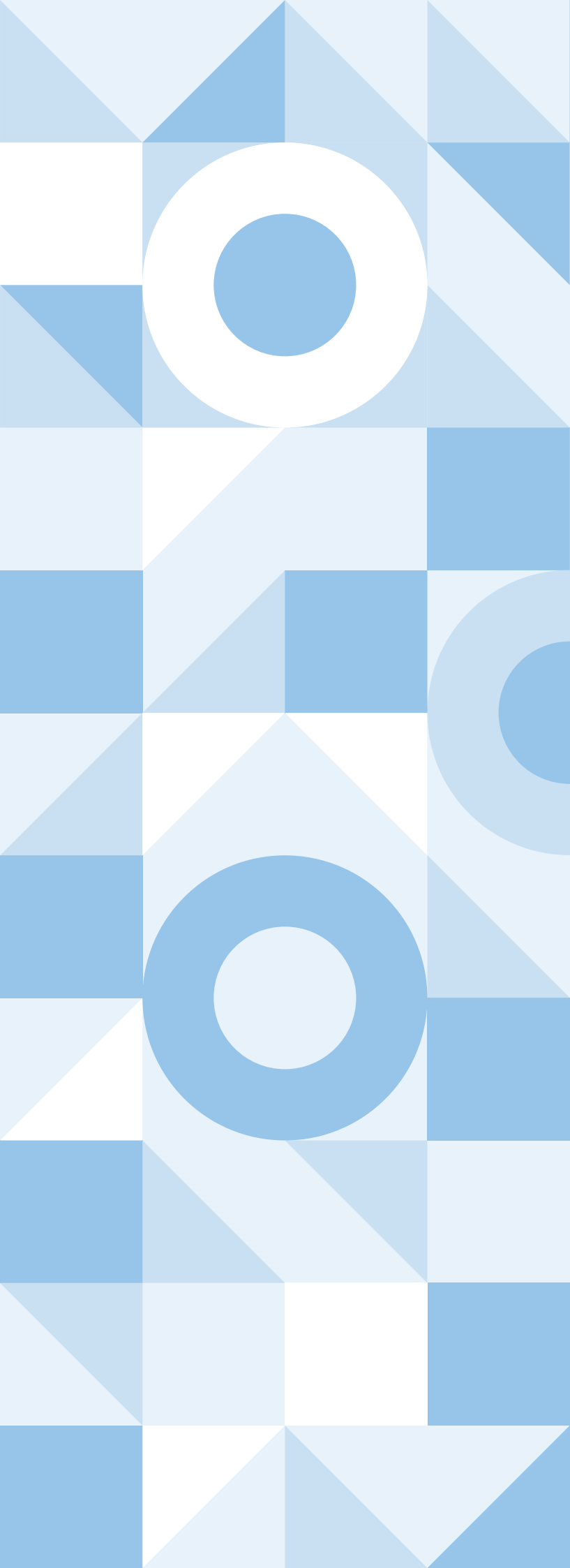
● 卒業研究の履修および卒業研究論文の提出

- ① 履修(提出) 当該年度の4年次学生で、卒業研究を含まずに卒業要件を満たす者。
- ② 各自の予定するテーマは、リエゾンゼミを選択し担当教員(専任教員に限る)の指導を受けることによって研究を進めていくことになります。
- ③ 卒業年時に研究論文としてまとめ、提出しようとする学生は、提出後担当教員の単位の可否の判断を受けることになります。なお、教員の指導内容については、事前に担当教員とよく相談して決めてください。

※ 各学科の「卒業論文・卒業研究の評価基準と手続き」については、大学ホームページ内の「学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)」に記載されています。QRコードから確認してください。

(参考) 卒業論文・
卒業研究の
評価基準と手続き





応用福祉学連係 教育課程



応用福祉学連係教育課程

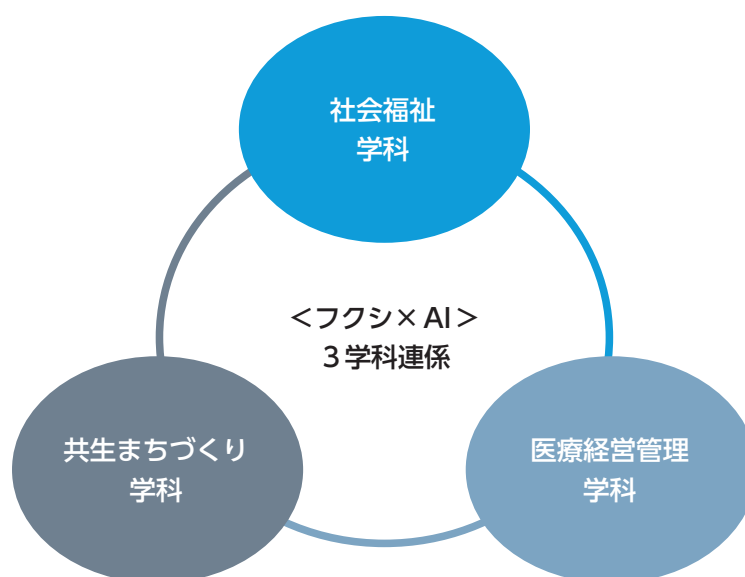
この課程は、社会福祉学科、共生まちづくり学科、医療経営管理学科の学生が、2年次進級時に移行(p.17参照)することができます。

詳しくは、応用福祉学連係教育課程のガイダンスで説明します。

※ 取得できる資格等は、p.100で確認してください。

この課程では、AIと福祉を組み合わせ、これからの時代に不可欠なデータ・サイエンスを学びながら、社会福祉学科、共生まちづくり学科、医療経営管理学科のコアとなる3つの分野を幅広く履修します。

ひとに寄り添い関係性を構築する「共感のちから」、人々と共に考えながら歩む「コーディネートのちから」、新たな視点やアイデアで生きがいを感じられる社会をつくる「発想のちから」を身につけます。



学科にとらわれないシームレスな学び

3学科の特徴的な科目を横断的に学びながら、関心のある分野やフィールドを選択。経験豊富な教員が学生を親身かつ丁寧にサポートし、一人ひとりに合った進路を共に検討していきます。

自分に合った進路を選択

2年次の進級時に、3つの学科から自身が取り組む学びを選択することができます。何を知りたいのか、何になりたいのかを、学びを深めながら具体的にイメージしていきます。

AIやデータ・サイエンスのスキルを学ぶ

AIプログラム実習では、AIのアルゴリズムや実社会でのAI活用スキルを修得。データ・サイエンスを必修とし、統計的・数理的思考に基づいてデータ分析できる力を養います。

【応用福祉学連係教育課程の教育研究上の目的】

建学の精神（行学一如）に則り、人類の幸福の追求と国際社会並びに地域社会の発展に貢献できる人材養成を目的として、応用福祉学連係教育課程を設置する。

既設の3学科で展開されているそれぞれのコアとなる学びを、AI/データサイエンス教育を通して社会のWell-being実現に向けて有機的に再構成し、大きく次の3つの力を身につけさせることを目的とする。

- ① 福祉環境を多面的に理解し、幅広く深い教養と専門領域を修めるとともに、科学的な考え方や先進的なICT技術を活用することによって、生活者それぞれのライフステージのなかで「幸せ」と「安心」を追究しながら社会全体の発展に寄与でき、問題を主体的に解決できる力。
- ② 地域の課題解決や活性化に資する社会起業やイノベーションについて学び、前例にとらわれない考え方や方法を生み出すとともに、社会起業家的精神を持って多様な主体との連携をコーディネートする力。
- ③ 人々の医療・健康を維持していく社会システムのあり方について深い興味と関心を持ち、心身の健康に関する最新の知見と、様々な環境に置かれている生活者の状況に応じた健康管理・維持をおこなっていく力。

区分		授業科目名	単位		履修年次	履修方法
			必修	選択		
異なる背景や立場を持つ人々との関係構築に資する科目	共感力	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	2		2年以上	必修6単位 他自由選択
		権利擁護を支える法制度	2		1年以上	
		社会福祉原論A	2		2年以上	
		社会学と社会システム		2	1年以上	
		家族社会学		2	1年以上	
		医学概論		2	2年以上	
		障害者の心理		2	1年以上	
		高齢者福祉		2	1年以上	
		障害者福祉		2	1年以上	
		児童・家庭福祉		2	1年以上	
		福祉心理学		2	1年以上	
		若者支援論		2	3年以上	
		認知症の理解と支援Ⅰ		2	3年以上	
		リハビリテーション論		2	1年以上	
		心理学概論		2	1年以上	
健康・医療心理学		2	2年以上			
公衆衛生学		2	2年以上			
新たなアプローチやアイデアを開発・発信・共有する能力に資する科目	発想力	生活の中の数学	2		1年以上	必修4単位 他自由選択
		百寿時代の老年医学	2		1年以上	
		データサイエンス		2	2年以上	
		SNSマーケティング		2	2年以上	
		SNSコンテンツ制作論		2	2年以上	
		プログラミング実習		2	2年以上	
		プロモーションビデオ制作実習		4	3年以上	
		人工知能ビジネス応用		2	2年以上	
		XR入門		2	2年以上	
		XR応用		2	2年以上	
		インフォメーションデザイン論		2	2年以上	
		デジタルヘルスケア		2	2年以上	
		ヘルスマネジメント論		2	3年以上	
		解剖生理学		2	1年以上	

（次頁へ続く）

区分	授業科目名	単位		履修年次	履修方法
		必修	選択		
多様な主体との連携をコーディネートする能力を養う科目	リエゾンゼミⅢ（専門演習Ⅰ）	2		3年以上	必修8単位 他自由選択
	リエゾンゼミⅣ（専門演習Ⅱ）	2		4年	
	社会起業入門	2		1年以上	
	ソーシャルワークの基盤と専門職	2		1年以上	
	経済原論Ⅰ		2	2年以上	
	金融の基礎		2	2年以上	
	情報支援技術論		2	2年以上	
	情報支援実習		4	2年以上	
	政策学入門		2	1年以上	
	社会政策論		2	2年以上	
	人的資源管理論		2	3年以上	
	ソーシャルビジネス論		2	2年以上	
	子ども家庭支援論		2	2年以上	
	地域福祉と包括的支援体制A		2	2年以上	
	社会福祉調査の基礎		2	2年以上	
	実学臨床教育Ⅰ		2	1年以上	
	実学臨床教育Ⅱ		2	2年以上	
	実学臨床教育Ⅲa		2	3年以上	
	実学臨床教育Ⅲb（福祉フィールドワーク）		2	3年以上	
	実学臨床教育Ⅳa		2	4年	
実学臨床教育Ⅳb（福祉フィールドワーク）		2	4年		
身体活動と健康		2	1年以上		

■ 応用福祉学連係教育課程で取得できる資格一覧

資格・免許	応用福祉学連携教育課程	掲載ページ	備考
日本パラスポーツ指導員	▲	88	大学で一括申請
レクリエーション・インストラクター	▲	90	大学で一括申請
福祉用具専門相談員	▲	91	
臨床美術士	□	91	学外の講座等でも取得可能
デジタルコンテンツアセッサ	▲	93	要個人申請
社会福祉主事（任用）	●	86	
児童指導員（任用）	●	101	
知的障害者福祉司（任用）	●	101	
身体障害者福祉司（任用）	○	101	
社会貢献活動支援士	□	102	学外の講座等でも取得可能
健康運動実践指導者	□	103	

● 卒業と同時に取得可能な資格

○ 所定の科目を修得し、卒業することで取得可能な資格・受験資格

▲ 所定の科目を修得することで取得可能な資格

□ 所定の科目を修得し、学外の試験に合格することで取得可能な資格

(1) 児童指導員 (任用資格)

児童指導員は、児童養護施設や児童発達支援センター、障害児入所施設等において、子どもとの直接的な関わりを通して生活支援と自立に向けた支援を行う役割を担います。

応用福祉学連係教育課程に在籍し、卒業することで資格取得が可能です。

(2) 知的障害者福祉司 (任用資格)

知的障害者福祉司は、知的障害者の福祉に関する事務を行う職員で、都道府県が設置する知的障害者更生相談所において配置義務があり、市町村が設置する福祉事務所には、知的障害者福祉司を置くことができるとされています。

応用福祉学連係教育課程に在籍し、卒業することで資格取得が可能です。

(3) 身体障害者福祉司任用資格

身体障害者福祉司は、福祉事務所が行う身体障害者行政のためにおかれ、身体障害者の相談に応じ、その生活の実情、環境等を調査し、更生援護の必要の有無およびその種類を判断し、本人に対する指導を職務とします。

応用福祉学連係教育課程の学生は、履修条件を満たし、卒業することで資格を取得することができます。

次表に沿って必要科目を履修し、単位を修得してください。

◎身体障害者福祉司任用資格に関する科目

群	法令指定科目	本学の授業科目名	単位	履修年次	履修方法 (I群II群合わせて 14科目以上単位修得)
I群	社会事業概論	社会福祉原論A	2	2年以上	必修4単位
		社会福祉原論B	2	2年以上	
	社会事業史	社会福祉史A	2	2年以上	必修4単位
		社会福祉史B	2	2年以上	
	社会事業施設論	福祉サービスの組織と経営	2	3年以上	必修2単位
	社会事業行政	社会福祉法制論	2	3年以上	必修2単位
	社会事業の方法	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	1年以上	1科目選択必修 2科目修得して1科目とする
		ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	2	1年以上	
ソーシャルワークの理論と方法I		2	2年以上	2科目修得して1科目とする	
ソーシャルワークの理論と方法II		2	2年以上		
II群	社会立法	権利擁護を支える法制度	2	1年以上	1科目選択必修 I・IIセット履修 (I・IIがある科目は両方とも 単位修得して1科目とする)
		民法総則I	2	1年以上	
		民法総則II	2	1年以上	
		物権法I	2	2年以上	
		物権法II	2	2年以上	
		債権法I	2	2年以上	
		債権法II	2	2年以上	
		労働法(労働組合法を含む)I	2	2年以上	
		労働法(労働組合法を含む)II	2	2年以上	
		行政法I	2	2年以上	
	行政法II	2	2年以上		
社会政策	社会政策論	2	2年以上	1科目選択必修 I・IIセット履修(同上)	
	社会保障論I	2	3年以上		
	社会保障論II	2	3年以上		
社会病理又は社会問題	社会学と社会システム	2	1年以上	1科目選択必修	
	社会・集団・家族心理学(社会・集団心理学)	2	2年以上		
社会調査	社会福祉調査の基礎	2	2年以上	1科目選択必修	
社会統計	社会調査実習	2	3年以上		

(次頁へ続く)

群	法令指定科目	本学の授業科目名	単位	履修年次	履修方法 (I群II群合わせて 14科目以上単位修得)
II群	社会衛生	公衆衛生学	2	2年以上	必修2単位 1科目選択必修 I・IIセット履修(同上)
	精神衛生	現代の精神保健の課題と支援I	2	2年以上	
		現代の精神保健の課題と支援II	2	2年以上	
II群	身体障害者の心理	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	3年以上	必修4単位
		聴覚障害者の心理	2	3年以上	
	職業指導・補装具知識	障害者福祉	2	1年以上	1科目選択必修
		介護概論I(ケアワークの基礎)	2	2年以上	
		福祉用具と生活支援	2	2年以上	
		福祉用具活用実習	1	2年以上	
		生活支援工学I	2	2年以上	
	社会教育	リハビリテーション論	2	1年以上	必修4単位 I・IIセット履修(同上)
		生涯学習概論I	2	1年以上	
		生涯学習概論II	2	1年以上	

※ 各科目I・IIについては、2科目を履修して1科目と計算する。

(4) 社会貢献活動支援士課程

社会貢献活動支援士は、防災・減災、社会貢献や環境の専門的知識と能力を身につけ、災害やボランティアの現場でリーダーシップを取って活動できる人材であることを認定する資格です。

本課程の科目は、東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学の3大学連携に関する協定書に基づき提供され、共同カリキュラムで構成されています。科目は、3大学同時に受講することができる連携共同科目と、実習・演習のように各大学内で行われる実習科目、夏期・冬期休暇を利用して各大学で行われるスクーリング・集中講義の科目により構成されます。

応用福祉学連携教育課程の学生は、下表の履修方法に沿って履修することで、社会貢献活動支援士の受験資格が与えられ、認定試験合格後、社会貢献学会より「社会貢献活動支援士資格認定書」が発行されます。

■ 履修方法

下表に沿って必要科目を履修し、単位を修得してください。インターネット回線を用いたオンデマンド授業により、本学にいながら他大学の講義を3大学同時に受講することができる連携共同科目「社会貢献学入門」や、夏期・冬期休暇を利用して行なわれるスクーリング・集中講義などの科目もあります。なお、スクーリング科目に関する交通費などの費用は各自負担となります。

◎社会貢献活動支援士課程に関する科目

	本学の授業科目名	単位	履修年次	授業形態	履修方法
基礎教育科目	モノの見方・考え方	2	1年以上	週間授業	20単位以上 (10科目以上) 選択し修得
	ボランティアを学ぶ	2	1年以上	週間授業	
	実践的防災を学ぶ	2	1年以上	週間授業	
学科・資格教育課程科目	災害と社会	2	1年以上	週間授業	
	情報と社会	2	1年以上	週間授業	
	レクリエーション理論	2	1年以上	週間授業	
	児童・家庭福祉	2	1年以上	週間授業	
	高齢者福祉	2	1年以上	週間授業	
	障害者福祉	2	1年以上	週間授業	
	地域福祉と包括的支援体制A	2	2年以上	週間授業	
地域福祉と包括的支援体制B	2	2年以上	週間授業		

本学の授業科目名		単位	履修年次	授業形態	履修方法
学科・資格教育課程科目	国際福祉論	2	2年以上	週間授業	20単位以上 (10科目以上) 選択し修得
	社会貢献論	2	2年以上	週間授業	
	非営利組織論	2	2年以上	週間授業	
	ファーストエイド	2	1年以上	週間授業	
	ボランティア活動論	2	2年以上	週間授業	
	人間関係論	2	2年以上	週間授業	
	災害復興支援論	2	2年以上	週間授業	
	原子力災害論	2	2年以上	週間授業	
	生活支援工学 I	2	2年以上	週間授業	
	ユニバーサルデザインのまちづくり	2	2年以上	週間授業	
	国際協力論	2	3年以上	週間授業	
	人的資源管理論	2	3年以上	週間授業	
※その他の科目	社会貢献学入門	2	1年以上	遠隔講義（他大学を含むオムニバス講義）	4単位以上 (2科目以上) 選択し修得
	災害復興論	2	3年以上	遠隔講義（他大学授業）	
	地域の安全	2	3年以上	遠隔講義（他大学授業）	
	建築の安全	2	3年以上	遠隔講義（他大学授業）	
	福祉ボランティア活動	2	1年以上	実習	

※ 授業開始時間と終了時間が本学の授業時間と異なる科目が含まれます。詳細はガイダンスで確認してください。

<問い合わせ部署>

生涯学習ボランティア支援課

電話：022-717-3321

E-Mail：volunt@tfu.ac.jp

(5) 健康運動実践指導者課程

(公財)健康・体力づくり事業財団が認定する資格で、健康づくりを目的として作成された運動プログラムにもとづいて、その人の健康状態、技術水準、体力レベルに応じ、エアロビックエクササイズ、ストレッチ等の補強運動を実際に指導する者としています。取得を希望する学生は、次表に沿って履修・修得することによって、資格認定試験を受験することができます。

◎健康運動実践指導者課程に関する科目

養成講習会科目名称	本学の授業科目名	単位数		履修年次	履修方法
		必修	選択		
健康づくり施策概論	成人保健	2		2年以上	必修16単位
運動障害と予防・救急処置	運動障害と予防・救急処置	1		2年以上	
運動生理学	身体運動科学	2		2年以上	
機能的解剖とバイオメカニクス	身体運動科学演習	1		2年以上	
体力測定と評価	身体活動と健康	2		1年以上	
運動指導の心理学的基礎	健康運動指導論	2		2年以上	
健康づくりと運動プログラム	健康・スポーツ栄養学	2		2年以上	
栄養摂取と運動	健康運動の理論と実践Ⅰ (ウォーキング、ジョギング)	1		2年以上	
健康づくり運動の実際	健康運動の理論と実践Ⅱ (ストレッチング、レジスタンス運動)	1		2年以上	

(次頁へ続く)

健康づくり運動の実際	健康運動の理論と実践Ⅲ (エアロビックエクササイズ、体操)	1		2年以上	必修16単位
	健康運動の理論と実践Ⅳ (アクアエクササイズ)	1		2年以上	
補助科目	健康運動指導実習	4		2年以上	必修4単位

■ 履修方法

- ① 健康運動実践指導者に関する科目を計画的に履修・修得してください。
 - ② 「健康運動の理論と実践Ⅳ（アクアエクササイズ）」については、学外施設（プール）使用料を別途徴収します。詳細については履修登録後のガイダンスで説明します。
 - ③ 「健康運動実践指導者認定試験」に関する手続き申請は、所定の単位をすべて履修・修得できることを前提として行うことができます。
 - ④ 「同認定試験」を受験予定の学年の4月に、「健康運動実践指導者テキスト」（別途徴収）の購入申請をしてください。その後、9月に「健康運動実践指導者認定試験」（受験料：26,400円）の申請申し込みを行います。
- ※ 前期成績発表から申請申し込み締め切りまで期日がありませんので、単位修得年度に申請する場合は注意してください。
- ※ 申し込み後の受験料の返金はできません。
- ⑤ 所定の単位を履修・修得し、（公財）健康・体力づくり事業財団が実施する「健康運動実践指導者認定試験」を受験し「合格」した場合、登録申請を行うことで、資格を得ることができます。

■ 試験について

「健康運動実践指導者認定試験」は、指導実技試験と筆記試験が実施されます。

- ① 指導実技試験（「陸上運動」と「水中運動」のいずれかを選択）：11～12月を予定

【陸上運動】

- ・レジスタンス運動（自重負荷法）の課題運動5種類のうち2種類を実演指導（2分以内）
- ・有酸素性運動（エアロビックダンス）の規定ルーティンの実演指導（3分以内）

【水中運動】

- ・水中レジスタンス運動の課題運動5種類のうち2種類を実演指導（2分以内）
- ・有酸素性運動（水中ウォーキング）の実演指導（3分以内）

- ② 筆記試験：12～2月の期間で実施

CBT (Computer Based Testing) 方式により、受験者が個別に試験日、会場を予約して受験します。

- ③ 合否通知

試験結果は、3月中旬頃に（公財）健康・体力づくり事業財団から受験者本人へ通知されます。（受験申込時の現住所を3月末日以降変更される場合は、変更後の住所を大学「教務課」と財団へ必ず連絡してください。）

（公財）健康・体力づくり事業団：03-6430-9113

■ 資格登録について

- ① 合格者には、（公財）健康・体力づくり事業財団の健康運動実践指導者台帳への登録資格が与えられます。
- ② 初回登録料は22,000円（税込）で、5年ごとの資格更新が必要です。
- ③ 登録者には、健康運動実践指導者の名称の使用が許可されます。

※ 上記は令和8年度の予定です。手続き申請、受験方法、経費等が変更となった場合、UNIPAにて連絡します。

数理・データサイエンス AI教育プログラム認定制度



数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）

Society5.0時代に伴う第4次産業革命と呼ばれる現代社会において、数理・データサイエンス・AIの果たす役割が大きくなっており、あらゆる分野において必要不可欠な社会基盤として定着しつつあります。

本学では、Society5.0時代において活躍する人材を養成するため、数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な知識・スキルを育成するための教育プログラム（リテラシーレベル）を設定し、文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の認定を受けています。

本教育プログラムでは、統計的な思考や解析ツールを用いて、実際のデータを論理的に分析・解釈する能力やプログラミングスキルを養います。履修定員は設けません。

本教育プログラムの開講科目はすべて本学の基盤教育科目のため、修得した単位は卒業単位数に加算し、修了者には学生本人の申請により修了証を発行します。

（1）履修方法

本教育プログラムの修了をめざす学生は、以下のとおり履修を進めてください。

- ① 履修を希望する年度に、本教育プログラムに関する3科目を履修登録すること。
※ 各科目の履修登録は、同一年度でなくてもよい。
- ② 本教育プログラムに関する3科目すべての単位を修得すること。

（2）本教育プログラムに関する開講科目（基盤教育科目 p.36参照）

開講科目名	単位	履修年次	履修方法
AIの基礎	2	1年以上	必修6単位
情報の科学	2	1年以上	
統計情報を見る眼	2	1年以上	

（3）申請方法

本教育プログラムの修了証を希望する学生は、以下のとおり手続きしてください。

- ① 修了証を申請できる学生は、卒業年度に本教育プログラムに関する3科目を単位修得しているまたは単位修得の見込みであることが必要です。
- ② 卒業年度の12月1日～20日までに申請書を教務課に提出してください。
※ 申請書は、UNIPAの「各種資料ダウンロードサイト」からダウンロードしてください。
※ 卒業年度2月の成績発表において当該教育プログラムに関する3科目のうち、1つでも不合格となった場合は、修了証が発行できません。卒業できなかった場合も同様です。
- ③ 卒業式当日、申請のあった学生に卒業証書とともに無料で修了証を配付します。再発行が必要な場合は、有料（手数料200円）となります。卒業後の証明書発行と同様の手続きとなりますので、本学HPをご参照ください。

仏教専修科



仏教専修科

I. 仏教専修科の設置と目的

- 曹洞宗教育規程に基づき設置されており、本学の各学部にて在学する本宗寺院の子弟が在籍できます。
- 宗門の教師として、以下のことを習得させることを目的とします。
 - 宗乗・余乗の知識
 - 本宗僧侶としての使命の自覚
 - 宗門の行持・威儀・作法

東北福祉大学
仏教専修科



II. 資格取得

仏教専修科に在籍し、指定の学科目を履修・単位修得し、宗制による特殊安居を3回以上了じること
で、二等教師の補任の資格を得ることができます。
特殊安居を了じない場合は、本山僧堂等において6ヵ月以上安居することが必要となります。

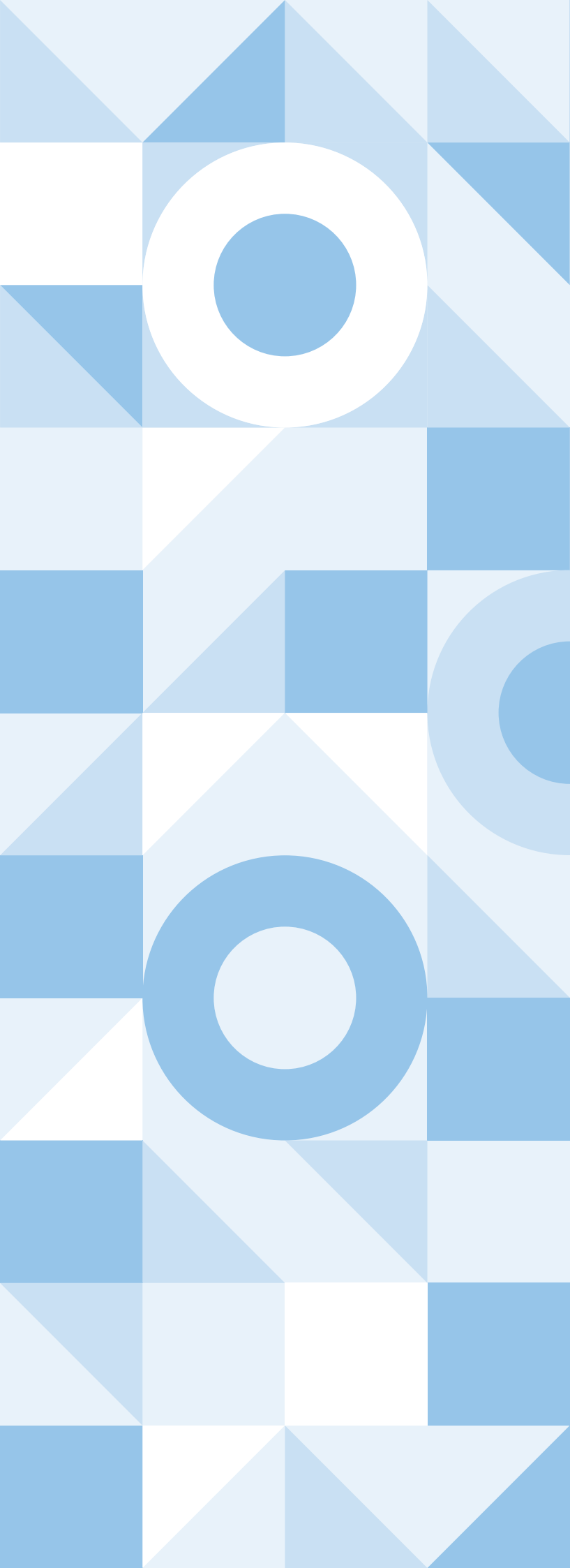
III. 履修科目・単位数

本学在学中に以下の全ての学科目を履修し、単位を修得しなければなりません。

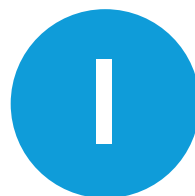
科目名	種別	単位数	履修年次	科目名	種別	単位数	履修年次	計
仏教概論	講義	4	1年	仏教史	講義	4	1年	40単位
禅学概論	講義	4	2年	経論講読	講義	4	2年	
中国禅宗史	講義	4	3年	宗義概説	講義	4	3年	
日本禅宗史	講義	4	4年	宗典講読	講義	4	4年	
参禅	実技	2	1～4年	法式声明	実技	2	1～4年	
布教	実技	2	1～4年	教化	実技	2	1～4年	

IV. 年間活動

月	行事	内容
4月	開講式	この日から仏教専修科の年度が始まります。
5月	降誕会	三仏忌の一つとして福祉大新入生全員が参加します。仏教専修科教職員と学生が行持を執り行います。
8月	施食会法要（お盆供養）	8月第1週に、仏教専修科の社会活動の一環として、東北福祉大関連施設にてお盆供養を営みます。学生はこの準備として施食法要の習儀（ならし）、特に大悲心陀羅尼、甘露門の読誦に励みます。
9月	両祖忌	道元禅師と瑩山禅師の忌日の法要です。道元禅師のご命日は建長5年8月28日、瑩山禅師のご命日は正中2年8月15日ですが、太陽暦ではどちらも9月29日となります。そこでこの日を両祖忌としています。
10月	達磨忌	震旦初祖達磨大師のご命日の法要です。
12月	臘八接心	成道会を前にして、坐禅堂にて3日間の摂心を行います。坐禅堂での進退、食事作法も学びます。
	成道会	12月8日は成道会です。本師釈迦牟尼仏の成道を記念する法要です。
2月	涅槃会	涅槃会の夜は、卒業と上山を控えた先輩達の壮行会になります。
3月	東日本大震災慰霊法要	東日本大震災犠牲者追悼法要を行います。



就職試験対策講座等



就職関連講座等

1. 就職試験対策講座

就職試験対策講座は、公務員試験や民間企業で課される筆記試験（テストセンターやWeb試験）で高得点を狙う学生を対象に実施する講座であり、基礎的内容から学習することができます。特に、公務員試験においては頻出度の高い問題を中心に扱うことで、効率的に早期（1年生）から合格を目指すことができます。

	講座名
1	就職試験対策講座・SPI（非言語）
2	就職試験対策講座・文章理解
3	就職試験対策講座・英語
4	就職試験対策講座・数的推理
5	就職試験対策講座・判断推理
6	就職試験対策講座・社会科学（法律・政治・思想）
7	就職試験対策講座・社会科学（経済）
8	就職試験対策講座・憲法
9	就職試験対策講座・行政法
10	就職試験対策講座・民法（基礎）
11	就職試験対策講座・民法（応用）
12	就職試験対策講座・ミクロ経済学
13	就職試験対策講座・マクロ経済学
14	就職試験対策講座・財政学
15	就職試験対策講座・政治学
16	就職試験対策講座・行政学
17	就職試験対策講座・国際関係
18	就職試験対策講座・過去問演習

※公務員試験の変更等により、開講される科目が一部変更になる場合があります。

【講座に関するお問合せ】

キャリアセンター

T E L : 022-717-3316

F A X : 022-717-3336

E-Mail : syusyoku@tfu.ac.jp

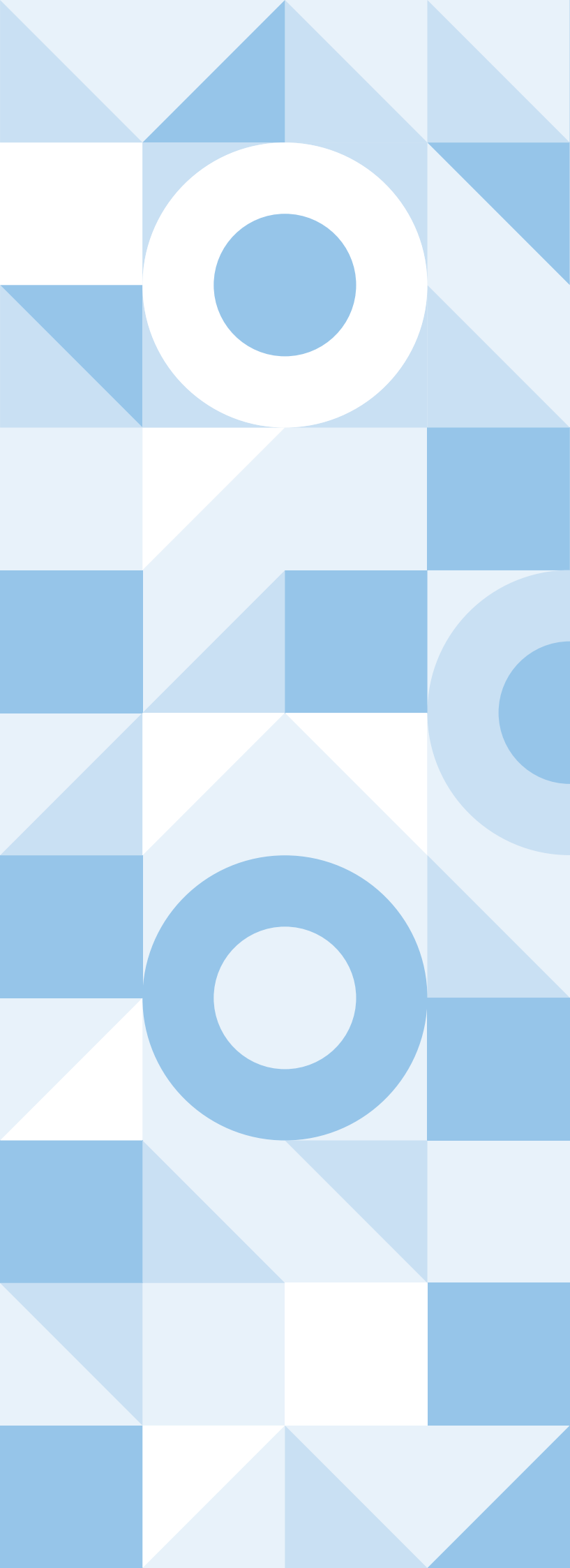
キャリアセンター



2. ITパスポート

ITパスポートは、ITに関する基礎的な知識が証明できる経済産業省認定の国家資格で、IT系の国家試験では入門レベルといえます。受験資格は特にありませんので、外部で行われる試験に合格することで資格取得が可能です。

資格を取得できれば、履歴書やエントリーシートにも記載できるため、就職活動の場面でも活かせる資格です。



各種制度



本学で提供している各種制度についての詳細は、各QRコード、UNIPAを参照してください。

1 学都仙台単位互換ネットワーク

仙台圏の協定締結校23校で提供される授業科目を履修し修得した単位が、単年度内10単位を限度として本学の単位として認定される制度です。

学都仙台
単位互換ネットワーク



2 学内単位互換

本学通信教育部の授業科目を履修し、単位の修得を希望する通学の学生は、単年度内10単位を限度として、「学内単位互換」制度を利用することができます。詳しくは、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程を参照してください。

3 海外留学

交換留学（本学と外国の大学等の相互交流の協定に基づくもの）・認定留学（外国の大学等で正規の授業を受けるか研究に従事するもの）において修得した単位は、所定の手続きを行った場合に限り、所定の単位を上限として本学の単位として認定されます。

海外留学については、学生支援センター学生支援課の「国際交流」にお問い合わせください。詳しくは、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程を参照してください。

4 卒業延期制度

卒業の要件を満たしている学生が引き続き在学することを希望する場合に、卒業を延期し、引き続き在学することを認める制度です（p.31参照）。

5 長期履修学生制度

学生が就労、家事、育児、介護、地域貢献等の事情により標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する場合、その計画的な履修を認めています。

例) 1週間のうち3日は就労し、3日は大学で授業を受け、5年計画で卒業する

長期履修学生制度



6 科目等履修生・聴講生・研究生・外国人留学生

(1) 科目等履修生

卒業後、本学で開講されている授業科目のうち、必要な科目のみを履修・単位修得できる制度です。詳しくは、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程を参照してください。

(2) 聴講生

卒業後、本学で開講されている講義科目を、1年につき20単位まで聴講することができます。成績評価、単位認定はされません。詳しくは、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程を参照してください。

(3) 研究生

卒業後、本学の学部または大学院の教員を指導教員として、特定の専門分野についての研究を行うことができます。詳しくは、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程を参照してください。

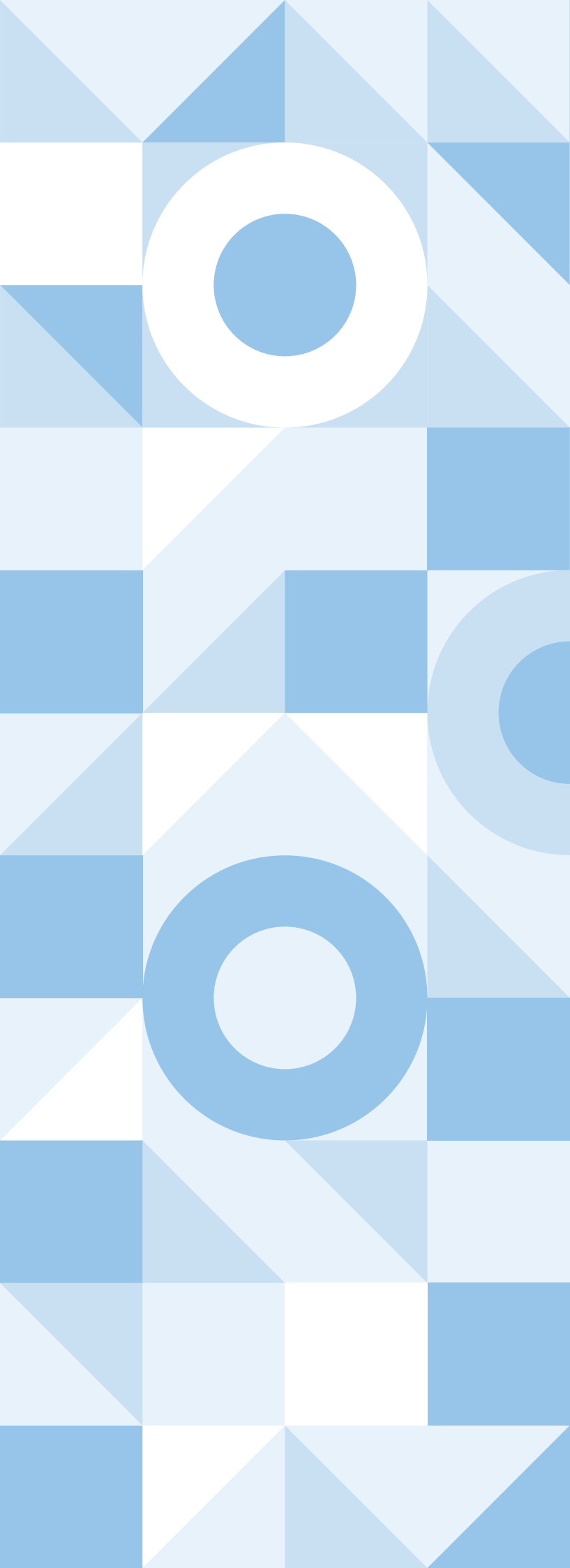
(4) 外国人留学生

外国人留学生・交換留学生の在留手続き等については、学生支援センター学生支援課の「国際交流」にお問い合わせください。詳しくは、UNIPAの「各種資料ダウンロード」にて当該規程を参照してください。

学生支援センター 国際交流

Student Support Division International Affairs Section

住所	〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1 1-8-1 Kunimi Aoba-ku Sendai-shi Miyagi, Japan 9818522
電話	022-301-1296
FAX	022-301-0606
E-Mail	kokusai@tfu.ac.jp



よくある質問



よくある質問

Q. 大学からの連絡はどのように確認することができますか？

A. 学生の皆さんへの連絡は、原則としてUNIPAや大学ホームページに掲載します。一度掲示したものは、本人の確認の有無に関わらず周知されたものとして取り扱いますので、一日一回は確認するようにしてください。

電話、メール（tfuメール）でお知らせする場合がありますので、便覧の「窓口一覧・証明書発行」に記載の各部署の電話番号を登録しておくようにしましょう。

Q. 授業の教室はどうすればわかりますか？

A. 自分が履修登録している授業科目は、UNIPAの「学生時間割」に記載があります。履修科目以外は、シラバスで確認することができます。ただし、教室が変更になることがありますので、UNIPAで確認してから教室移動をしてください。急な教室変更がある場合もUNIPAでお知らせします。

教室の場所については、学生便覧で確認することができます。

Q. 休講や補講の情報はどのように確認することができますか？

A. 休講情報は、ゼミや講義内でのアナウンスのほか、UNIPAでお知らせします。担当教員がやむを得ない理由で休講する場合は、オンデマンド授業の受講が必要になります。UNIPAで掲示されますので、担当教員の指示により忘れずに受講してください。全学休講の場合は、授業予備日に補講を実施します。

Q. 授業担当の先生には、どのように連絡を取ることができますか？

A. 授業担当教員への連絡方法は、以下のいずれかになります。

- ① 授業の開始前、終了後に教室で行う
- ② UNIPAのクラスプロフィールから、各授業の担当教員宛に「授業Q & A登録」を通して連絡する。
- ③ 各教員の研究室を訪問する。（研究室一覧は、教務課窓口に掲示しています。）

※非常勤教員には研究室がありませんので、授業Q & Aから連絡してください。

※教員の連絡先の開示、電話・メール等による担当教員への取次ぎは行いませんので予めご了承ください。

Q. 授業中に先生が板書したものや、スクリーンやモニターに表示された資料の記録が追いつきません。撮影や録画をして後で復習をしたいのですが、可能ですか？

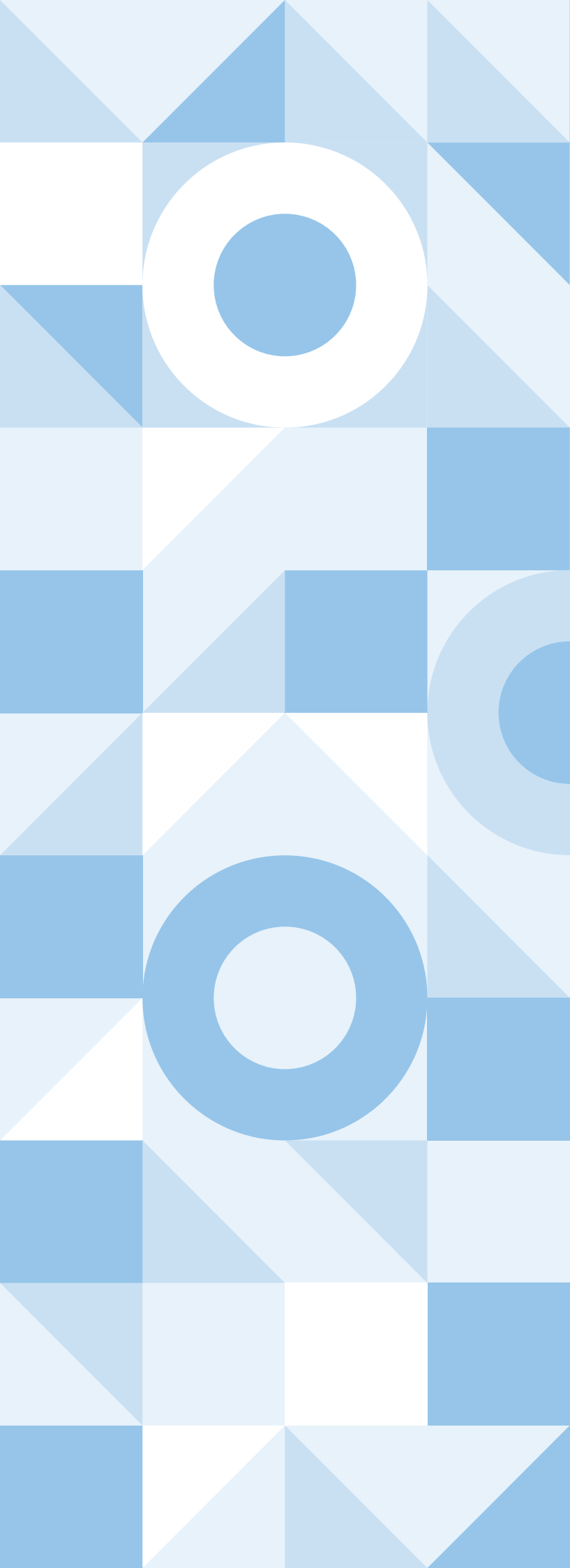
A. 授業中の撮影・録画・録音は、著作権の保護、他の受講生の学修への影響、教員・他の受講生のプライバシーや肖像権の保護の観点から、原則として禁止です。

担当教員から撮影の指示があった場合等は、この限りではありませんが、SNS等にアップする等公開は禁止です。

■ 上記以外に、大学ホームページの各学科ページによくある質問をまとめています。

東北福祉大学
ホームページ





学則・関係諸規程一覽

第1章 総則

第1節 目的、使命及び自己評価等

(目的、使命)

第1条 東北福祉大学は学校教育法に基づき、建学の精神に則り広く学術理論と応用を教授・研究して、高潔な人格と豊かな教養を培い、福祉社会を担う有為な人材を養成することを目的とし、もって人類の幸福の追求と国際社会並びに地域社会の発展に貢献することを使命とする。

(自己評価等)

第2条 前条の目的及び使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検及び評価に関する規程は、別に定める。

第2節 組織及び収容定員

(学部等連係課程)

第3条 本学に、総合福祉学部、共生まちづくり学部、教育学部及び健康科学部を置く。

2 本学に大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)に定める学部等連係課程実施基本組織として、応用福祉学連係教育課程を置く。

3 本学の学生定員(通信教育部を除く。)は、次のとおりとする。なお、専攻・コース及びその教育課程は別に定める。

学部等	学 科 名	入学定員	収容定員
総合福祉学部	社会福祉学科	400名 【50名】	1,600名 【200名】
	福祉心理学科	150名	600名
	福祉行政学科	100名	400名
	小 計	650名 【50名】	2,600名 【200名】
共生まちづくり学部	共生まちづくり学科	120名 【20名】	480名 【80名】
	小 計	120名 【20名】	480名 【80名】
教育学部	教育学科	250名	1,000名
	初等教育専攻	(200名)	(800名)
	中等教育専攻	(50名)	(200名)
	小 計	250名	1,000名
健康科学部	保健看護学科	120名	480名
	リハビリテーション学科	80名	320名
	理学療法学専攻	(40名)	(160名)
	作業療法学専攻	(40名)	(160名)

学部等	学 科 名	入学定員	収容定員
健康科学部	医療経営管理学科	80名 【10名】	320名 【40名】
	小 計	280名【10名】	1,120名 【40名】
応用福祉学連係教育課程		【80名】	【320名】
総 計		1,300名	5,200名

備考 応用福祉学連係教育課程の入学定員及び収容定員は、総合福祉学部社会福祉学科、共生まちづくり学部共生まちづくり学科及び健康科学部医療経営管理学科の定員の内数とし、【 】は、各学科に係る内数を示す。

- 4 学部学科の教育研究上の目的は、別添1のとおりとする。
- 5 第一項の総合福祉学部に通信教育部を置く。通信教育部に置く学科及び収容定員は次のとおりとする。

学科名	入学定員	収容定員
社会福祉学科	600名	2,400名
福祉心理学科	200名	800名
計	800名	3,200名

- 6 通信教育部の学則は別に定める。

(大学院)

第4条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する学則は別に定める。

(附属研究所・センター等)

第5条 本学に次の研究所及びセンターを置く。

感性福祉研究所 仏教文化研究所
高等教育推進センター

2 研究所及びセンターの組織・運営等に関する規程は別に定める。

(図書館・美術工芸館)

第6条 本学に図書館及び美術工芸館を置く。

2 図書館及び美術工芸館の組織・運営等に関する規程は別に定める。

(せんだんホスピタル)

第7条 本学にせんだんホスピタルを置く。

2 せんだんホスピタルの組織・運営等に関する規程は別に定める。

(事務局)

第8条 本学に事務局を置く。

2 事務局の組織・運営等に関する規程は別に定める。

第3節 教職員

(教職員)

第9条 本学に次の教職員を置く。

学長、副学長、学部長、図書館長、美術工芸館長、病院長、学科長、課程長、所長、センター長、教授、准教授、講師、助教

局長、部長、部長代行、副部長、副センター長、室長、副館長、次長、課長、課長補佐、係長、主任、事務員、司書、学芸員、助手、その他必要な職員

(人事委員会)

第10条 本学の専任教員の任免及び昇任又は降任の選考に関し、学長の諮問に応ずるため人事委員会を置く。

2 人事委員会に関する規程は別に定める。

(名誉教授)

第10条の2 本学に功労があり、学術上功績のある者に対して人事委員会の推薦により名誉教授の称号を贈ることができる。

2 名誉教授の称号授与に関する規程は別に定める。

第4節 教授会

(教授会)

第11条 本学に教授会を置く。

2 教授会は、学長、副学長、総務局長、学部長、学科長、課程長、専任の教授及び専任の准教授をもって組織する。ただし、退職者及び教授会決議によって出席の停止を命じられた者を除く。

(招集者)

第12条 教授会は学長が招集する。

(審議事項)

第13条 教授会は次の事項について審議し、学長が決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること。
 - (2) 学位の授与に関すること。
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を参酌して学長が定めたもの。
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下、学長等という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 3 この学則に定めるものの他、教授会に関し必要な事項は別に定める。

第5節 学年、授業期間、学期及び休業日

(学年・授業期間)

第14条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 毎学年の授業期間は、35週を原則とする。

(学期)

第15条 学年を分けて次のとおりとする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

第16条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 春季休業
- (4) 夏季休業
- (5) 冬季休業

2 必要がある場合、学長は前項の休業日を臨時に変更し、あるいは前項に定めるものの他に臨時休業日を定めることができる。

第2章 学部通則

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第17条 各学部の修業年限は4年とする。

(早期卒業)

第17条の2 前条の規定にかかわらず、本学に3年以上在学し、第46条に定める要件に該当する場合には、卒業を認めることができる。

(長期履修学生)

第17条の3 前条の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する学生（以下「長期履修学生」という。）がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。ただし、第18条に定める最長在学年限を超えることはできない。

2 長期履修学生に関し、必要な事項は別に定める。

(在学年限)

第18条 学生は8年を越えて在学することはできない。ただし、第26条第1項の第1号・第2号・第3号・第4号・第5号の規定により入学した学生は第29条により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を越えて在学することはできない。

第2節 入学

(入学時期)

第19条 入学の時期は学年の始めとする。ただし、転入学、編入学、再入学については、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第20条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 高等学校、又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、大学における

- 教育を受けるにふさわしい学力があると認めたと
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者。又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - (4) 文部科学大臣の指定した者
 - (5) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
 - (6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (7) 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたと者で18才に達した者

(入学の出願)

第21条 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

(入学者の選考)

第22条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

- 第23条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに保証人連署の「誓約書、保証書、同意書」その他所定の書類を提出するとともに、所定の諸納金を納付しなければならない。
- 2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(保証人)

- 第24条 保証人は、その保証する学生の在学中本人が負担する学費につき、保証書記載額を限度に責任を負うことのできる者で、保証人は1名とし、独立生計者とする。
- 2 保証人が死亡、その他の理由により、その責を負うことができないときは新たに保証人を定めなおして身上変更届及び証明書類を提出しなければならない。
 - 3 この学則に定めるものの他、保証人に関する必要な事項は、保証人に関する取扱規程を準用する。

(改姓等)

第25条 学生又は保証人が改姓・改名・転籍・転居をしたときは、ただちに証明書類を添えてその旨を届け出なければならない。

(編入学・転入学)

第26条 次の各号の一に該当する者で、総合福祉学部、共生まちづくり学部、教育学部及び健康科学部医療経営管理学科への入学を志願する者があるときは、いずれも欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入學を許可することができる。

- (1) 学士の学位を有する者

- (2) 修業年限4年以上の大学に1年以上在學し、所定の単位を修得した者
- (3) 短期大学を卒業した者、又は高等専門学校を卒業した者
- (4) 学校教育法施行規則（附則）第7条に定める従前の規定による高等学校・専門学校、又は教員養成諸学校等の課程を修了し又は卒業した者
- (5) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たす課程を修了した者

(再入学)

第27条 本学に1年以上在學し依願退學した者で、同じ学科に再入学を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、再入学を許可することができる。

(転学部・転学科・転籍)

第28条 転学部・転学科・転籍を希望する者は1年次若しくは2年次終了時、いずれも欠員のある場合に限り、選考の上、許可することができる。

(編入学・転入学・再入学・転学部・転学科・転籍者・移行の授業科目及び単位数の取扱い)

- 第29条 編入学・転入学・再入学の規定により入学を許可された者及び転学部・転学科・転籍を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在學すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。
- 2 社会福祉学科・共生まちづくり学科・医療経営管理学科に在籍する学生は、2年次進級時に、応用福祉学連係教育課程に移行することができる。

第3節 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

- 第30条 本学に開設する授業科目は、その内容により基盤教育科目・全学実践科目・学科教育課程及び資格教育課程とする。
- 2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。なお、これらの授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。また、当該授業を実施する科目は、履修規程において定める。
 - 3 授業科目及び単位数は次のとおりである。
 - (1) 基盤教育科目（総合福祉学部、共生まちづくり学部、教育学部、健康科学部、応用福祉学連係教育課程）（別表1）
 - (2) 全学実践科目（科目群）（別表2）
 - 1) グローバル化の推進（別表2-①）
 - 2) ボランティア支援（別表2-②）
 - 3) 就職支援（別表2-③）

- 4) ICT支援 (別表2-④)
- (3) 学科教育課程
- 1) 総合福祉学部社会福祉学科 (別表3)
 - 2) 総合福祉学部福祉心理学科 (別表4)
 - 3) 総合福祉学部福祉行政学科 (別表5)
 - 4) 共生まちづくり学部共生まちづくり学科 (別表6)
 - 5) 教育学部教育学科 (別表7)
 - ① 初等教育専攻 (別表7-①)
 - ② 中等教育専攻 (別表7-②)
 - 6) 健康科学部保健看護学科 (別表8)
 - 7) 健康科学部リハビリテーション学科
 - ① 理学療法学専攻 (別表9-①)
 - ② 作業療法学専攻 (別表9-②)
 - 8) 健康科学部医療経営管理学科 (別表10)
 - 9) 応用福祉学連係教育課程 (別表11)
- (4) 多職種連携領域 (総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部・応用福祉学連係教育課程) (別表12)
- (5) 社会福祉士国家試験受験資格に関する指定科目 (総合福祉学部) (別表13)
- (6) 社会福祉士国家試験受験資格に関する基礎科目 (総合福祉学部) (別表14)
- (7) 精神保健福祉士国家試験受験資格に関する指定科目 (総合福祉学部) (別表15)
- (8) 精神保健福祉士国家試験受験資格に関する基礎科目 (総合福祉学部) (別表16)
- (9) 保育士資格に関する科目 (総合福祉学部社会福祉学科) (別表17)
- (10) 保育士資格に関する科目 (教育学部教育学科初等教育専攻) (別表18)
- (11) 介護福祉士国家試験受験資格に関する科目 (総合福祉学部社会福祉学科) (別表19)
- (12) 教育職員免許状に関する科目
- 1) 総合福祉学部
 - (ア) 高等学校教諭一種免許状 (福祉) に関する教育課程 (社会福祉学科) (別表20)
 - (イ) 養護教諭一種免許状に関する教育課程 (福祉心理学科) (別表21)
 - 2) 教育学部教育学科
 - (ア) 幼稚園教諭一種免許状に関する教育課程 (初等教育専攻) (別表22)
 - (イ) 小学校教諭一種免許状に関する教育課程 (初等教育専攻) (別表23)
 - (ウ) 中学校教諭一種免許状 (社会) に関する教育課程 (中等教育専攻) (別表24)
 - (工) 高等学校教諭一種免許状 (地理歴史) に関する教育課程 (中等教育専攻) (別表25)
 - (才) 高等学校教諭一種免許状 (公民) に関する教育課程 (中等教育専攻) (別表26)
- (カ) 中学校教諭一種免許状 (英語) に関する教育課程 (中等教育専攻) (別表27)
- (キ) 高等学校教諭一種免許状 (英語) に関する教育課程 (中等教育専攻) (別表28)
- (ク) 特別支援学校教諭一種免許状に関する教育課程 (幼保コースを除く。) (別表29)
- (13) 司書教諭資格に関する科目 (総合福祉学部社会福祉学科・教育学部教育学科 (幼保コースを除く。)) (別表30)
- (14) 司書資格に関する専門科目 (総合福祉学部・教育学部教育学科中等教育専攻・健康科学部医療経営管理学科) (別表31)
- (15) 社会福祉主事任用資格に関する科目 (総合福祉学部・共生まちづくり学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程) (別表32)
- (16) 身体障害者福祉司任用資格に関する科目 (総合福祉学部・共生まちづくり学部・応用福祉学連係教育課程) (別表33)
- (17) 公認心理師資格に関する科目 (総合福祉学部福祉心理学科) (別表34)
- (18) (公財) 日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者資格 (総合福祉学部・共生まちづくり学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程)
 - (ア) 初級パラスポーツ指導員資格に関する科目 (別表35)
 - (イ) 中級パラスポーツ指導員資格に関する科目 (別表36)
- (19) 介護職員初任者研修の課程に関する科目 (総合福祉学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程) (別表37)
- (20) レクリエーション・インストラクター資格に関する科目 (総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程) (別表38)
- (21) 福祉用具専門相談員に関する科目 (総合福祉学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程) (別表39)
- (22) 臨床美術課程に関する科目 (総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程) (別表40)
- (23) 社会貢献活動支援士課程に関する科目 (総合福祉学部・共生まちづくり学部・応用福祉学連係教育課程) (別表41)

- (24) デジタルコンテンツアセッサ課程に関する科目（総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程）
（別表42）
- (25) 救急救命士国家試験受験資格に関する科目（健康科学部医療経営管理学科）
（別表43）
- (26) スクールソーシャルワーク教育課程に関する科目（総合福祉学部社会福祉学科）
（別表44）
- (27) 健康運動実践指導者課程に関する科目（応用福祉学連係教育課程）
（別表45）
- (28) 診療情報管理士課程に関する科目（健康科学部医療経営管理学科）
（別表46）
- (29) 保健師国家試験受験資格に関する科目（健康科学部保健看護学科）
（別表47）
- (30) 助産師国家試験受験資格に関する科目（健康科学部保健看護学科）
（別表48）

(3) 学科教育課程

各学部学科の履修単位数は以下のとおりである。なお、各専攻・コースの教育課程は別に定める。

（履修方法）

第31条 本学を卒業するためには、その区分に従い、124単位以上（ただし、健康科学部保健看護学科は125単位以上、リハビリテーション学科作業療法学専攻は126単位以上）を修得しなければならない。

（1）基盤教育科目

必修とする履修単位数は以下のとおりである。

科目区分	建学の精神を知る科目	自分自身を考える科目	多様性を考える科目		自他の調和を考える科目	計
	TFU科目	自己管理能力（セルフマネジメント）	思考・判断力	表現力	社会力	
履修単位数	7	2	1 (3)	4	2	16 (18)

※ただし、それぞれの超過した単位も卒業単位に加算する。

※（ ）内は健康科学部保健看護学科

（2）全学実践科目（科目群）

基盤教育科目に付随して、各分野の学修を深めることを目的として学修する。その履修は、相当する基盤教育科目を同時履修又は学修後とする（別表2）。

分野	基盤教育科目	付随する科目群
グローバル化の推進に関する科目	英語Ⅰ・Ⅱ、実用英語、第二外国語Ⅰ・Ⅱ（中国語/韓国語）	グローバル・スタディ科目
ボランティア支援に関する科目	ボランティアを学ぶ 実践的防災を学ぶ	ボランティア・スタディ科目
就職支援に関する科目	リエゾンゼミⅠ キャリアデザイン	キャリア・スタディ科目
ICTに関する科目	AIの基礎 情報の科学 統計情報を見る眼	ICT・スタディ科目

学部名	学科名	科目区分							
		必修		選択		必修		選択	
総合福祉学部	社会福祉学科	人と社会の相互作用を理解する科目		対象・問題を俯瞰的に分析する科目		倫理実践力を培う科目		開発・創造力を培う科目	
		人と社会の理解力		俯瞰的な分析力		論理実践力		開発・創造力	
		8	16	6	28	4	24	6	25
	福祉心理学科	人間理解力を培う科目		実証的分析力を培う科目		主体的協働力を培う科目			
		人間理解力		実証的分析力		主体的協働力			
	6	68	10	12	6	39			
福祉行政学科	潜在的な社会問題を発見する科目		社会的問題のリスクを発信する科目		官民協働による問題解決を模索する科目				
	課題発見力		発信力		問題解決力				
10	32	10	24	4	32				
共生まちづくり学部	共生まちづくり学科	経済社会のしくみを学ぶ科目		社会の課題を学ぶ科目		総合的な解決の可能性を学ぶ科目		理論的な課題分析力を養う科目	
		基礎理解力		課題発見力		総合的理解力		課題分析力	
		4	14	2	14	6	8	0	24
		地域実践の方法論を学ぶ科目		観光・文化的解決視点を養う科目		課題解決の実践力を磨く科目			
		課題挑戦力		総合的解決力		実践力			
0	26	0	22	12	4				
教育学部	教育学科	人と人との関係を理解する科目		人と人との共生を学ぶ科目		人と人をつなぐ方法を学ぶ科目			
		共感的理解力		本質を探究する力		実践的問題解決力			
	4	24	10	24	10	18			
	初等教育専攻	人と人との関係を理解する科目		人と人との共生を学ぶ科目		人と人をつなぐ方法を学ぶ科目			
		共感的理解力		本質を探究する力		実践的問題解決力			
	4	24	10	24	10	18			
中等教育専攻	人と人との関係を理解する科目		人と人との共生を学ぶ科目		人と人をつなぐ方法を学ぶ科目				
	共感的理解力		本質を探究する力		実践的問題解決力				
4	24	10	24	10	18				
健康科学部	保健看護学科	看護の基礎を築く科目							
		学び続ける力		看護者として倫理を追求する力		看護とは何かを考える力		看護の対象を理解する力	
		8	2	8	4	11	2	30	9
		看護の実践力を高める科目							
	対象者中心の看護を探究する力		対象者中心の看護を実践する力		多様な場で協働する力				
	24	7	22	1	4	4			
	リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	リハビリテーションの基礎について学ぶ科目							
		理学療法を構築する科目		理学療法を構築する科目		理学療法を構築する科目		理学療法を構築する科目	
		人体の構造・機能・運動及び心身の発達を理解する力		疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を理解する力		リハビリテーションを理解する力		理学療法を探究する力	
		14	1	14	0	5	0	9	0
		マネジメントする力		対象者の状況を捉える力		理学療法の技術を実践する力		地域で理学療法実践する力	
		2	0	7	0	21	0	3	0
		理学療法を構築する科目		臨床現場での実践力を高める科目				リハビリテーション実践力を発展させる科目	
		多様な理学療法を実践する力		実践における知識・技術を活用する力		臨床現場で理学療法を実践する力		理学療法の実践力を発展させるための力	
	2	4	10	0	20	0	1	7	
	リハビリテーション学科 (作業療法専攻)	リハビリテーションの基礎について学ぶ科目							
		作業療法の実践力を高める科目		作業療法の実践力を高める科目		作業療法の実践力を高める科目		作業療法の実践力を高める科目	
		人体の構造・機能・運動及び心身の発達を理解する力		疾患と障害の成り立ちと回復促進過程を理解する力		リハビリテーションを理解する力		作業及び作業療法を理解する力	
13		2	14	0	5	0	7	1	
マネジメントする力		対象者の状況を幅広く捉える力		各実践領域で作業療法を実践する力		地域リハビリテーションを実践する力			
2		0	6	0	20	0	4	0	
作業療法の実践力を高める科目		臨床実践力を高める科目				リハビリテーション実践力を発展させる科目			
作業療法を探究する力		臨床の場で知識・技術・態度を活用する力		対象者の状況に応じて適切に作業療法を実践できる力		作業療法の実践力を発展させるための力			
4	5	10	0	25	0	0	8		
医療経営管理学科	健康を支える社会のしくみを学ぶ科目		身体・こころのしくみや身近な病気を理解する科目		数字に基づく分析力を養う科目		対応力を養う科目		
	課題発見力		健康理解力		数的分析力		危機管理能力		
	6	12	4	14	4	14	2	13	
	探求的に学ぶ姿勢と手法を養う科目								
生涯学習力									
6	4								
応用福祉学連係教育課程	異なる背景や立場を持つ人々との関係構築に資する科目		新たなアプローチやアイデアを開発・発信・共有する能力に資する科目		多様な主体との連携をコーディネートする能力を養う科目				
	共感力		発想力		コーディネート力				
6	28	4	26	8	38				

- (4) 資格教育課程
指定された学部では、各種資格の科目も卒業単位科目として履修ができる。
- (5) 実習科目
各種実習科目の履修条件及び方法に関しては、各学科が別に定める実習規程による。
- (6) 地域貢献関連資格科目
総合福祉学部・共生まちづくり学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程では、初級パラスポーツ指導員資格に関する必修科目及び中級パラスポーツ指導員資格に関する必修科目、総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程では、レクリエーション・インストラクター資格に関する必修科目として履修ができる。
- (7) 補助科目
資格教育課程において、当資格の指定科目以外に、学修を補助するために履修できる。
- (8) 多職種連携領域
社会において即戦力として活躍できる人材養成のため、連携科目を置く（別表12）。

(入学前の既修得単位等の認定)

- 第32条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に、大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、大学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目をわが国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目をわが国において履修する場合について準用する。
- 3 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学・転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

(単位互換派遣学生)

- 第33条 本学の学生で仙台圏単位互換協定を締結した他

の大学及び短期大学の授業科目を履修し単位を修得した場合は本学の単位互換科目として認定する。但し、放送大学の授業科目を履修し単位を修得した場合は、本学で修得したものとみなすことができる。

- 2 本学の学生で国内留学に関する単位互換協定又は学生交流協定を締結した他の大学及び短期大学の授業科目を履修し単位を修得した場合は、本学で修得したものとみなすことができる。
- 3 単位互換派遣学生の規程については、別に定める。

(教育職員免許状授与の所要資格の取得)

- 第34条 教育職員の普通免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要資格を修得しなければならない。
- 2 本学の学部・学科等において当該所要資格を取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりである。

学 部	学 科	教育職員免許状の種類（教科）
総合福祉学部	社会福祉学科	高等学校教諭一種免許状（福祉）
	福祉心理学科	養護教諭一種免許状
教育学部	初等教育専攻	幼稚園教諭一種免許状
		小学校教諭一種免許状
		特別支援学校教諭一種免許状
	中等教育専攻	中学校教諭一種免許状（社会）
		高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
		高等学校教諭一種免許状（公民）
		中学校教諭一種免許状（英語）
		高等学校教諭一種免許状（英語）
		特別支援学校教諭一種免許状

- 3 総合福祉学部社会福祉学科の学生で、高等学校教諭一種免許状（福祉）を得ようとする者は、別表20の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。
- 4 総合福祉学部福祉心理学科の学生で、養護教諭一種免許状を得ようとする者は、別表21の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。
- 5 教育学部教育学科（初等教育専攻）の学生で、幼稚園教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状を得ようとする者は、それぞれ別表22及び別表23の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。
- 6 教育学部教育学科（中等教育専攻）の学生で、中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、高等学校教諭一種免許状（公民）、中学校教諭一種免許状（英語）及び高等学校教諭一種免許状（英語）を得ようとする者は、それぞれ別表24、別表25、別表26、別表27、別表28の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。
- 7 教育学部教育学科（幼保コースを除く。）の学

生で、特別支援学校教諭一種免許状を得ようとするものは、別表29の教育課程における科目を修めて卒業しなければならない。

- 8 司書教諭の資格を得ようとする者は、教育職員免許法による小学校、中学校又は高等学校の教諭の普通免許状を取得し、学校図書館法第5条第4項並びに文部科学省令により本学が定める司書教諭に関する科目及び単位（別表30）を修得しなければならない。

（各種資格の取得）

第35条 総合福祉学部の学生で社会福祉士の国家試験受験資格を得ようとする者は、社会福祉士の指定科目（別表13）を修めて卒業しなければならない。

- 2 総合福祉学部の学生で社会福祉士の短期養成施設に入所する者は、社会福祉士の基礎科目（別表14）を修めて卒業しなければならない。
- 3 総合福祉学部の学生で精神保健福祉士の国家試験受験資格を得ようとする者は、精神保健福祉士の指定科目（別表15）を修めて卒業しなければならない。
- 4 総合福祉学部の学生で精神保健福祉士の短期養成施設に入所する者は、精神保健福祉士の基礎科目（別表16）を修めて卒業しなければならない。
- 5 保育士の資格（総合福祉学部社会福祉学科、教育学部教育学科初等教育専攻）を得ようとする者は、本学が定める保育士資格に関する専門科目及び単位（社会福祉学科は別表17、教育学科は別表18）を修得しなければならない。
- 6 総合福祉学部社会福祉学科の学生で介護福祉士の国家試験受験資格を得ようとする者は、別表19に定める科目及び単位数を修め卒業しなければならない。
- 7 総合福祉学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生で介護職員初任者研修修了の資格を得ようとする者は、本学が定める介護職員初任者研修の課程に関する科目及び単位（別表37）を3年次までに修得しなければならない。
- 8 総合福祉学部・教育学部教育学科中等教育専攻・健康科学部医療経営管理学科の学生で司書の資格を得ようとする者は、図書館法第5条第1項第1号により本学が定める司書資格に関する科目及び単位（別表31）を修得しなければならない。
- 9 総合福祉学部・共生まちづくり学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生で社会福祉主事の任用資格を得ようとする者は、社会福祉主事任用資格に関する科目（別表32）に定める科目を修めて卒業しなければならない。
- 10 総合福祉学部・共生まちづくり学部・応用福祉学連係教育課程の学生で身体障害者福祉司の任

用資格を得ようとする者は、身体障害者福祉司任用資格に関する科目（別表33）に定める科目を修めて卒業しなければならない。

- 11 総合福祉学部・応用福祉学連係教育課程の学生で知的障害者福祉司の任用資格を得ようとする者は、所定の科目を修得したうえで総合福祉学部・応用福祉学連係教育課程を卒業しなければならない。
- 12 総合福祉学部・教育学部・応用福祉学連係教育課程の学生で児童指導員の任用資格を得ようとする者は、総合福祉学部・教育学部・応用福祉学連係教育課程を卒業しなければならない。
- 13 総合福祉学部福祉心理学科の学生で公認心理師の国家試験受験資格を得ようとする者は、本学が定める公認心理師資格に関する科目及び単位（別表34）を修得し卒業後、公認心理師養成課程のある大学院等を修了する等しなければならない。
- 14 総合福祉学部・共生まちづくり学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生で（公財）日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者資格「初級パラスポーツ指導員」の資格を得ようとする者は、（別表35）に定める科目を修めなければならない。
- 15 総合福祉学部・共生まちづくり学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生で（公財）日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者資格「中級パラスポーツ指導員」の資格を得ようとする者は、初級パラスポーツ指導員資格を修得し、（別表36）に定める科目を修め、80時間以上の活動実績を積み重ねなければならない。
- 16 総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生でレクリエーション・インストラクターの資格を修得するためには、「レクリエーション・インストラクター資格取得に関する認定専門科目」（別表38）により本学の3年次又は4年次のうち、1年間で指定科目を修得しなければならない。
- 17 健康科学部保健看護学科の学生で、看護師の国家試験受験資格を取得するためには別表8に定める科目及び単位を修得し卒業しなければならない。また、保健師及び助産師の国家試験受験資格を取得するためには「保健師国家試験受験資格に関する科目」（別表47）、「助産師国家試験受験資格に関する科目」（別表48）に定める所定の選択科目及び単位を修得しなければならない。
- 18 健康科学部リハビリテーション学科の学生で、理学療法士の国家試験受験資格を取得するためには別表9-①、作業療法士の国家試験受験資格を修得するためには別表9-②に定めるそれぞれの科目及び単位を履修方法にしたがって修

得し卒業しなければならない。

- 19 総合福祉学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生で、福祉用具専門相談員の資格を修得するためには、「福祉用具専門相談員資格に関する科目」(別表39)に定める科目及び単位を修得しなければならない。
- 20 総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生で臨床美術課程を履修する者は、「臨床美術課程に関する科目」(別表40)に定める科目及び単位を修得しなければならない。
- 21 総合福祉学部・共生まちづくり学部・応用福祉学連係教育課程の学生で社会貢献活動支援士課程を履修する者は、「社会貢献活動支援士課程に関する科目」(別表41)に定める科目及び単位を修得しなければならない。
- 22 総合福祉学部・共生まちづくり学部・教育学部・健康科学部医療経営管理学科・応用福祉学連係教育課程の学生で、デジタルコンテンツアセッサの資格を得ようとする者は、「デジタルコンテンツアセッサ課程に関する科目」(別表42)に定める科目及び単位を修得しなければならない。
- 23 健康科学部医療経営管理学科の学生で、救急救命士の国家試験受験資格を得ようとする者は、「救急救命士国家試験受験資格に関する科目」(別表43)に定める科目及び単位を修得しなければならない。
- 24 総合福祉学部社会福祉学科の学生で、「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程」を履修しようとする者は、「スクールソーシャルワーク教育課程に関する科目」(別表44)に定める科目及び単位を修得しなければならない。
- 25 応用福祉学連係教育課程の教育課程を履修する学生で、健康運動実践指導者の資格を得ようとする者は、「健康運動実践指導者課程に関する科目」(別表45)に定める科目及び単位を修得しなければならない。
- 26 健康科学部医療経営管理学科の学生で、診療情報管理士の受験資格を得ようとする者は、「診療情報管理士課程に関する指定科目」(別表46)を修めなければならない。

(単位数の算定基準)

- 第36条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。
- (1) 講義及び演習については、15時間から30

時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(単位の授与及び学内単位互換)

- 第37条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。
- 2 授業科目の履修並びに試験に関する規程は別に定める。
 - 3 通学課程において修得した単位と通信教育課程において修得した単位は相互に転換することができる。
 - 4 前項の学内単位互換に関する規程は別に定める。

(大学院授業科目早期履修)

- 第37条の2 本学大学院への進学を志望する学部生は、所属学部において教育上有益と認められる場合には、別に定めるところにより、本学大学院研究科の授業科目を履修することができる。ただし、総合福祉学研究科福祉心理学専攻臨床心理学分野の授業科目及び別に定める科目は除く。
- 2 大学院授業科目早期履修に関する規程は、別に定める。

(成績)

- 第38条 授業科目の試験の成績は、秀・優・良・可・不可の5種の評語をもって表し、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。

第4節 休学・復学・転学・留学・退学及び除籍

(休学)

- 第39条 疾病その他特別の理由により、3カ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

(休学期間)

- 第40条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は通算して4年を超えることはできない。
- 3 休学期間は第18条の在学年限には算入しない。

(復学)

第41条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。復学の許可を得た者は、原年次に帰属する。

- 2 休学者が休学期間を過ぎても、復学・退学・休学の延長願を提出せず、許可を得なかった場合、学長は復学とみなし第62条に定める学費を徴収することができる。

(転学)

第42条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第43条 外国の大学で修学することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は第18条に定める在学期間を含めることができる。
- 3 海外留学に関する規程は別に定める。

(退学)

第44条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第45条 次の各号の一に該当する者は教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 正当な理由がなく授業科目の履修を怠った者
- (2) 所定の期日以降3カ月授業料の納付を怠った者
- (3) 第18条に定める在学年限を越えた者
- (4) 第40条第2項に定める休学期間を越えて、なお修学できない者

第5節 卒業及び学士学位

(卒業)

第46条 本学に4年以上在学し、所定の授業科目及び単位数を取得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2 第3学年次修了時の卒業判定時まで卒業に必要な単位を修得し、別に定める基準に基づいて、特に優秀な成績を修めたと認定された者については、第3学年次修了時に卒業を認めることができる。なお、早期卒業に関する規程は別に定める。
- 3 卒業時の通算GPAが1.50未満の場合は、卒業認定試験を受け、合格しなければならない。GPAについては、別に定める。
- 4 学長は卒業を認定した者に対して学位記・卒業証書を授与する。

(学士学位)

第47条 卒業した者には、次の区分に従い、学士学位を授与する。

学部	学科	学位名称
総合福祉学部	社会福祉学科	学士(社会福祉学)
	福祉心理学科	学士(福祉心理学)
	福祉行政学科	学士(福祉行政学)
共生まちづくり学部	共生まちづくり学科	学士(産業福祉学)
教育学部	教育学科	学士(教育学)
健康科学部	保健看護学科	学士(看護学)
	リハビリテーション学科	学士(リハビリテーション学)
	医療経営管理学科	学士(医療経営管理学)
応用福祉学連係教育課程		学士(応用福祉学)

第6節 賞罰

(表彰)

第48条 学生及び本学学生を構成とする団体が表彰に値する行為があったものは、教授会の議を経て学長が表彰することができる。

(特待生)

第49条 全学の成績上位3%以内の学生のうち学術優秀、品行方正の者を選考の上、特待生とし授業料の全部又は一部を免除することができる。

(懲戒)

第50条 学生で本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長が懲戒を行う。

- 2 懲戒の種類は退学・停学・譴責とする。
- 3 前二項の懲戒に関し、必要な事項は別に定める。

第7節 厚生補導

(厚生補導)

第51条 大学は学生の厚生補導に関して助言指導を行う。

- 2 前項の厚生補導の運営等に関する規程は別に定める。

(厚生施設及び保健)

第52条 本学に厚生施設を置く。

- 2 前項の厚生施設の運営等に関する規程は別に定める。
- 3 毎学年定期に学生及び教職員の健康診断を行う。

第8節 委託生・研究生・聴講生・科目等履修生・特別科目等履修生・単位互換学生及び外国人留学生等

(委託生)

第53条 官公庁・法人・外国政府及び他の大学等から委託された学生は、教授会の議を経て、学長は委託生として入学を許可することができる。

- 2 委託生に関する規程は別に定める。

(研究生)

第54条 本学に研究生を受け入れることができる。

- 2 研究生は本学の卒業生又は同等以上の資格を有する者で、研究生を志願する者は、事前に指導教員の承諾を得た上、教授会の議を経て、学長によって入学を許可された者をいう。
- 3 研究生に関する規程は別に定める。

(聴講生)

第55条 本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、学部の教育に支障のない場合に限り、選考の上、教授会の議を経て、学長は聴講生として入学を許可することができる。

- 2 聴講生に関する規程は別に定める。

(科目等履修生)

第56条 本学所定の授業科目中、総合福祉学部、共生まちづくり学部、教育学部及び応用福祉学連係教育課程の特定の科目について履修を希望する者があるときは、選考の上、科目等履修生としてこれを許可することがある。

- 2 科目等履修生は、その履修した科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、授業科目所定の単位を与える。
- 3 科目等履修生に関する規程は別に定める。

(特別科目等履修生)

第56条の2 本学通信教育部の正科生で通学課程の授業の履修を許可された者を特別科目等履修生とする。

- 2 特別科目等履修生に関する規程は別に定める。

(単位互換学生)

第57条 仙台圏単位互換協定を締結した他の大学及び短期大学並びに高等専門学校で本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学との協議に基づき、単位互換学生として履修を許可することができる。

- 2 国内留学に関する単位互換協定又は学生交流協定を締結した他の大学及び短期大学並びに高等専門学校の学生で本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学との協議に基づき、国内留学単位互換学生として履修を許可する。
- 3 単位互換学生の規程については、別に定める。

(外国人留学生・交換留学生)

第58条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

- 2 外国人留学生の入学に関する規程は別に定める。
- 3 交換留学生については、本学と外国の大学又はそれに相当する高等教育機関との学生の留学に関する交流協定に基づき、学生を交換留学生として双方で受入ないしは派遣することがある。

- 4 交換留学生に関する規程は別に定める。

(準用規程)

第59条 委託生・研究生・聴講生・科目等履修生・特別科目等履修生・単位互換学生・外国人留学生及び交換留学生には、別段の規定がない限り学生に関する規程を準用する。

第9節 学 費

(学 費)

第60条 入学検定料・入学金・授業料・施設設備資金・教育環境整備費・厚生費等は、別添2のとおりとする。

(課程履修費、任意の実験実習費等)

第61条 前条の他、資格取得のための課程履修費及び実験実習費等を別途徴収する。

(復学等の場合の学費)

第62条 復学を許可された学生の学費は、その者の入学年次に定められた学費をスライドさせた金額とする。

(学年の途中で卒業する場合の学費)

第63条 卒業年次以降の学年途中で卒業する見込の者は、当該期間の学費を納付するものとする。

(退学及び停学等の場合の学費)

第64条 学年の途中で退学し、又は除籍された者の当該期間の学費は徴収する。

- 2 停学期間中の学費は徴収する。

(休学の場合の学費)

第65条 休学を許可され、又は命ぜられた者については、休学期間中は在籍料を納付しなければならない。ただし、学期の途中で休学する場合は、その期の所定の学費は納入しなければならない。

- 2 在籍料は別に定める。

(委託生・研究生・聴講生・科目等履修生・特別科目等履修生・外国人留学生等の学費)

第66条 委託生・研究生・聴講生・科目等履修生・特別科目等履修生・外国人留学生・交換留学生の入学検定料及び学費等については別に定める。

(納付した学費等)

第67条 納付した学費等の返戻に関しては、消費者契約法及び関係法規に基づき処理する。

第10節 公開講座

(公開講座)

第68条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため本学に公開講座を開設することができる。

第11節 雑 則

(細 則)

第69条 この学則に必要な細則は別に定める。

【学部・学科・連係教育課程の 教育研究上の目的】

建学の精神（行学一如）に則り、人類の幸福の追求と国際社会並びに地域社会の発展に貢献できる人材養成を目的として、以下の学部、学科を設置する。

I. 総合福祉学部

多角的視野から教育・研究に取り組み、知識、技術、社会的実践力を錬磨し、福祉社会の実現に資する人材の養成を目的とする。

① 社会福祉学科

人々のWell-beingの実現に貢献する福祉人材を養成する。

② 福祉心理学科

多様な価値観を持つ他者と協働しながら、心理学を核とした幅広い専門知識や技能、実証的分析力を人々や社会のWell-beingの実現のためにいかすことのできる力、すなわち「心理実践力」を備えた人材を養成する。

③ 福祉行政学科

公共性及び社会的連帯を基軸に、潜在的な社会的諸問題を発見し、それら諸問題を世の中に発信する力と、官民協働により社会的諸問題を解決できる地域社会の発展に貢献しようという意思と意欲を持つ人材を養成する。

II. 共生まちづくり学部

現代の地域課題に対応した複合領域の知識と地域フィールドでの実践的な学びから、地域の経済・社会・観光・文化、イノベーションやアントレプレナーシップ、AI等のICTを含む実践知を培い、持続可能な共生のまちづくり、地域づくりに貢献できる人材の養成を目的とする。

① 共生まちづくり学科

- Well-beingを実現する共生のまちづくりのために、教員の複合分野を活かし、持続可能な共生の地域・まちの実現を1つの学科として追求する。
- 地域が前向きに活性化に取り組むための新しい価値の創造、すなわち課題解決をこえて誰もがその人らしい生き方のできる共生のまちづくりが実現できるよう、イノベーション、アントレプレナーシップを意識した実践的な教育を行う。
- 学生は理論的な学びに加えて地域のフィールドを活かしたプロジェクト型の実践的な学びを推進する。
- 以上について、3つの領域（地域経済・経営領域、社会起業・地域創生領域、観光・文化領域）の学びをいかして「新しいまちづくり」を追求、実践する。
- これらにより、以下の能力の獲得を目指す。

- 興味・関心：実践的な視点を持って議論ができる。

- 知識・技能：応用的な地域課題への探究の姿勢（課題発見力・解決策の構想力）を身につけることができる。

- 実践的理解：他者と協調・協働できる、リーダーシップを発揮できる、自己の良心と社会の規範やルールに従った行動ができる。

III. 教育学部

豊かな教養と人間性を基礎に据え、保育・教育への熱意、高度な専門性、研修意欲等を備え、乳幼児・児童・生徒の保育・教育に柔軟に対応できる人材の養成を目的とする。

① 教育学科

多様化・複雑化する現代社会において、さまざまな教育的課題に適応できる保育士・教員などの人材を養成する。

IV. 健康科学部

Well-beingな社会を目指し、人間を全人的に捉え、「生命の尊重」「人としての尊厳」を基盤に持つ人材の養成を目的とする。

① 保健看護学科

多様な場において、多職種とよりよい人間関係を築きながら、対象者のWell-beingを探究し、問題の本質を見極め対象者中心の看護を実践する保健・医療において活躍する人材を養成する。

② リハビリテーション学科

広い視野を持ち、保健医療福祉のシステムの中で豊かな人間性、高度な知識と技術、科学的探究心や協調性、使命感を有する人材を養成する。

③ 医療経営管理学科

医療・いのちにかかわる仕事に憧れ、その仕事に就くことで他者のため、社会のために役立つ人材を養成する。

V. 応用福祉学連係教育課程

既設の3学科で展開されているそれぞれのコアとなる学びを、AI/データサイエンス教育を通して社会のWell-being実現に向けて有機的に再構成し、大きく次の3つの力を身につけさせることを目的とする。

- 福祉環境を多面的に理解し、幅広く深い教養と専門領域を修めるとともに、科学的な考え方や先進的なICT技術を活用することによって、生活者それぞれのライフステージのなかで「幸せ」と「安心」を追究しながら社会全体の発展に寄与でき、問題を主体的に解決できる力。
- 地域の課題解決や活性化に資する社会起業やイノベーションについて学び、前例にとられない考え方や方法を生み出すとともに、社会起業家的精神を持って多様な主体との連携をコーディネートする力。
- 人々の医療・健康を維持していく社会システムのあり方について深い興味と関心を持ち、心身の健康に関する最新の知見と、様々な環境に置かれている

生活者の状況に応じた健康管理・維持をおこなっていく力。

別添 2

【東北福祉大学 学費】

項 目	学 部 (学科)	
	総合福祉・教育・共生まちづくり・健康科学部 (医療経営管理)・応用福祉学連係教育課程	健康科学部 (保健看護・リハビリテーション)
入学金 (入学時)	200,000円	200,000円
授業料 (年額)	733,000円	1,000,000円
施設設備資金 (年額)	241,000円	300,000円
教育環境整備費 (年額)	50,000円	50,000円
厚生費 (年額)	20,000円	20,000円
実験施設維持費 (年額)	35,000円 (福祉心理学科)	250,000円
実習費 (1年次)		100,000円
後援会費 (年額)	24,200円	24,200円

1 2年次以降の学費はスライド制の適用により改訂する。

スライド制を適用するときの変動率 (対前年度アップ率) は原則として次のものを基準とする。

- (1) 授業料については、人事院による「国家公務員の給与に関する勧告」によって示された国家公務員給与の対前年度アップ率に、同じく定期昇給のアップ率分を加算したものによる。
- (2) 施設設備資金については消費者物価指数 (総務省統計局調査) の対前年度アップ率による。

2 学費納付の細則は別に定める。

3 2年次以降の実習費については別に定める。

4 学則第65条 (休学の場合の学費) に基づく在籍料は、原則として、半期60,000円とする。厚生費等は別途徴収する。

関係諸規程一覧

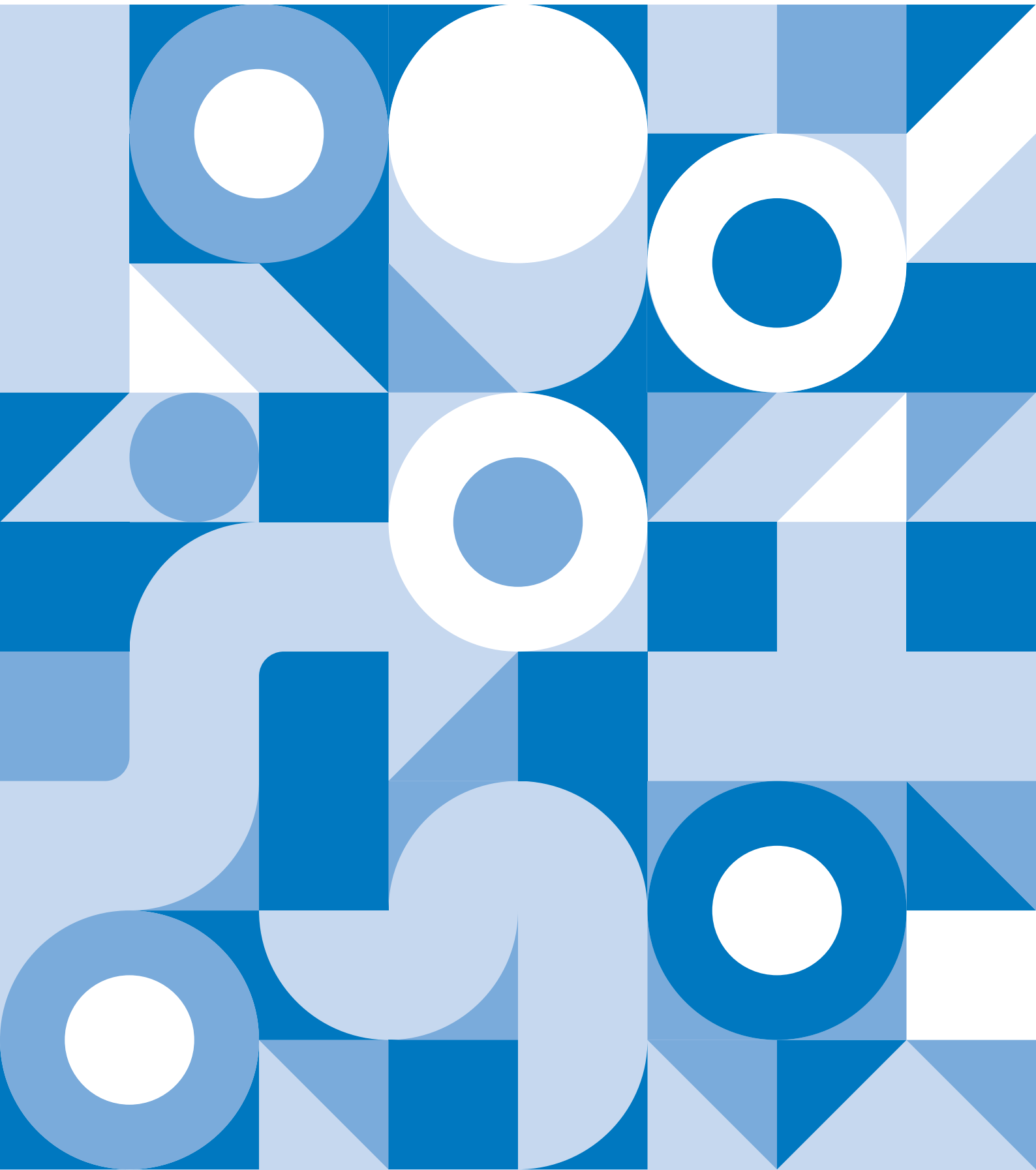
規程種別	掲載場所
学費等納付細則	各種規程の内容は、UNIPAの「各種資料ダウンロード」の教務課掲載資料を参照してください。
卒業延期制度に関する特則	
東北福祉大学履修規程	
試験規程	
4年次特別再試験規則	
通学の課程における学内単位互換に関する規程	
学生の海外留学に関する規程	
科目等履修生規程	
聴講生規程	
東北福祉大学資格規程	
研究生規程	
東北福祉大学私費外国人留学生学費等減免規程	
東北福祉大学転学部・転学科に関する規程	
東北福祉大学緊急時授業等取扱内規	

2026年4月1日 発行

発行者 **東北福祉大学**

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1

TEL 022-233-3111 (代)



Tohoku Fukushi University